

## プラスチックの資源化について

### 1 目的

「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が令和4年4月1日に施行され、更なる資源の有効活用、ごみ排出量の抑制及び区民の環境への意識向上を目的としてプラスチックごみの資源化が求められている。

これらのことを踏まえ、現在、可燃ごみとしているプラスチックを資源化して有効活用することで、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出削減や最終処分場の延命を図り、環境への負担軽減、ゼロカーボンいたばし2050及びSDGsの理念への貢献を図る。

### 2 開始日

令和6年4月1日

### 3 資源化の概要

#### (1) 回収するプラスチックの種類

- ① 家庭から排出される、材質が「すべて」プラスチックでできたもので、概ね30センチメートル角以内のもの
- ② 商品を入れたものや包んだものであって、中身の商品を取り出し、使用後に不要となるプラスチック製のもの

回収の可否	製品・商品の例	種別
回収できるもの	食品トレイ、発泡スチロール製品、シャンプーや洗剤のボトル、菓子袋、カップ麺の容器、卵のパック、レジ袋、ペットボトルのキャップ、プラスチック製ハンガー、プラスチック製のおもちゃ、ラップ等	資源
回収できないもの	・ペットボトル ・汚れているもの ・ライター、カミソリ等金属が付着した物 ・30cm角を超えるもの	→資源 →可燃ごみ →不燃ごみ →粗大ごみ

#### (2) 収集運搬

週1回の資源回収曜日に集積所にて回収を行う。

#### (3) 中間処理

中間処理施設(2施設を予定)において、ベール化(収集したプラスチックを圧縮して結束し、梱包)する。

#### (4) 資源化

ベール化したものを資源化施設にてプラスチック製品再商品化のための原材料や化学製品の原料として再利用する。

#### 4 CO<sub>2</sub>削減効果

年間 約 2, 460 ~ 8, 300 t-CO<sub>2</sub> (資源化の手段により数値が変動する)  
(「廃プラスチックの分別収集導入に係る調査報告書」(令和5年3月)推定値)

#### 5 廃プラスチックの分別収集導入に係る調査(令和4年度実施)

概要(別紙1)、本編(別紙2)のとおり

#### 6 区民への周知

- ・ 全地域センターの管轄施設を使用して、区民向け説明会を54回実施予定
- ・ 「かたつむりのおやくそく」ハンドブックの全戸配付
- ・ 「広報いたばし」掲載
- ・ 区公式サイト、SNSでの情報発信
- ・ 本庁舎1階プロモーションスペースでのパネル展示
- ・ 事務事業連絡会、関係団体(産連、商連等)での周知

#### 7 スケジュール等

期日・期間	行 事	備 考
6月12日	区民環境委員会	方向性及び事前調査結果報告
8月1日	庁議	住民説明会等、周知方法等報告
8月23日	区民環境委員会	住民説明会等、周知方法等報告
9月4日	事務事業連絡会	住民説明会等、周知方法等報告
9月9日	広報いたばし	特集記 事掲載
10月上旬 ~12月中旬	住民説明会	全地域センター管内巡回等
11月8日	資源環境審議会	
11月下旬 ~12月中旬	かたつむりのおやくそく ハンドブック作成	全戸配付
1月23日	庁議	住民説明会及び周知実施状況の報告
2月中旬	プロモーションスペース での周知	パネル展示
2月15日	区民環境委員会	住民説明会及び周知実施状況の報告
4月1日	プラスチックの資源化開始	

## 廃プラスチックの分別収集導入に係る調査の報告について

### 1 調査の概要

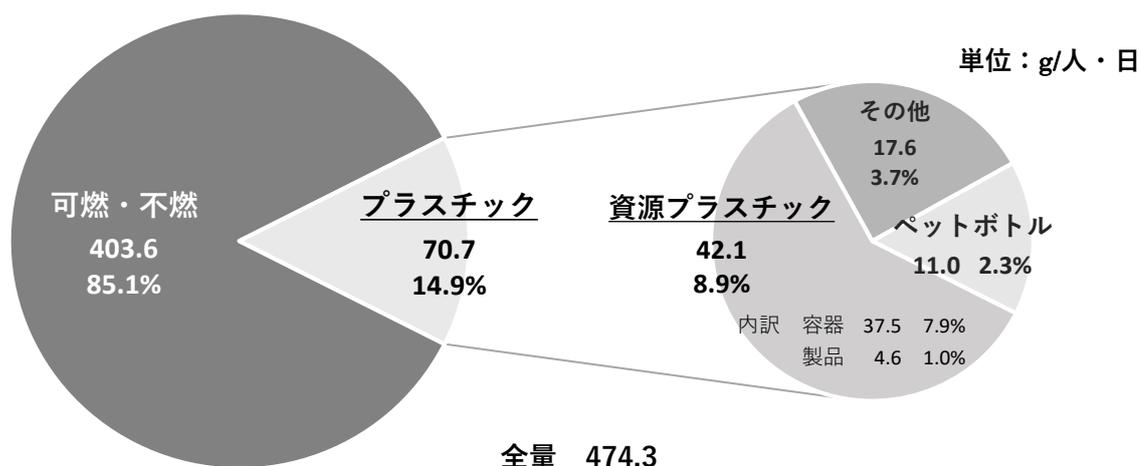
目的	廃プラスチックの分別収集を導入するために必要な調査・分析を行う	
項目	①モニター調査	②モニターアンケート
	③区民アンケート調査	④データの集計・解析・考察
期間	令和4年5月11日～令和5年3月31日	

### 2 モニター調査 (P2～P16)

モニター世帯(110世帯)から、プラスチックを資源とする分別方法で排出されたごみ及び資源を回収し、分別状況の把握と組成分析を行った。

資源プラスチックの組成比率

→ 排出されたごみのうち、リサイクル可能な資源プラスチックの割合



【表 1-19(P13)から作成】

ごみの全量 474.3 g/人・日に占める資源プラスチック割合は 8.9% で、42.1g/人・日

資源プラスチックの排出割合

→ 正確に分類できた割合は 88.4%

単位：g/人・日

品目(リサイクル可能なものに限る)	排出量	内、プラスチックへの排出
プラスチック製容器包装	37.5 (100%)	33.4 (89.1%)
製品プラスチック	4.6 (100%)	3.8 (82.6%)
合計	42.1 (100%)	37.2 (88.4%)

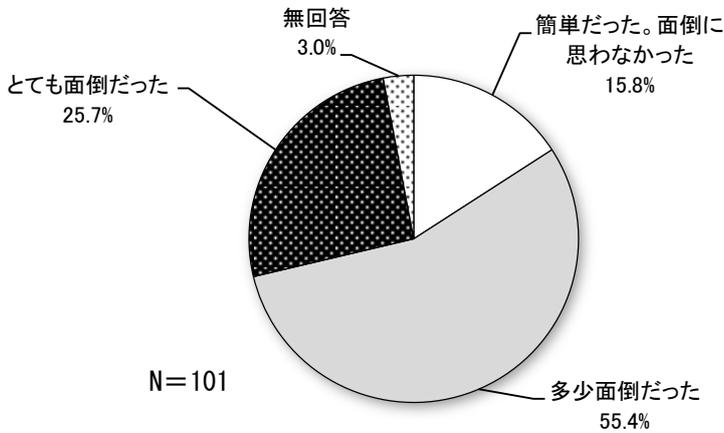
※資源プラスチックについて、適切な説明・周知を行えば大部分が分別して排出されている。

※以下、「プラスチック製容器包装」と「製品プラスチック」を合わせた「資源プラスチック」を「全プラスチック」という。

### 3 モニターアンケート (P17~P26)

モニター調査終了後、モニター世帯に対しアンケートを実施した。

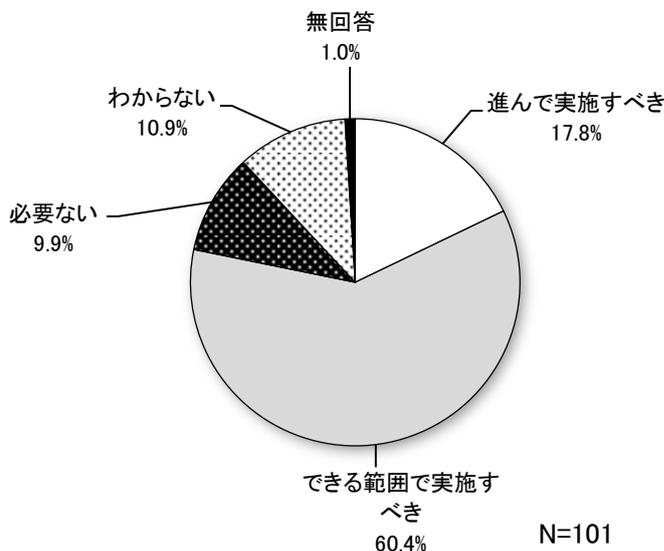
問 1(1) プラスチックの分別排出を実際に行っていたか。 (1つに○)



「多少面倒だった」と「とても面倒だった」を合わせると、分別が面倒だったとの回答が 81.2%であった。

※「多少面倒だった」「とても面倒だった」理由として、「汚れたプラスチックを洗うこと」、「収集日まで保管すること」、「分別が分からない、迷う品目があったこと」が多かった。

問 2(1) プラスチックを資源として分別し、週 1 回収集することについて、あなたはどのように思いますか。(○は 1つ)



「進んで実施すべき」と「できる範囲で実施すべき」を合わせると、実施すべきとの回答が 78.2%であった。

**実施すべきと思う主な理由**

- ・ごみの減量や温室効果ガス削減につながる
- ・具体的なことはよくわからないが、環境に優しい施策ならばやるべき

※「必要ない」「わからない」と回答した理由としては、「分別の手間が増える」、「現在の処理方法の方が効果的・効率的である」、「分別収集で得られる効果が分からず、判断できない」が合わせて 90.9%を占めた。

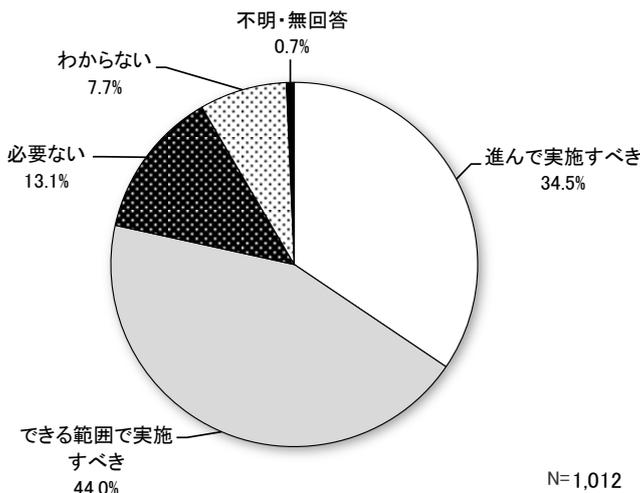
プラスチックの分別排出は面倒であるとの意見が約 8 割を占める一方で、プラスチックを資源として分別し、週 1 回収集することについても約 8 割が肯定的な意見であった。

#### 4 区民アンケート調査 (P27~P49)

無作為に抽出した 2,000 世帯を対象に区民アンケートを実施し、プラスチックの分別収集などに関する意向を調査した。

発送数 a	宛先不明等による返還数 b	返送数 c	回答率 c/(a-b)
2,000 通	13 通	1,012 通	<u>50.9%</u>

問 2-1 プラスチックを資源として分別し、週 1 回収集することについて、あなたはどのように思いますか。(○は 1 つ)



「進んで実施すべき」と「できる範囲で実施すべき」を合わせると、実施すべきとの回答が 78.5%であった。

##### 実施すべきと思う主な理由

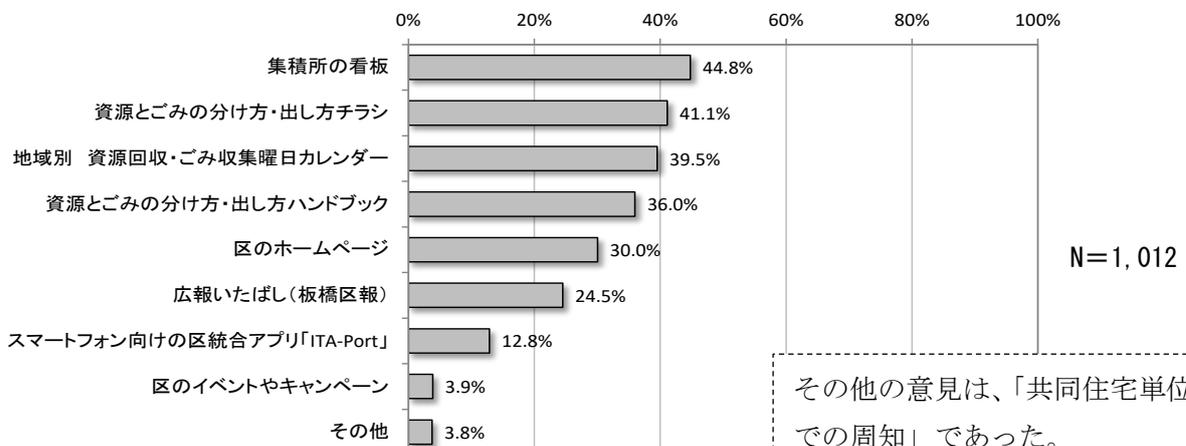
- ・ごみの減量や温室効果ガス削減につながる
- ・具体的なことはよくわからないが、環境に優しい施策ならばやるべき

※モニターアンケート同様、区民アンケート調査においても、約 8 割が「実施すべき」と回答した。

また、プラスチックの分別等の手間 (問 2-4) については、「特に手間と思わない」、「手間だと思うが、できる限り協力したい」との意見が合わせて 80.4%を占めた。

なお、「必要ない」「わからない」と回答した理由は、モニターアンケートと同様であった。

問 3-2 プラスチックを資源として分別するなど、資源・ごみ分別ルールの変更に関する情報はどこから入手したいですか。(○はいくつでも)



その他の意見は、「共同住宅単位での周知」であった。

## 5 データの集計・解析・考察 (P50~P71)

### (1) 論点整理 (全プラスチック部分抜粋)

#### ①ごみ減量効果・資源化率の向上効果 (年間)

モニター調査で得られたデータに、世帯人員別人口比(令和2年国勢調査)による補正を加えた結果から推計したごみ・プラスチック量、資源化率は以下のとおりである。

	現状	プラ分別収集実施	効果
ごみ量	104,293 t	100,249 t	▲4,044 t (▲3.9%)
全プラスチック量	41 t	4,085 t	4,044 t (+9,863%)
資源化率	22.2%(※)	25.2%	3.0ポイント増(+3%)

※本報告書においては、オフィス・商店街収集が除かれていることから資源環境審議会における報告値(22.5%)とは異なる。

#### ②CO<sub>2</sub>削減効果 (年間)

単位：t-CO<sub>2</sub>

項目	リサイクル手法		
	マテリアルのみ	マテリアル・ケミカル併用	ケミカルのみ
収集運搬に伴うCO <sub>2</sub> 増	173	173	173
再商品化によるCO <sub>2</sub> 削減	▲6,066	▲8,989	▲11,911
清掃工場のエネルギー回収量減少によるCO <sub>2</sub> 増	3,434	3,434	3,434
全体	▲2,459	▲5,382	▲8,304

※上記、削減量は、あくまでもパッカー車のみによる収集及びプラスチック分別収集推計量に基づくものであるため、実際には増減する可能性がある。

#### ③分別収集・再資源化にかかる費用 (年間)

部門	数量	単価	コスト増分
収集運搬	12台増	2,400万円/台	288,000千円
選別・圧縮・保管	4,085 t	7万円/t	285,940千円
再商品化(プラスチック製容器包装)	3,288 t	555円/t	1,825千円
再商品化(製品プラスチック)	388 t	55,492円/t	21,538千円
合計			597,303千円

※上記は、プラスチック分別収集推計量に基づくものであり、また収集運搬における台数は、収集区域によって狭小路地が多い、大規模集合住宅がある等の要因により増えることがあるため、推計以上に費用を要する可能性がある。

### (2) プラスチック資源分別収集導入方式の提案

- ・(導入方式) 全プラスチックを対象とした分別収集導入
- ・(導入スキーム) プラスチック資源循環促進法 32条に基づく指定法人委託
- ・分別変更に係る周知
- ・洗浄等の基準などの周知
- ・家庭内での保管
- ・集積所への適正排出等に係る周知

廃プラスチックの分別収集導入に係る調査  
報告書

令和5年3月

板橋区



# 目 次

調査の概要	1
1 調査目的	1
2 調査項目	1
3 報告書の共通事項	1
第1章 モニター調査	2
1.1 調査概要	2
1.2 調査の流れ	5
1.3 調査結果	6
1.4 資源プラスチックの排出原単位	13
第2章 モニターアンケート	17
2.1 調査概要	17
2.2 プラスチック分別（案）について	17
2.3 プラを資源として分別収集することについて	21
2.4 その他、今回のモニター調査やプラスチックの分別収集について（自由記入）	25
第3章 区民アンケート調査結果	27
3.1 調査概要	27
3.2 回答世帯の属性	27
3.3 プラスチックごみ問題について	30
3.4 プラスチックごみの分別収集・リサイクルについて	37
3.5 現在のごみ・資源物収集について	45
3.6 ごみ問題やリサイクルに関する意見・要望等（自由記入）	47
第4章 プラスチック資源分別収集量の推定	50
4.1 モニター調査結果の解析	50
4.2 分別収集量の推定	54
第5章 二酸化炭素削減効果の推定	58
5.1 推定方法	58
5.2 二酸化炭素削減効果の推定	58
第6章 分別収集にかかる費用の分析	64
6.1 費用分析の方法	64
6.2 費用分析結果	66
第7章 プラスチック分別収集導入に向けた提案	67
7.1 プラスチック資源の分別収集導入に向けた論点整理	67
7.2 プラスチック資源分別収集導入方式の提案	69
7.3 その他分別収集導入に向けた提案	71
資料編	73
1 モニター世帯アンケート調査票	73

2 区民アンケート調査票 .....	77
--------------------	----



# 調査の概要

---

## 1 調査目的

本調査は、廃プラスチックの分別収集を導入するために必要な調査・分析を行うことを目的とする。

## 2 調査項目

本調査の項目は以下のとおりである。

### (1) モニター調査

調査に協力いただけるモニターを募り、プラスチックを資源として1週間分別排出していただき、モニター世帯からごみや資源を回収し組成分析を行った。このデータから、一人1日あたりの排出量（以下、排出原単位という）を算出した。

### (2) モニターアンケート

モニター調査対象世帯にプラスチックの分別等に関するアンケートを配布し、モニター期間終了後に回収・集計した。

### (3) 区民アンケート調査

住民基本台帳から区内2,000世帯を無作為抽出し、プラスチックの分別収集等に関するアンケート調査を実施した。

### (4) データの集計・解析・考察

上記調査及び既存資料よりプラスチック資源分別収集量や二酸化炭素削減効果の推定、分別収集にかかる費用分析を行うとともに、分別収集導入に向けた考察・提案等をまとめた。

## 3 報告書の共通事項

- ①表やグラフ中の合計値が、端数処理のため一致しない場合がある。
- ②表やグラフ中で「0.0」と表示されているところは、表示されている小数点よりも小さい値がある場合を、また、空欄は値がない場合を表している。

# 第1章 モニター調査

## 1.1 調査概要

### (1)調査地区

クラスター分析により地域特性解析を行い、板橋区内を5つの地域に分類した。分類したクラスターからそれぞれのクラスターの特徴を代表する調査地区を2地区ずつ選定し、合計10地区を調査地区とした。調査地区を表1-1に示す。

表 1-1 クラスターと調査対象地区

クラスター	調査対象地区
クラスター1	高島平1丁目
	成増3丁目
クラスター2	稲荷台
	南町
クラスター3	小豆沢1丁目
	相生町
クラスター4	前野町4丁目
	中台2丁目
クラスター6	西台2丁目
	徳丸4丁目

#### クラスター分析

クラスター分析とは、集団（対象）の中から個々のサンプルの持つ変数（性質）を用いて、サンプル全体を「似ている」「近い」といった尺度でいくつかのクラスター（群れ）に分類する分析手法を総称したものであり、数値分類法とも呼ばれる。分析の目的や用途に応じて様々な手法があるが、ここでは、一般的な凝集法による階層的クラスター分析法を用いた。

### (2)調査方法

調査対象地区の各家庭を訪問し、調査の趣旨を説明し、調査に協力いただけるモニターを募り、148世帯が参加した。家庭から発生したごみ及び資源を回収し、組成分析を行った。辞退（12件）、未排出（12件）、不完全な排出（14件）を除いた110世帯を有効世帯とし分析対象とした。なお、最終日にアンケートを配付した。

### (3)調査日程

調査日程は表 1-2 に、調査期間中の回収日は表 1-3 のとおりである。

表 1-2 モニター調査の調査日程

作業項目	期間
調査への参加依頼	令和4年9月20日(火)～10月15日(土)
調査セットの配付	令和4年10月17日(月)～18日(火)
調査期間	令和4年10月24日(月)～29日(土)
調査分析期間	令和4年10月24日(月)～29日(土)、31日(月)

表 1-3 調査期間中の回収日

分別区分	回収回数	回収日
可燃ごみ	3回	調査期間中の各調査対象地域の収集曜日に回収
不燃ごみ	1回	
資源(古紙、びん、缶、ペットボトル)	1回	
資源(プラスチック)	1回	調査期間中の最終日:10月29日(土)

### (4)調査日の天気

本調査期間中の天気は表 1-4 のとおりである。

表 1-4 調査日の天気

調査日	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
天気	くもり	くもり	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ

### (5)分析作業場所

調査は板橋清掃工場で行った。

### (6)分析項目

組成分析項目は表 1-5 のとおりである。

表 1-5 組成分類項目 (1)

No.	大分類	中分類	小分類	細分類	資源	プラ対象		
1	可燃物	紙類	新聞紙		●			
2			雑誌・書籍		●			
3			段ボール		●			
4			紙製容器包装		●			
5			雑紙		●			
6			その他紙類(リサイクル不可)					
7		厨芥						
8		繊維		リサイクル可	●			
9				リサイクル不可				
10		草木						
11		廃油						
12		ゴム・皮革						
13		その他可燃物						
14		容器包装プラスチック類	フィルム		リサイクル可		容リ	
15					リサイクル不可			
16			レジ袋		リサイクル可		容リ	
17					リサイクル不可			
18			ペットボトル		リサイクル可	●		
19					リサイクル不可			
20			食品・飲料ボトル		リサイクル可		容リ	
21					リサイクル不可			
22			その他ボトル		リサイクル可		容リ	
23					リサイクル不可			
24			キャップ類	キャップ類		リサイクル可		容リ
25						リサイクル不可		
26				パック・カップ類		リサイクル可		容リ
27						リサイクル不可		
28				チューブ類		リサイクル可		容リ
29						リサイクル不可		
30				トレー		リサイクル可		容リ
31						リサイクル不可		
32			発泡スチロール		リサイクル可		容リ	
33					リサイクル不可			
34		その他容器包装対象プラスチック		リサイクル可		容リ		
35				リサイクル不可				
36	製品プラスチック(プラ100%)					製品		
37	その他のプラスチック使用製品	金属とのプラスチック複合品						
38		電池入りのプラスチック複合品						
39		医療用プラ製品						
40		その他						
41	ガラス	リターナブルびん		●				
42		ワンウェイびん		●				
43		その他ガラス(割れビン含む)						
44	金属類	鉄類(飲食用)		●				
45		非鉄金属(飲食用)		●				
46		傘						
47		その他金属						
48	その他不燃	乾電池等						
49		ライター						
50		スプレー缶						
51		蛍光灯						
52		小型家電製品						
53		その他(陶磁器等)						
54		処理困難物	石・土砂等					

## 1.2 調査の流れ

本調査の流れは以下のとおりである。

### (1)家庭への協力依頼

各家庭を訪問し、調査への協力を依頼した。

### (2)調査セットの配付

調査に協力していただける家庭へ、以下の物が入った調査セットを配付した。

表 1-6 配布した調査セットの内訳

	品目	数量	説明
1	廃プラスチックの分別収集導入検討調査について	1冊	調査の実施方法が書かれている。
2	青色袋(45リットル)	20枚	可燃ごみ、不燃ごみ、資源をそれぞれ入れるための袋
3	透明袋(10リットル)	30枚	生ごみを入れるための袋で、生ごみをこの袋に入れて可燃ごみの青色袋に入れて排出する。
4	識別シール	2シート	青色袋に貼り、調査用のごみ・資源であることを識別するためのシール

### (3)サンプルの回収

調査期間中に、調査地区の収集日に合わせて回収を行った。回収は午前8時～午前11時で行った。

### (4)サンプルの分析

分析は各家庭の袋ごとに開封し、以下の手順で行った。

#### ①サンプルの搬入

家庭から回収したサンプルを分析作業場所に搬入した。

#### ②組成別に分類

分析対象サンプルを、識別シールを参照しながら家庭ごとに組成分析項目別に分類した。

#### ③組成別に計量

分類したサンプルを組成分析項目別に計量した。

### 1.3 調査結果

#### (1)調査世帯の属性

今回の調査に協力したモニターの属性は表 1-7～表 1-10 以下のとおりである。

表 1-7 モニターの属性（世帯数）

	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	合計
世帯数	20	40	20	20	7	3	110
比率	18.2%	36.4%	18.2%	18.2%	6.4%	2.7%	100.0%

表 1-8 モニターの属性（高齢者）

	有	無	合計
世帯数	64	46	110
比率	58.2%	41.8%	100.0%

表 1-9 モニターの属性（世帯形態）

	勤労	自営業	学生・年金	その他	合計
世帯数	56	4	49	1	110
比率	50.9%	3.6%	44.5%	0.9%	100.0%

表 1-10 モニターの属性（住居形態）

	戸建住宅	集合住宅	合計
世帯数	65	45	110
比率	59.1%	40.9%	100.0%

#### (2)排出原単位及び組成比率

##### ①分別区分別

分別区分別の排出原単位及び組成比率は表 1-11～表 1-14 とおりである。

表 1-11 排出原単位（中分類、分別区分別）

単位:g/人・日

中分類	可燃ごみ	不燃ごみ	資源	プラスチック	合計
紙類	84.8	0.0	89.9	0.5	175.2
厨芥	132.6			0.1	132.7
繊維	6.6				6.6
草木	9.7			0.0	9.7
廃油	0.5				0.5
ゴム・皮革	1.0	0.0		0.0	1.0
その他可燃物	33.5	0.0		0.2	33.7
容器包装プラスチック類	16.5	0.3	10.7	37.4	64.9
製品プラスチック	0.5	0.3		3.8	4.6
その他のプラスチック使用製品	0.3	0.7		0.2	1.2
ガラス		1.7	25.3		26.9
金属類	0.2	2.8	9.7	0.0	12.7
その他不燃	0.0	4.4			4.4
処理困難物					
合計	286.2	10.3	135.5	42.3	474.3

表 1-12 組成比率（中分類、分別区分別）

中分類	可燃ごみ	不燃ごみ	資源	プラスチック	合計
紙類	29.6%	0.0%	66.3%	1.2%	36.9%
厨芥	46.3%			0.2%	28.0%
繊維	2.3%				1.4%
草木	3.4%			0.0%	2.0%
廃油	0.2%				0.1%
ゴム・皮革	0.3%	0.4%		0.0%	0.2%
その他可燃物	11.7%	0.3%		0.5%	7.1%
容器包装プラスチック類	5.8%	3.3%	7.9%	88.4%	13.7%
製品プラスチック	0.2%	2.7%		8.9%	1.0%
その他のプラスチック使用製品	0.1%	6.4%		0.6%	0.3%
ガラス		16.5%	18.6%		5.7%
金属類	0.1%	27.6%	7.1%	0.1%	2.7%
その他不燃	0.0%	42.7%			0.9%
処理困難物					
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 1-13 排出原単位（細分類、分別区分別）

単位:g/人・日

No.	中分類	小分類	細分類	可燃ごみ	不燃ごみ	資源	プラスチック	合計	
1	紙類	新聞紙		4.9		43.3		48.2	
2		雑誌・書籍		4.4		24.7	0.0	29.1	
3		段ボール		3.4	0.0	17.1	0.0	20.5	
4		紙製容器包装		19.9		3.7	0.3	23.9	
5		雑紙		18.2		1.1	0.1	19.4	
6		その他紙類		34.1		0.1	0.1	34.2	
7	厨芥			132.6			0.1	132.7	
8	繊維		リサイクル可	1.2				1.2	
9			リサイクル不可	5.4				5.4	
10	草木			9.7			0.0	9.7	
11	廃油			0.5				0.5	
12	ゴム・皮革			1.0	0.0		0.0	1.0	
13	その他可燃物			33.5	0.0		0.2	33.7	
14	容器包装プラスチック類	フィルム	リサイクル可	2.0			13.1	15.1	
15			リサイクル不可	7.4	0.0		1.4	8.8	
16		レジ袋	リサイクル可	0.6	0.0	0.0	1.0	1.7	
17			リサイクル不可	0.8	0.0		0.2	1.0	
18		ペットボトル	リサイクル可	0.0	0.0	10.2	0.1	10.4	
19			リサイクル不可	0.2		0.4	0.0	0.7	
20		食品・飲料 ボトル	リサイクル可	0.1			1.3	1.4	
21			リサイクル不可	0.4	0.0		0.2	0.5	
22		その他ボト ル	リサイクル可	0.0		0.0	3.2	3.3	
23			リサイクル不可	0.6	0.0		0.2	0.7	
24		キャップ類	リサイクル可	0.1	0.0	0.0	0.9	1.0	
25			リサイクル不可	0.0			0.0	0.0	
26			バック・カッ プ類	リサイクル可	0.5	0.0		11.2	11.7
27				リサイクル不可	2.1			1.7	3.8
28			チューブ類	リサイクル可	0.0			0.0	0.1
29				リサイクル不可	0.7		0.0	0.1	0.9
30			トレー	リサイクル可	0.1			1.9	2.0
31				リサイクル不可	0.2			0.1	0.3
32			発泡スチ ロール	リサイクル可	0.0	0.2		0.5	0.8
33				リサイクル不可	0.0	0.0			0.0
34	その他容器包装 対象プラスチック		リサイクル可	0.3	0.0		0.3	0.6	
35			リサイクル不可	0.2			0.0	0.3	
36	製品プラスチック(プラ100%)			0.5	0.3		3.8	4.6	
37	その他のプ ラシック使 用製品	金属とのプラスチック複合品		0.1	0.6		0.1	0.9	
38	電池入りのプラスチック複合品			0.0			0.0	0.1	
39	医療用プラ製品			0.1	0.0		0.0	0.2	
40	その他			0.0	0.0		0.0	0.1	
41	ガラス	リターナブルびん				1.5		1.5	
42		ワンウェイびん			0.8	23.3		24.1	
43		その他ガラス(割れびん含む)			0.9	0.5		1.4	
44	金属類	鉄類(飲食用)		0.2	0.4	4.1	0.0	4.7	
45		非鉄金属(飲食用)				5.6		5.6	
46		傘				0.1		0.1	
47		その他金属		0.0	2.3	0.0	0.0	2.4	
48	その他不燃	乾電池等		0.0	0.1			0.1	
49		ライター			0.1			0.1	
50		スプレー缶			0.7			0.7	
51		蛍光灯			0.4			0.4	
52		小型家電製品			2.0			2.0	
53		その他(陶磁器等)			1.0			1.0	
54	処理困難物	石・土砂等							
合計				286.2	10.3	135.5	42.3	474.3	

表 1-14 組成比率（細分類、分別区分別）

No.	中分類	小分類	細分類	可燃ごみ	不燃ごみ	資源	プラスチック	合計	
1	紙類	新聞紙		1.7%		32.0%		10.2%	
2		雑誌・書籍		1.5%		18.2%	0.1%	6.1%	
3		段ボール		1.2%	0.0%	12.6%	0.0%	4.3%	
4		紙製容器包装		7.0%		2.7%	0.7%	5.0%	
5		雑紙		6.3%		0.8%	0.2%	4.1%	
6		その他紙類		11.9%		0.0%	0.2%	7.2%	
7	厨芥			46.3%			0.2%	28.0%	
8	繊維	リサイクル可		0.4%				0.3%	
9		リサイクル不可		1.9%				1.1%	
10	草木			3.4%			0.0%	2.0%	
11	廃油			0.2%				0.1%	
12	ゴム・皮革			0.3%	0.4%		0.0%	0.2%	
13	その他可燃物			11.7%	0.3%		0.5%	7.1%	
14	容器包装プラスチック類	フィルム	リサイクル可	0.7%			30.8%	3.2%	
15			リサイクル不可	2.6%	0.3%			3.2%	1.9%
16		レジ袋	リサイクル可	0.2%	0.1%	0.0%		2.5%	0.4%
17			リサイクル不可	0.3%	0.0%			0.4%	0.2%
18		ペットボトル	リサイクル可	0.0%	0.0%	7.5%		0.3%	2.2%
19			リサイクル不可	0.1%		0.3%		0.1%	0.1%
20		食品・飲料 ボトル	リサイクル可	0.0%				3.0%	0.3%
21			リサイクル不可	0.1%	0.2%			0.4%	0.1%
22		その他ボト ル	リサイクル可	0.0%		0.0%		7.5%	0.7%
23			リサイクル不可	0.2%	0.1%			0.4%	0.2%
24		キャップ類	リサイクル可	0.0%	0.0%	0.0%		2.2%	0.2%
25			リサイクル不可	0.0%				0.0%	0.0%
26		バック・カッ プ類	リサイクル可	0.2%	0.1%			26.4%	2.5%
27			リサイクル不可	0.7%				4.1%	0.8%
28		チューブ類	リサイクル可	0.0%				0.1%	0.0%
29			リサイクル不可	0.2%		0.0%		0.3%	0.2%
30		トレー	リサイクル可	0.0%				4.4%	0.4%
31			リサイクル不可	0.1%				0.3%	0.1%
32		発泡スチ ロール	リサイクル可	0.0%	2.2%			1.3%	0.2%
33			リサイクル不可	0.0%	0.1%				0.0%
34		その他容器包装 対象プラスチック	リサイクル可	0.1%	0.2%			0.7%	0.1%
35			リサイクル不可	0.1%				0.1%	0.1%
36		製品プラスチック(プラ100%)			0.2%	2.7%		8.9%	1.0%
37		その他のプ ラスチック使 用製品	金属とのプラスチック複合品		0.1%	6.0%		0.3%	0.2%
38			電池入りのプラスチック複合品		0.0%			0.1%	0.0%
39			医療用プラ製品		0.0%	0.2%		0.1%	0.0%
40			その他		0.0%	0.1%		0.1%	0.0%
41		ガラス	リターナブルびん				1.1%		0.3%
42			ワンウェイびん			8.2%	17.2%		5.1%
43			その他ガラス(割れびん含む)			8.3%	0.4%		0.3%
44		金属類	鉄類(飲食用)		0.1%	4.3%	3.0%	0.0%	1.0%
45			非鉄金属(飲食用)				4.1%		1.2%
46			傘			1.0%			0.0%
47			その他金属		0.0%	22.3%	0.0%	0.1%	0.5%
48		その他不燃	乾電池等		0.0%	1.2%			0.0%
49	ライター			0.9%			0.0%		
50	スプレー缶			6.8%			0.1%		
51	蛍光灯			4.1%			0.1%		
52	小型家電製品			20.0%			0.4%		
53	その他(陶磁器等)			9.7%			0.2%		
54	処理困難物 石・土砂等								
合計				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

## ②世帯人数別

世帯人数別の排出原単位及び組成比率は表 1-15～表 1-18 とおりである。

表 1-15 排出原単位（ごみ・資源、中分類、世帯人数別）

単位:g/人・日

中分類	1人	2人	3人	4人	5人	6人	全体
紙類	193.1	222.9	149.4	105.6	145.0	127.9	175.2
厨芥	172.4	157.9	108.3	81.4	84.8	148.4	132.7
繊維	6.5	9.3	3.3	4.1	6.8	8.3	6.6
草木	3.2	9.1	22.9	3.0	1.2	35.3	9.7
廃油		0.0	0.9	1.7	0.3	2.2	0.5
ゴム・皮革	0.9	1.2	0.4	0.1	2.4	7.1	1.0
その他可燃物	17.2	44.5	27.8	42.2	22.2	9.5	33.7
容器包装プラスチック類	93.2	66.1	54.8	49.8	47.9	68.4	64.9
製品プラスチック	4.2	4.2	7.1	3.5	4.9	2.8	4.6
その他のプラスチック使用製品	1.6	1.4	1.0	0.8	1.2	0.8	1.2
ガラス	44.4	29.3	26.7	13.7	6.6	17.3	26.9
金属類	15.2	14.2	14.9	8.5	5.0	8.8	12.7
その他不燃	4.0	7.1	2.9	2.4	0.9	2.2	4.4
処理困難物							
合計	555.9	567.2	420.3	316.7	329.2	439.0	474.3

表 1-16 組成比率（ごみ・資源、中分類、世帯人数別）

中分類	1人	2人	3人	4人	5人	6人	全体
紙類	34.7%	39.3%	35.5%	33.3%	44.0%	29.1%	36.9%
厨芥	31.0%	27.8%	25.8%	25.7%	25.8%	33.8%	28.0%
繊維	1.2%	1.6%	0.8%	1.3%	2.1%	1.9%	1.4%
草木	0.6%	1.6%	5.5%	0.9%	0.4%	8.0%	2.0%
廃油		0.0%	0.2%	0.5%	0.1%	0.5%	0.1%
ゴム・皮革	0.2%	0.2%	0.1%	0.0%	0.7%	1.6%	0.2%
その他可燃物	3.1%	7.8%	6.6%	13.3%	6.7%	2.2%	7.1%
容器包装プラスチック類	16.8%	11.7%	13.0%	15.7%	14.5%	15.6%	13.7%
製品プラスチック	0.8%	0.7%	1.7%	1.1%	1.5%	0.6%	1.0%
その他のプラスチック使用製品	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%	0.3%
ガラス	8.0%	5.2%	6.4%	4.3%	2.0%	3.9%	5.7%
金属類	2.7%	2.5%	3.5%	2.7%	1.5%	2.0%	2.7%
その他不燃	0.7%	1.3%	0.7%	0.8%	0.3%	0.5%	0.9%
処理困難物							
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 1-17 排出原単位（ごみ・資源、細分類、世帯人数別）

単位:g/人・日

No.	中分類	小分類	細分類	1人	2人	3人	4人	5人	6人	全体	
1	紙類	新聞紙		41.1	71.9	42.2	26.0	29.3	10.7	48.2	
2		雑誌・書籍		18.9	47.1	27.7	10.7	8.7	36.7	29.1	
3		段ボール		14.1	27.8	13.8	11.8	43.8	14.2	20.5	
4		紙製容器包装		27.3	23.4	30.5	15.3	22.4	24.1	23.9	
5		雑紙		39.5	22.3	7.2	10.0	9.5	12.2	19.4	
6		その他紙類		52.1	30.5	27.9	31.8	31.3	29.9	34.2	
7	厨芥			172.4	157.9	108.3	81.4	84.8	148.4	132.7	
8	繊維		リサイクル可		3.0		0.1	0.6	2.2	1.2	
9			リサイクル不可	6.5	6.3	3.3	4.0	6.1	6.1	5.4	
10	草木			3.2	9.1	22.9	3.0	1.2	35.3	9.7	
11	廃油				0.0	0.9	1.7	0.3	2.2	0.5	
12	ゴム・皮革			0.9	1.2	0.4	0.1	2.4	7.1	1.0	
13	その他可燃物			17.2	44.5	27.8	42.2	22.2	9.5	33.7	
14	容器包装プラスチック類	フィルム	リサイクル可	17.3	15.4	15.1	13.6	12.6	11.5	15.1	
15			リサイクル不可	16.4	8.0	5.3	7.0	6.3	10.2	8.8	
16		レジ袋	リサイクル可	1.8	1.7	1.5	1.8	1.1	2.3	1.7	
17			リサイクル不可	0.9	1.2	0.6	0.9	0.5	2.3	1.0	
18		ペットボトル	リサイクル可	9.4	11.8	10.2	9.5	6.8	12.9	10.4	
19			リサイクル不可	0.0	0.6	2.2	0.1	0.4	0.1	0.7	
20		食品・飲料 ボトル	リサイクル可	1.5	1.5	0.6	1.9	1.3	1.7	1.4	
21			リサイクル不可	0.7	0.3	0.2	0.6	1.7	1.1	0.5	
22		その他ボト ル	リサイクル可	4.7	4.5	1.8	1.5	2.2	0.7	3.3	
23			リサイクル不可	0.0	0.8	1.1	0.6	1.8	1.0	0.7	
24		キャップ類	リサイクル可	1.5	0.9	0.7	1.1	1.0	0.8	1.0	
25			リサイクル不可	0.1	0.0	0.0	0.0		0.1	0.0	
26		パック・カッ プ類	リサイクル可	24.8	11.5	8.3	5.4	5.6	6.0	11.7	
27			リサイクル不可	6.3	3.2	4.0	2.4	2.8	6.0	3.8	
28		チューブ類	リサイクル可	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0		0.1	
29			リサイクル不可	2.2	0.6	0.2	0.6	0.6	2.1	0.9	
30		トレー	リサイクル可	3.1	2.3	1.4	1.0	1.5	1.7	2.0	
31			リサイクル不可	0.3	0.4	0.2	0.1	0.2	1.6	0.3	
32		発泡スチ ロール	リサイクル可	1.5	0.4	0.7	0.9	1.1		0.8	
33			リサイクル不可	0.1	0.1		0.0			0.0	
34		その他容器包装 対象プラスチック	リサイクル可	0.4	0.5	0.3	0.5	0.5	6.4	0.6	
35			リサイクル不可		0.5	0.2	0.2		0.0	0.3	
36		製品プラスチック(プラ100%)			4.2	4.2	7.1	3.5	4.9	2.8	4.6
37		その他のプ ラスチック使 用製品	金属とのプラスチック複合品		1.4	0.8	0.9	0.6	1.1	0.8	0.9
38	電池入りのプラスチック複合品			0.0	0.2	0.0				0.1	
39	医療用プラ製品			0.2	0.3	0.1		0.1		0.2	
40	その他				0.1		0.2			0.1	
41	ガラス	リターナブルびん			4.1					1.5	
42		ワンウェイびん		43.2	23.8	23.9	13.2	6.6	16.6	24.1	
43		その他ガラス(割れビン含む)		1.2	1.5	2.8	0.4		0.7	1.4	
44	金属類	鉄類(飲食用)		4.7	7.3	4.5	1.1	1.5	1.7	4.7	
45		非鉄金属(飲食用)		8.0	4.5	7.5	4.2	2.8	6.6	5.6	
46		傘			0.3					0.1	
47	その他金属		2.5	2.1	2.9	3.2	0.7	0.5	2.4		
48	その他不燃	乾電池等		0.1	0.3		0.1	0.1		0.1	
49		ライター			0.3					0.1	
50		スプレー缶		1.4	1.0	0.2	0.1	0.1	0.6	0.7	
51		蛍光灯			1.1			0.6		0.4	
52		小型家電製品		0.8	3.8	0.9	1.8		0.9	2.0	
53		その他(陶磁器等)		1.7	0.7	1.8	0.4		0.8	1.0	
54	処理困難物	石・土砂等									
合計				555.9	567.2	420.3	316.7	329.2	439.0	474.3	

表 1-18 組成比率（ごみ・資源、細分類、世帯人数別）

No.	中分類	小分類	細分類	1人	2人	3人	4人	5人	6人	全体	
1	紙類	新聞紙		7.4%	12.7%	10.0%	8.2%	8.9%	2.4%	10.2%	
2		雑誌・書籍		3.4%	8.3%	6.6%	3.4%	2.6%	8.4%	6.1%	
3		段ボール		2.5%	4.9%	3.3%	3.7%	13.3%	3.2%	4.3%	
4		紙製容器包装		4.9%	4.1%	7.3%	4.8%	6.8%	5.5%	5.0%	
5		雑紙		7.1%	3.9%	1.7%	3.2%	2.9%	2.8%	4.1%	
6		その他紙類		9.4%	5.4%	6.6%	10.0%	9.5%	6.8%	7.2%	
7	厨芥			31.0%	27.8%	25.8%	25.7%	25.8%	33.8%	28.0%	
8	繊維		リサイクル可		0.5%		0.0%	0.2%	0.5%	0.3%	
9			リサイクル不可	1.2%	1.1%	0.8%	1.3%	1.9%	1.4%	1.1%	
10	草木			0.6%	1.6%	5.5%	0.9%	0.4%	8.0%	2.0%	
11	廃油				0.0%	0.2%	0.5%	0.1%	0.5%	0.1%	
12	ゴム・皮革			0.2%	0.2%	0.1%	0.0%	0.7%	1.6%	0.2%	
13	その他可燃物			3.1%	7.8%	6.6%	13.3%	6.7%	2.2%	7.1%	
14	容器包装プラスチック類	フィルム	リサイクル可	3.1%	2.7%	3.6%	4.3%	3.8%	2.6%	3.2%	
15			リサイクル不可	3.0%	1.4%	1.3%	2.2%	1.9%	2.3%	1.9%	
16		レジ袋	リサイクル可	0.3%	0.3%	0.4%	0.6%	0.3%	0.5%	0.4%	
17			リサイクル不可	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	0.5%	0.2%	
18		ペットボトル	リサイクル可	1.7%	2.1%	2.4%	3.0%	2.1%	2.9%	2.2%	
19			リサイクル不可	0.0%	0.1%	0.5%	0.0%	0.1%	0.0%	0.1%	
20		食品・飲料	リサイクル可	0.3%	0.3%	0.1%	0.6%	0.4%	0.4%	0.3%	
21			リサイクル不可	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.5%	0.3%	0.1%	
22		その他ボ	リサイクル可	0.9%	0.8%	0.4%	0.5%	0.7%	0.1%	0.7%	
23			リサイクル不可	0.0%	0.1%	0.3%	0.2%	0.5%	0.2%	0.2%	
24		キャップ類	リサイクル可	0.3%	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.2%	0.2%	
25			リサイクル不可	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	
26		バック・カ	リサイクル可	4.5%	2.0%	2.0%	1.7%	1.7%	1.4%	2.5%	
27			リサイクル不可	1.1%	0.6%	0.9%	0.8%	0.9%	1.4%	0.8%	
28		チューブ類	リサイクル可	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	
29			リサイクル不可	0.4%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	0.5%	0.2%	
30		トレー	リサイクル可	0.5%	0.4%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%	0.4%	
31			リサイクル不可	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	0.4%	0.1%	
32		発泡スチ	リサイクル可	0.3%	0.1%	0.2%	0.3%	0.3%		0.2%	
33			リサイクル不可	0.0%	0.0%		0.0%			0.0%	
34		その他容器包装	リサイクル可	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.2%	1.5%	0.1%	
35			リサイクル不可		0.1%	0.1%	0.1%		0.0%	0.1%	
36		製品プラスチック(プラ100%)			0.8%	0.7%	1.7%	1.1%	1.5%	0.6%	1.0%
37		その他のプ	金属とのプラスチック複合品		0.2%	0.1%	0.2%	0.2%	0.3%	0.2%	0.2%
38			電池入りのプラスチック複合品		0.0%	0.0%	0.0%				0.0%
39			医療用プラ製品		0.0%	0.1%	0.0%		0.0%		0.0%
40			その他			0.0%		0.1%			0.0%
41		ガラス	リターナブルびん			0.7%					0.3%
42			ワンウェイびん		7.8%	4.2%	5.7%	4.2%	2.0%	3.8%	5.1%
43			その他ガラス(割れビン含む)		0.2%	0.3%	0.7%	0.1%		0.2%	0.3%
44		金属類	鉄類(飲食用)		0.9%	1.3%	1.1%	0.4%	0.4%	0.4%	1.0%
45			非鉄金属(飲食用)		1.4%	0.8%	1.8%	1.3%	0.9%	1.5%	1.2%
46			傘			0.0%					0.0%
47			その他金属		0.4%	0.4%	0.7%	1.0%	0.2%	0.1%	0.5%
48		その他不燃	乾電池等		0.0%	0.0%		0.0%	0.0%		0.0%
49	ライター				0.0%					0.0%	
50	スプレー缶			0.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	
51	蛍光灯				0.2%			0.2%		0.1%	
52	小型家電製品			0.2%	0.7%	0.2%	0.6%		0.2%	0.4%	
53	その他(陶磁器等)			0.3%	0.1%	0.4%	0.1%		0.2%	0.2%	
54	処理困難物	石・土砂等									
合計				100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

#### 1.4 資源プラスチックの排出原単位

資源プラスチックの排出原単位及び組成比率は表 1-19～表 1-25 とおりである。

表 1-19 資源プラスチックの排出原単位（分別区分別）

単位:g/人・日

大分類	中分類	細分類	可燃ごみ	不燃ごみ	資源	プラスチック	合計
可燃物	紙類		84.8	0.0	89.9	0.5	175.2
	厨芥		132.6			0.1	132.7
	繊維		6.6				6.6
	草木		9.7			0.0	9.7
	廃油		0.5				0.5
	ゴム・皮革		1.0	0.0		0.0	1.0
	その他可燃物		33.5	0.0		0.2	33.7
不燃物	ガラス			1.7	25.3		26.9
	金属類		0.2	2.8	9.7	0.0	12.7
	その他不燃		0.0	4.4			4.4
	処理困難物						
プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル不可	12.4	0.1	0.0	3.9	16.4
	ペットボトル		0.3	0.0	10.6	0.2	11.0
	その他のプラスチック使用製品		0.3	0.7		0.2	1.2
資源プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル可	3.9	0.3	0.1	33.4	37.5
	製品プラスチック		0.5	0.3		3.8	4.6
合計			286.2	10.3	135.5	42.3	474.3

表 1-20 資源プラスチックの組成比率（分別区分別）

大分類	中分類	細分類	可燃ごみ	不燃ごみ	資源	プラスチック	合計
可燃物	紙類		29.6%	0.0%	66.3%	1.2%	36.9%
	厨芥		46.3%			0.2%	28.0%
	繊維		2.3%				1.4%
	草木		3.4%			0.0%	2.0%
	廃油		0.2%				0.1%
	ゴム・皮革		0.3%	0.4%		0.0%	0.2%
	その他可燃物		11.7%	0.3%		0.5%	7.1%
不燃物	ガラス			16.5%	18.6%		5.7%
	金属類		0.1%	27.6%	7.1%	0.1%	2.7%
	その他不燃		0.0%	42.7%			0.9%
	処理困難物						
プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル不可	4.3%	0.7%	0.0%	9.3%	3.5%
	ペットボトル		0.1%	0.0%	7.8%	0.4%	2.3%
	その他のプラスチック使用製品		0.1%	6.4%		0.6%	0.3%
資源プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル可	1.3%	2.5%	0.0%	78.8%	7.9%
	製品プラスチック		0.2%	2.7%		8.9%	1.0%
合計			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 1-21 資源プラスチックの品目別の排出割合（分別区分別）

大分類	中分類	細分類	可燃ごみ	不燃ごみ	資源	プラスチック	合計
可燃物	紙類		48.4%	0.0%	51.3%	0.3%	100.0%
	厨芥		99.9%			0.1%	100.0%
	繊維		100.0%				100.0%
	草木		99.9%			0.1%	100.0%
	廃油		100.0%				100.0%
	ゴム・皮革		94.9%	4.1%		1.0%	100.0%
	その他可燃物		99.3%	0.1%		0.6%	100.0%
不燃物	ガラス			6.3%	93.7%		100.0%
	金属類		1.5%	22.2%	76.0%	0.3%	100.0%
	その他不燃		0.3%	99.7%			100.0%
	処理困難物						
プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル不可	75.5%	0.5%	0.0%	24.0%	100.0%
	ペットボトル		2.4%	0.0%	96.1%	1.5%	100.0%
	その他のプラスチック使用製品		25.3%	54.7%		20.0%	100.0%
資源プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル可	10.3%	0.7%	0.2%	88.9%	100.0%
	製品プラスチック		11.5%	6.1%		82.4%	100.0%

表 1-22 資源プラスチックの排原単位（ごみ・資源、世帯人数別）

単位:g/人・日

大分類	中分類	細分類	1人	2人	3人	4人	5人	6人	全体
可燃物	紙類		193.1	222.9	149.4	105.6	145.0	127.9	175.2
	厨芥		172.4	157.9	108.3	81.4	84.8	148.4	132.7
	繊維		6.5	9.3	3.3	4.1	6.8	8.3	6.6
	草木		3.2	9.1	22.9	3.0	1.2	35.3	9.7
	廃油			0.0	0.9	1.7	0.3	2.2	0.5
	ゴム・皮革		0.9	1.2	0.4	0.1	2.4	7.1	1.0
	その他可燃物		17.2	44.5	27.8	42.2	22.2	9.5	33.7
不燃物	ガラス		44.4	29.3	26.7	13.7	6.6	17.3	26.9
	金属類		15.2	14.2	14.9	8.5	5.0	8.8	12.7
	その他不燃		4.0	7.1	2.9	2.4	0.9	2.2	4.4
	処理困難物								
プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル不可	26.9	15.1	11.9	12.5	13.9	24.4	16.4
	ペットボトル		9.5	12.4	12.4	9.6	7.2	13.0	11.0
	その他のプラスチック使用製品		1.6	1.4	1.0	0.8	1.2	0.8	1.2
資源プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル可	56.8	38.7	30.5	27.7	26.8	31.0	37.5
	製品プラスチック		4.2	4.2	7.1	3.5	4.9	2.8	4.6
合計			555.9	567.2	420.3	316.7	329.2	439.0	474.3

表 1-23 資源プラスチックの組成比率（ごみ・資源、世帯人数別）

大分類	中分類	細分類	1人	2人	3人	4人	5人	6人	全体
可燃物	紙類		34.7%	39.3%	35.5%	33.3%	44.0%	29.1%	36.9%
	厨芥		31.0%	27.8%	25.8%	25.7%	25.8%	33.8%	28.0%
	繊維		1.2%	1.6%	0.8%	1.3%	2.1%	1.9%	1.4%
	草木		0.6%	1.6%	5.5%	0.9%	0.4%	8.0%	2.0%
	廃油			0.0%	0.2%	0.5%	0.1%	0.5%	0.1%
	ゴム・皮革		0.2%	0.2%	0.1%	0.0%	0.7%	1.6%	0.2%
	その他可燃物		3.1%	7.8%	6.6%	13.3%	6.7%	2.2%	7.1%
不燃物	ガラス		8.0%	5.2%	6.4%	4.3%	2.0%	3.9%	5.7%
	金属類		2.7%	2.5%	3.5%	2.7%	1.5%	2.0%	2.7%
	その他不燃		0.7%	1.3%	0.7%	0.8%	0.3%	0.5%	0.9%
	処理困難物								
プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル不可	4.8%	2.7%	2.8%	3.9%	4.2%	5.5%	3.5%
	ペットボトル		1.7%	2.2%	2.9%	3.0%	2.2%	3.0%	2.3%
	その他のプラスチック使用製品		0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%	0.3%
資源プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル可	10.2%	6.8%	7.3%	8.8%	8.1%	7.1%	7.9%
	製品プラスチック		0.8%	0.7%	1.7%	1.1%	1.5%	0.6%	1.0%
合計			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 1-24 資源プラスチックの排原単位（プラスチック、世帯人数別）

単位:g/人・日

大分類	中分類	細分類	1人	2人	3人	4人	5人	6人	全体
可燃物	紙類		0.3	0.7	0.3	0.7	0.3		0.5
	厨芥		0.2		0.2	0.0			0.1
	繊維								
	草木			0.0	0.0	0.0	0.0		0.0
	廃油								
	ゴム・皮革			0.0		0.0			0.0
	その他可燃物			0.1	0.2	0.5	0.2	0.0	0.0
不燃物	ガラス								
	金属類		0.1	0.0		0.0	0.1		0.0
	その他不燃								
	処理困難物								
プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル不可	4.8	4.0	3.8	3.5	2.1	4.3	3.9
	ペットボトル		0.3	0.1	0.1	0.1	0.2	0.7	0.2
	その他のプラスチック使用製品		0.2	0.4	0.0	0.3			0.2
資源プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル可	47.6	35.4	27.5	25.8	25.4	19.7	33.4
	製品プラスチック		3.0	3.4	6.6	2.9	4.0	1.6	3.8
合計			56.6	44.2	39.1	33.5	32.2	26.3	42.3

表 1-25 資源プラスチックの組成比率（プラスチック、世帯人数別）

大分類	中分類	細分類	1人	2人	3人	4人	5人	6人	全体
可燃物	紙類		0.6%	1.6%	0.8%	2.0%	1.0%		1.2%
	厨芥		0.4%		0.5%	0.1%			0.2%
	繊維								
	草木			0.0%	0.0%	0.0%	0.1%		0.0%
	廃油								
	ゴム・皮革			0.1%		0.0%			0.0%
	その他可燃物			0.2%	0.3%	1.3%	0.7%	0.1%	0.2%
不燃物	ガラス								
	金属類		0.2%	0.0%		0.0%	0.4%		0.1%
	その他不燃								
	処理困難物								
プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル不可	8.5%	9.1%	9.8%	10.6%	6.4%	16.3%	9.3%
	ペットボトル		0.5%	0.3%	0.3%	0.1%	0.7%	2.7%	0.4%
	その他のプラスチック使用製品		0.3%	1.0%	0.1%	0.9%			0.6%
資源プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル可	84.1%	79.9%	70.3%	77.0%	78.9%	74.7%	78.8%
	製品プラスチック		5.3%	7.6%	16.9%	8.6%	12.3%	6.1%	8.9%
合計			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

## 第2章 モニターアンケート

### 2.1 調査概要

モニター調査協力世帯に対し、調査最終日（令和4年10月29日（土））にアンケートを配布し、郵送にて回収した。調査票は無記名回答とした。調査票回収状況は以下のとおりである。

表 2-1 モニターアンケート回収状況

配布世帯数	124 通
回答数	101 通
回答率	81.5%

### 2.2 プラスチック分別（案）について

#### (1)分別について

問 1(1) プラスチックの分別排出を実際に行っていたかがでしたか。(1つに○)

「多少面倒だった」55.4%、「とても面倒だった」25.7%を合わせると、分別が面倒であったとの回答が81.2%である。

表 2-2 問 1(1)回答結果

選択肢	回答数	比率
簡単だった。面倒に思わなかった	16	15.8%
多少面倒だった	56	55.4%
とても面倒だった	26	25.7%
無回答	3	3.0%
合計	101	100.0%

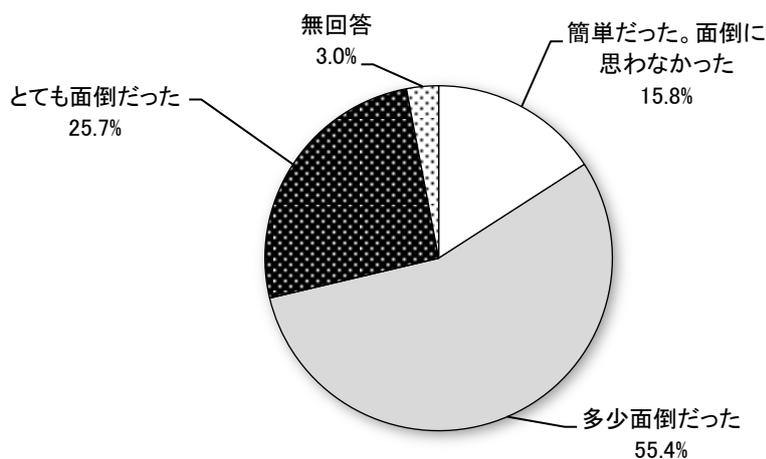


図 2-1 問 1(1)回答結果

(2)分別が面倒だった理由（複数回答）

問1(2) 「多少面倒だった」「とても面倒だった」理由は何ですか。（〇はいくつでも）

「多少面倒だった」「とても面倒だった」と回答した人（82人）にその理由を尋ねたところ、「汚れたプラスチックを洗うこと」が最も多く、68.3%であった。次いで、「収集日まで保管すること」65.9%、「分別が分からない、迷う品目があったこと」63.4%となっている。

表 2-3 問1(2)回答結果

選択肢	回答数	比率
汚れたプラスチックを洗うこと	56	68.3%
収集日まで保管すること	54	65.9%
分別が分からない、迷う品目があったこと	52	63.4%
プラスチックを分けるための容器(ごみ箱)を自前で用意すること	33	40.2%
家族が協力してくれなかったこと	9	11.0%
その他	4	4.9%
回答数	82	100.0%

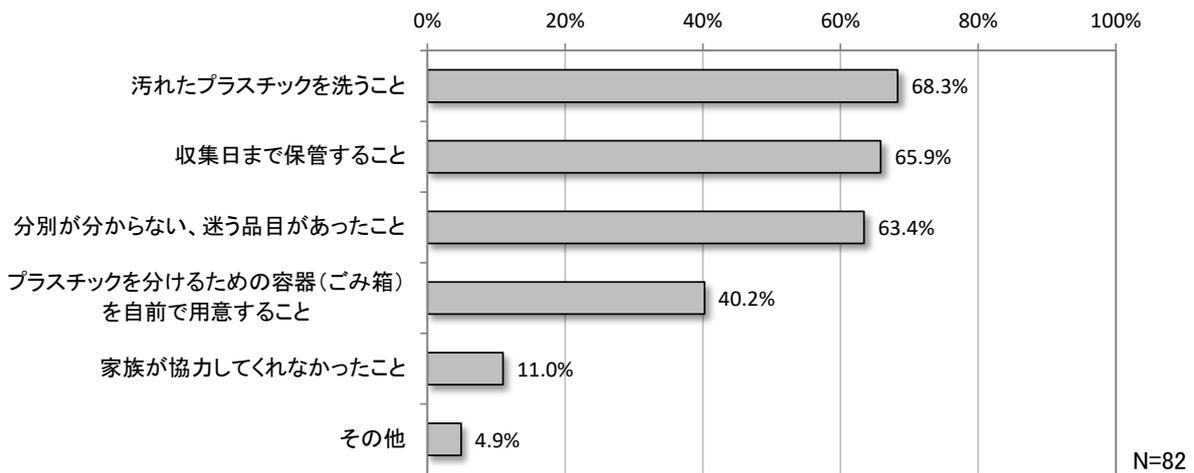


図 2-2 問1(2)回答結果

(その他の自由記入欄)

- ごみ箱から全部ごみを出して分別すること
- 説明が良くわからなかった。
- シールが貼ってあるものはどうするのか。

(3)集積所に出す場合心配なこと（複数回答）

問 1(3) モニター調査ではプラスチックを玄関先等の指定場所に出していただきましたが、集積所に出すことになった場合、心配なことはありますか。（〇はいくつでも）

集積所に出すことになった場合に心配なことを尋ねたところ、「特に心配なことはない」が49.5%とほぼ半数となった。

心配する項目としては、「風に飛ばされること」26.7%、「集積所があふれてしまわないか」24.8%、「カラスの害がないか」20.8%等となっている。

表 2-4 問 1(3) 回答結果

選択肢	回答数	比率
特に心配なことはない	50	49.5%
風に飛ばされないか心配である	27	26.7%
集積所があふれてしまわないか心配である	25	24.8%
カラスの害がないか心配である	21	20.8%
その他	12	11.9%
回答数	101	100.0%

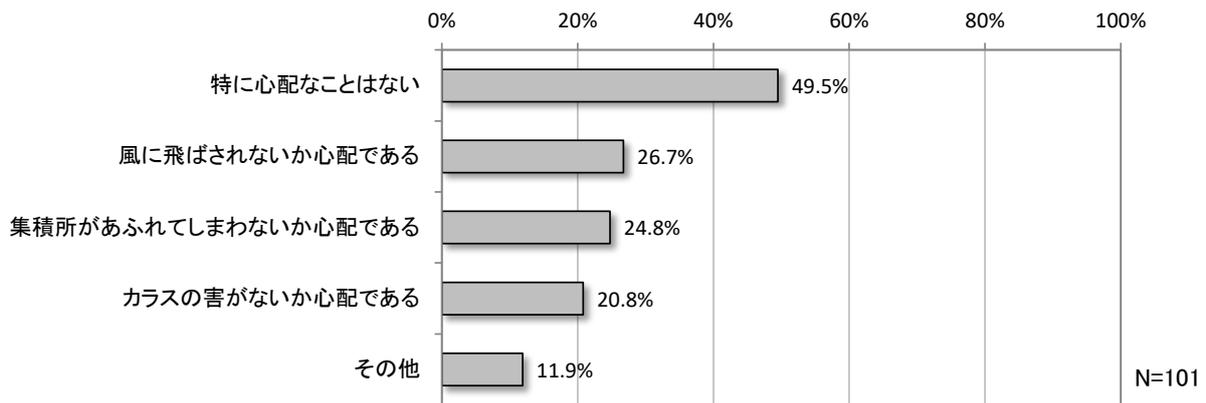


図 2-3 問 1(3) 回答結果

(その他の自由記入)

- 他の人がルールを守れるか。(同様 3 件)
- 高齢なのでよく分からない。(同様 2 件)
- 通行人等がごみを置いていく (同様 2 件)。
- 猫が荒らすこと。

(4)分別に迷った品目とその理由

問1(4) 分別に迷った品目があれば、下表にご記入ください。

分別に迷った品目として、57名から計97件の回答があった。下表にその概要を整理する。

表 2-5 問1(4)回答結果

分類	回答のあった品目	回答のあった理由
汚れた容器について (54件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○食品トレイ (9件)</li> <li>○食品のラップ (5件)</li> <li>○ケチャップ・マヨネーズ容器 (5件)</li> <li>○菓子袋 (5件)</li> <li>○シャンプー・洗剤ボトル (4件)</li> <li>○肉や魚の生鮮食品袋 (4件)</li> <li>○納豆容器 (4件)</li> <li>○弁当容器、弁当付属調味料容器・袋 (4件)</li> <li>○レトルト食品、冷凍食品容器 (4件)</li> <li>○調味料ボトル (2件)</li> <li>○キャップ (1件)</li> <li>○カップ麺容器 (2件)</li> <li>○その他油の付着したものなど (6件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どのくらい汚れを落とせばよいのか</li> <li>○なかなか汚れが落ちない。</li> <li>○洗っても洗っても泡が出る。</li> <li>○菓子の粉が落ちない。</li> <li>○かなり水を使う。</li> <li>など</li> </ul>
判断が付かないもの (20件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アルミ蒸着のヨーグルトの蓋やポテトチップ袋 (6件)</li> <li>○菓子の容器 (5件)</li> <li>○クリーニング袋 (1件)</li> <li>○プラマークが付いていないポリ袋 (1件)</li> <li>○その他各種袋 (6件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アルミなのかプラスチックなのか分からない。</li> <li>○プラマークが付いていないがプラスチックで良いのか。</li> <li>○引っ張ってみても紙かプラスチックか区別できない。</li> <li>など</li> </ul>
紙ラベル・シールが付いたもの (9件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スーパーのトレイ、ラップ、袋など (9件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○値段のシールを剥がすのかどうか分からない。</li> <li>○シールが剥がれない。</li> <li>など</li> </ul>
複合素材で分離できないもの (10件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○菓子袋、湿布の袋など (7件)</li> <li>○ビニタイ (1件)</li> <li>○牛乳パック (2件)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○紙とプラスチックが宋になって貼り付いている。</li> <li>○ビニタイには針金が入っている。</li> <li>○ティーパックとお茶を分けるのが大変。</li> <li>○牛乳パックの口を切り取れない。</li> </ul>
その他 (4件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○おむつ、生理用品、たばこ、医薬用品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プラスチックかどうか分からない。</li> </ul>

## 2.3 プラを資源として分別収集することについて

### (1) プラスチックを週1回分別収集することについて

問2(1) プラスチックを資源として分別し、週1回収集することについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

プラを週1回分別収集することについては、「進んで実施すべき」17.8%、「できる範囲で実施すべき」60.4%と、78.2%が肯定的な意見であった。

表 2-6 問2(1)回答結果

選択肢	回答数	比率
進んで実施すべき	18	17.8%
できる範囲で実施すべき	61	60.4%
必要ない	10	9.9%
わからない	11	10.9%
無回答	1	1.0%
合計	101	100.0%

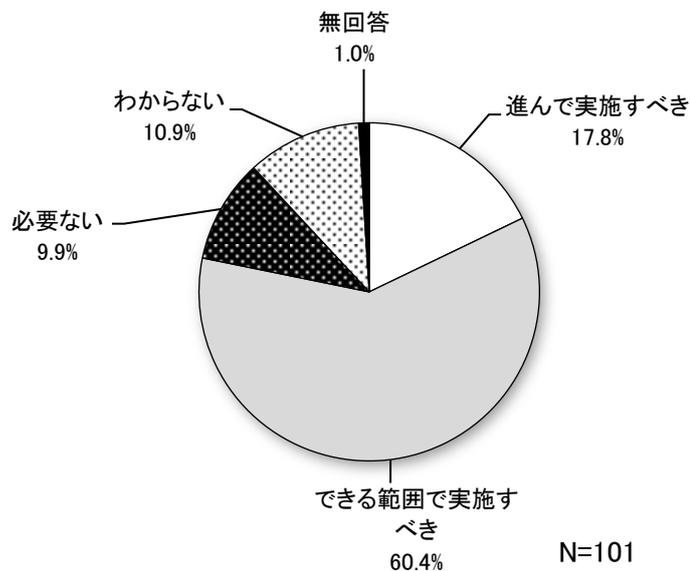


図 2-4 問2(1)回答結果

(2)プラスチックの分別を実施すべきと思う理由

問 2(2) 前問 2 (1) で 1. または 2. を選んだ方にお聞きします。  
 「実施すべき」と思う理由は何ですか。あなたの考えに近いものに○を付けてください。(○は1つ)

プラスチック分別をすべき理由としては、「ごみの減量や温室効果ガス削減につながる」が最も多く 55.7%、次いで「具体的なことはよくわからないが、環境に優しい施策ならばやるべき」が 31.6%などとなった。

表 2-7 問 2(2)回答結果

選択肢	回答数	比率
ごみの減量や温室効果ガス(CO <sub>2</sub> )排出量の削減につながるため	44	55.7%
区民のリサイクル意識のさらなる向上につながるため	5	6.3%
具体的なことはよくわからないが、環境に優しい施策ならばやるべきと思うため	25	31.6%
他自治体を実施しているので、板橋区もやるべきと思うため	1	1.3%
その他	3	3.8%
無回答	1	1.3%
合計	79	78.2%

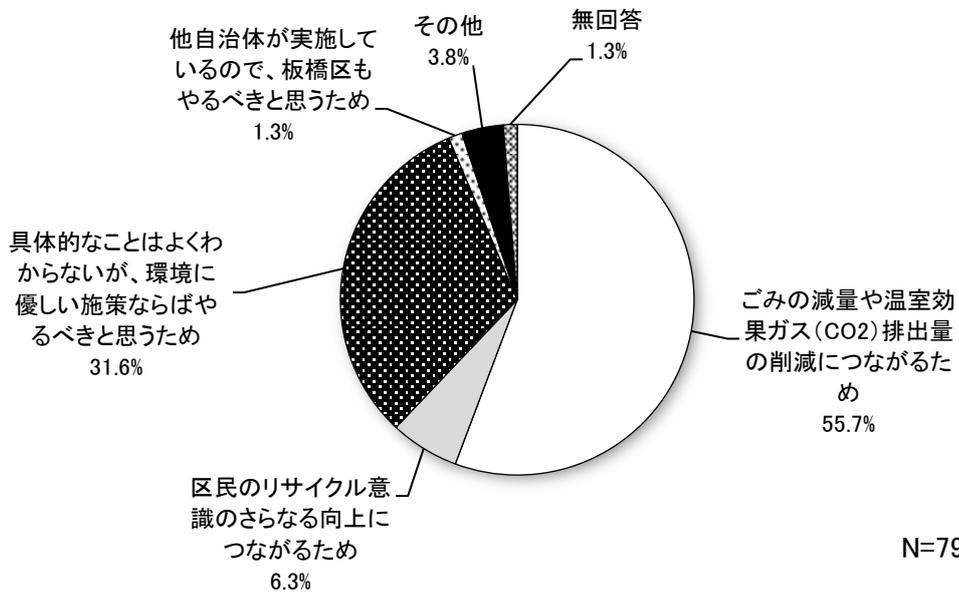


図 2-5 問 2(2)回答結果

(その他の自由記入)

- 缶ごみよりプラスチックごみのほうが多い
- 大気中のマイクロプラスチック対策のため
- やりたい人はやればよい
- 地方よりリサイクル意識が低かった。資源活用できるものは利用したほうがよい。

(3)プラスチックの分別を「必要ない」「わからない」と思う理由

問 2(3) 問 2(1)で3. または 4. を選んだ方にお聞きします。  
 「必要ない」「わからない」と思う理由は何ですか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。(○は1つ)

プラスチック分別を「必要ない」「わからない」と思う理由としては、「分別の手間が増える」36.4%、「現在の処理方法の方が効果的・効率的だと思う」22.7%などとなっている。「その他」の自由記入は「人件費を考えても今のままでよい」であった。

表 2-8 問 2(3)回答結果

選択肢	回答数	比率
分別の手間が増えるため(可燃ごみとして出す方が楽)	8	36.4%
現在の処理方法(熱回収)の方が効果的・効率的だと思うため	7	31.8%
分別収集することで得られる効果がよくわからず、判断できないため	5	22.7%
その他	1	4.5%
無回答	1	4.5%
合計	22	21.8%

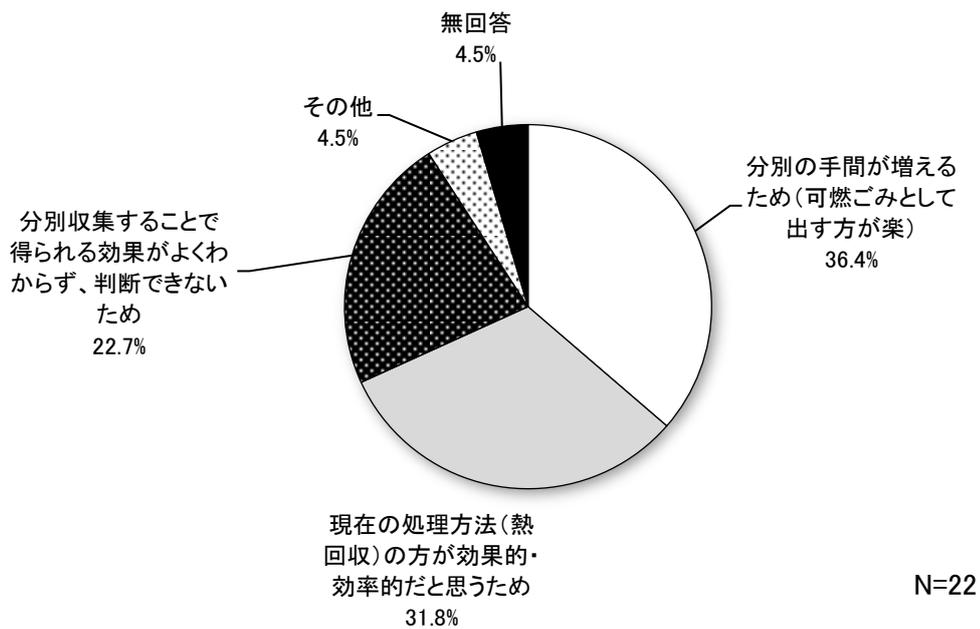


図 2-6 問 2(3)回答結果

(4)区民への効果的な周知方法（複数回答）

問 2(4) プラスチックを資源として分別収集する場合、区民の方への効果的な周知方法は何かと思いますか。（〇はいくつでも）

プラスチックを資源として分別収集する場合の区民への効果的な周知方法としては、「資源とごみの分け方・出し方ハンドブック」74.3%が最も多く、次いで「地域別 資源回収・ごみ収集曜日カレンダー」57.4%、「集積所の看板」38.6%などとなっている。

表 2-9 問 2(4)回答結果

選択肢	回答数	比率
資源とごみの分け方・出し方ハンドブック	75	74.3%
地域別 資源回収・ごみ収集曜日カレンダー	58	57.4%
集積所の看板	39	38.6%
広報いたばし(板橋区報)	34	33.7%
資源とごみの分け方・出し方外国語版チラシ	30	29.7%
スマートフォン向けの区統合アプリ	23	22.8%
区のホームページ	22	21.8%
区のイベントやキャンペーン	12	11.9%
その他	7	6.9%
回答数	101	100.0%

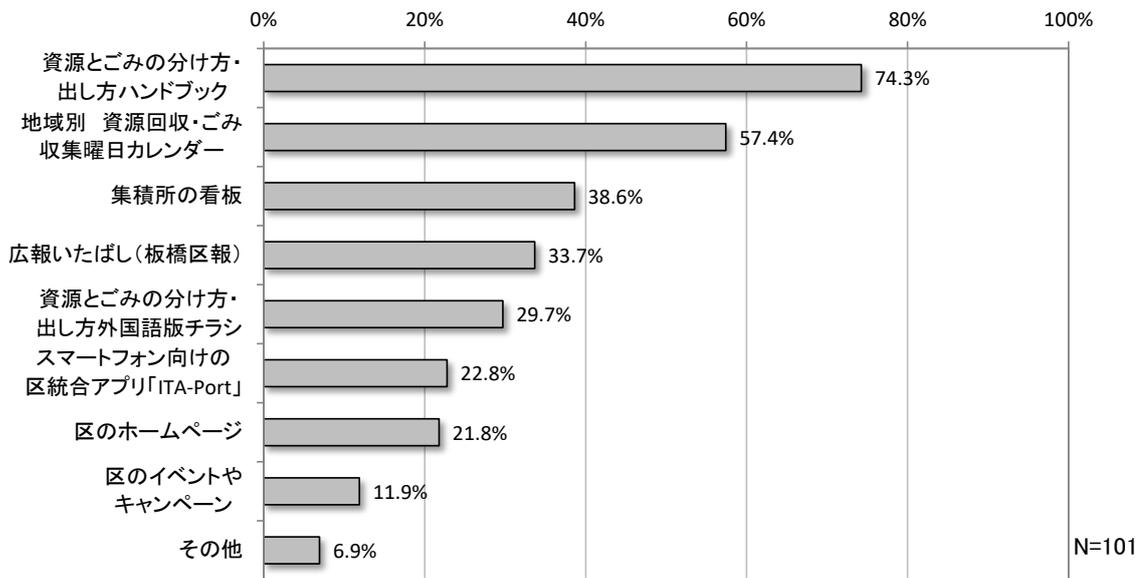


図 2-7 問 2(4)回答結果

(その他の自由記入)

- 回覧板
- 子供への教育、学校、幼稚園など
- ラインやインスタでたくさんアピールする
- マンション等外国人にわかりやすく説明が必要
- チラシポスティング
- ルールを簡素化しないとどの方法でも周知は難しい

## 2.4 その他、今回のモニター調査やプラスチックの分別収集について（自由記入）

問3. その他、今回のモニター調査やプラスチックの分別収集について、ご感想・ご意見等ございましたらご記入ください。（自由記入）

アンケート末尾の自由記入欄には65名から意見、感想が寄せられた。意見、感想の概要を以下に示す。なお、概要分類ごとの件数は、自由記入欄に複数の意見・感想がある場合はそれぞれをカウントしている。

### ①分別が大変だったこと（19件）

- 汚れたプラスチックを洗うのに手間がかかる。
- 子どもが分別が分からず大変だった。
- ごみ箱を別に用意したので場所を取り大変だった。

など

### ②大変とは思わなかった（5件）

- はじめは面倒だったがすぐに慣れた。
- 決まり通りに分ければ問題ない。

など

### ③プラスチックの分別に意義を感じた。実施すべきと思った。（17件）

- 子供や孫のその先の世代にきれいな環境を残していけるのではと思った。
- 地球環境や次世代の人々が暮らしやすくするために少しずつ始められることはすばきだと思う。
- 普通ごみの半分くらいがプラスチックなので燃えるごみが減るのはとてもいいことだと思う。

など

### ④プラスチックの分別に意義を感じなかった。（2件）

- プラを分けなくても処理できるのであれば板橋区に住むメリットにもなるので、できればこのままがいい。
- 効率や水の汚染のことを考えても分別の必要はないと考えられる。

### ⑤プラスチックごみの量に驚いた・気づいた（22件）

- プラスチックに分別されるものが多かったのでびっくりした。
- 身の回りにいかにプラスチック製品があるかよくわかった。

など

### ⑥プラスチックの収集回収を多くしてほしい（4件）

- 週1回では少なく感ずる。2回にして欲しい。

など

### ⑦提案・要望など（10件）

- 分別によりコスト削減が行われるならそれが区民に実感できる形で還元されてほしい。

- 外国の市場のように量り売り等、店側もごみの量を減らす方法を考えていただきたい。
- 自治体と区民だけでなく提供する企業の協力が欲しい。
- 「ごみを出さない、少なくする」という基本をアピールするのが先かもしれない。

など

⑧課題に思うこと（15件）

- アパートの方はペットボトルでもなんでも入れていることが多い。
- 匂いが多少あり、夏場はきついように思える。
- プラスチック資源が追加されると確実に集積スペースにおさまらなくなる。
- 年配者の方が多い地域は分別を理解してごみを出せるのが心配。

など

## 第3章 区民アンケート調査結果

### 3.1 調査概要

令和4年7月1日現在の住民基本台帳から無作為に抽出した2,000世帯を調査対象とし、令和4年7月25日に調査票を郵送した。調査票は無記名回答とした。調査票回収状況は以下のとおりである。

表 3-1 区民アンケート回収状況

発送数	2,000 通
宛先不明等による返還数	13 通
返送数	1,012 通
回答率	$1012 \div (2000 - 13) = 50.9\%$

### 3.2 回答世帯の属性

#### (1)年齢

回答者の年代は、30代までが合計で22.9%、40代が20.1%、50代が20.6%などとなっている。

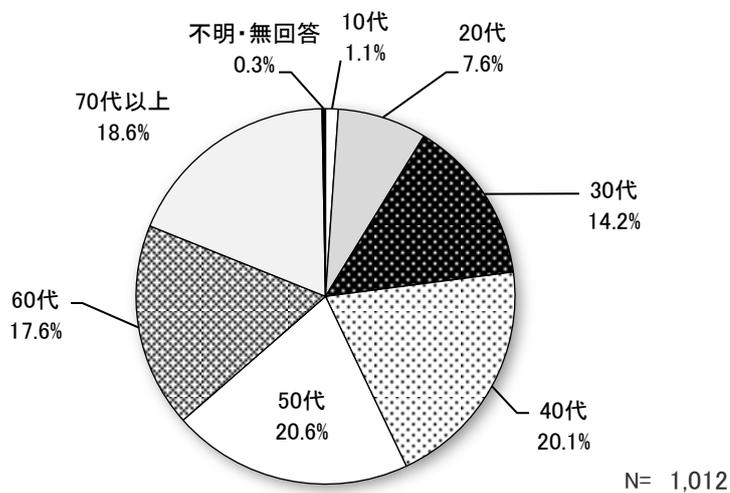
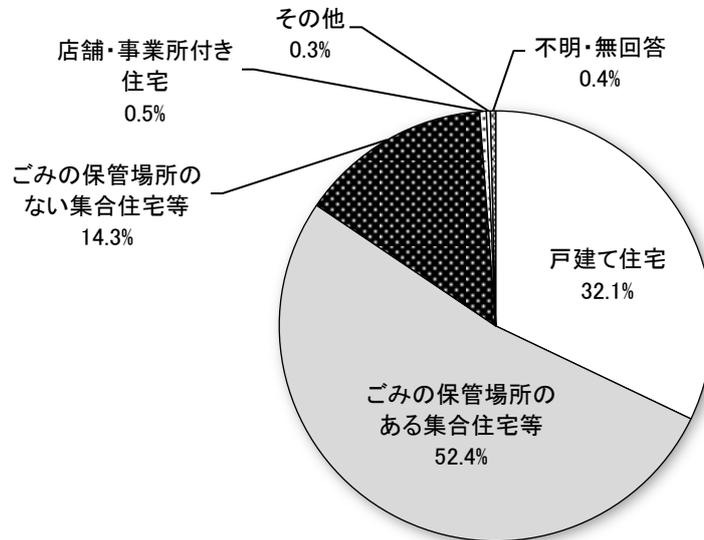


図 3-1 回答世帯の属性（年齢）

## (2)住居形態

回答者の住居形態は、「ごみの保管場所のある集合住宅等」が 52.4%、「ごみの保管場所のない集合住宅等」が 14.3%で、集合住宅居住世帯が約 2/3 を占めている。

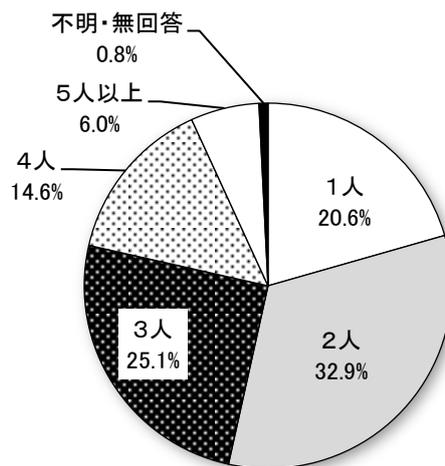


N= 1,012

図 3-2 回答世帯の属性（住居形態）

## (3)世帯人数

回答者の世帯人数は、2人世帯が最も多く 32.9%、次いで3人世帯 25.1%、単身世帯 20.6%等となっている。



N= 1,012

図 3-3 回答世帯の属性（世帯人数）

#### (4)居住地域

回答者の居住地域は下表の通りとなっている。

表 3-2 回答世帯の属性（居住地域）

町名	回答数	割合
相生町	9	0.9%
赤塚	41	4.1%
赤塚新町	24	2.4%
小豆沢	29	2.9%
泉町	2	0.2%
板橋	34	3.4%
稲荷台	11	1.1%
大原町	12	1.2%
大谷口	10	1.0%
大谷口上町	13	1.3%
大谷口北町	9	0.9%
大山金井町	4	0.4%
大山東町	9	0.9%
大山西町	11	1.1%
大山町	5	0.5%
加賀	19	1.9%
上板橋	16	1.6%
熊野町	7	0.7%
小茂根	32	3.2%
幸町	5	0.5%
栄町	11	1.1%
坂下	39	3.9%
桜川	8	0.8%
清水町	11	1.1%
志村	30	3.0%
新河岸	9	0.9%
大門	2	0.2%
高島平	81	8.0%
東新町	14	1.4%
常盤台	22	2.2%

町名	回答数	割合
徳丸	64	6.3%
中板橋	12	1.2%
仲宿	21	2.1%
中台	18	1.8%
仲町	9	0.9%
中丸町	10	1.0%
成増	58	5.7%
西台	18	1.8%
蓮沼町	10	1.0%
蓮根	42	4.2%
氷川町	10	1.0%
東坂下	5	0.5%
東山町	9	0.9%
富士見町	7	0.7%
双葉町	9	0.9%
舟渡	10	1.0%
本町	11	1.1%
前野町	47	4.6%
三園	15	1.5%
南町	10	1.0%
南常盤台	13	1.3%
宮本町	12	1.2%
向原	14	1.4%
大和町	7	0.7%
弥生町	5	0.5%
四葉	10	1.0%
若木	18	1.8%
不明・無回答	9	0.9%
合計	1,012	100.0%

### 3.3 プラスチックごみ問題について

#### (1) プラスチックごみ問題について関心

問 1-1 あなたはプラスチックごみ問題について関心がありますか。(○は1つ)

「やや関心がある」が 55.9%と最も多く「とても関心がある」29.8%とあわせると、85%以上の回答者がプラスチックごみ問題に関心を持っていると回答している。

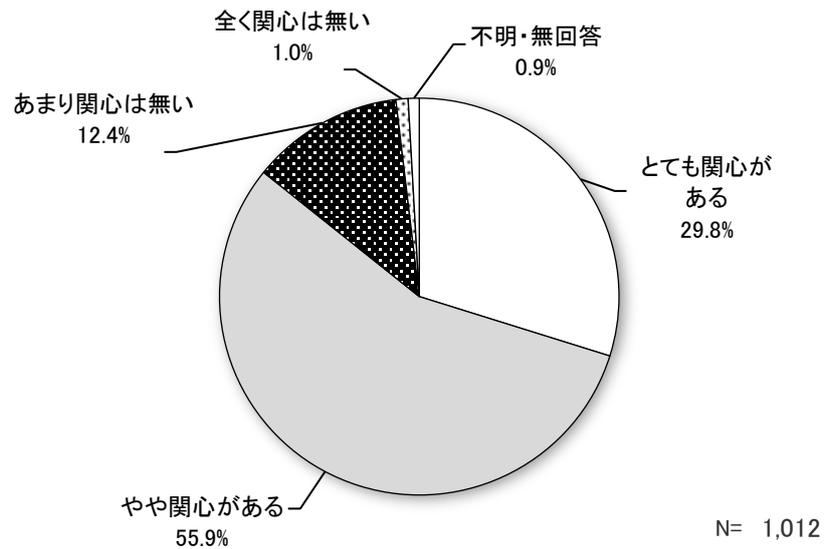
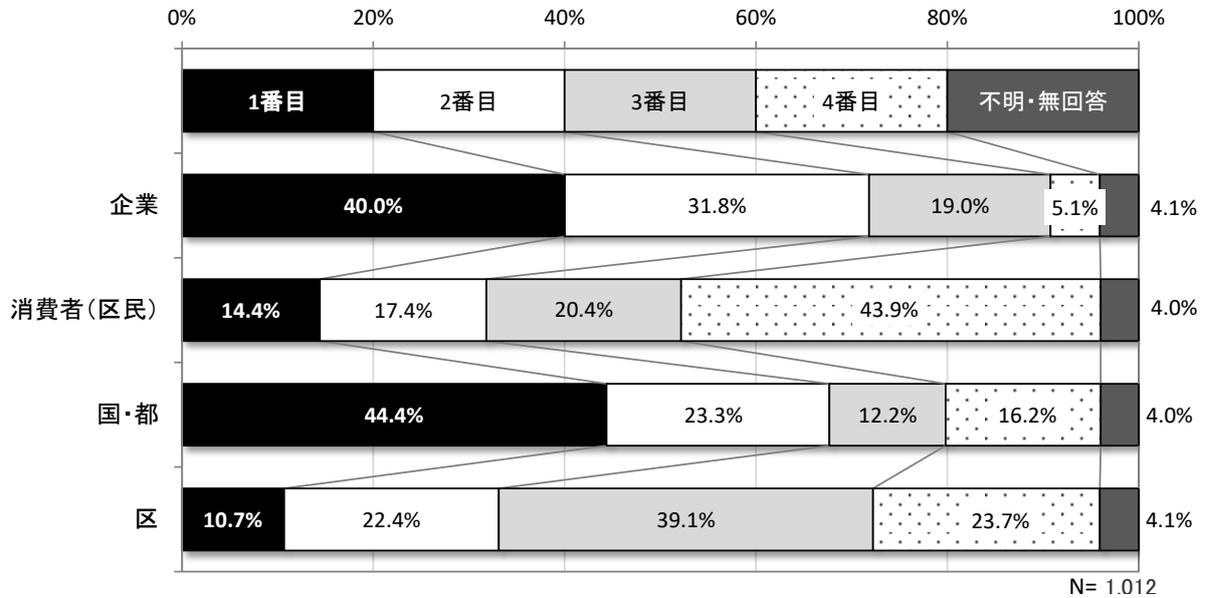


図 3-4 問 1-1 回答結果

(2)プラスチックごみを減らすための取組の優先順位

問1-2 プラスチックごみを減らすには、企業、消費者（区民）、国・都・区といった行政の取組が重要となりますが、その優先順位をどのように考えますか。下欄で順位付けして下さい。（〇は重複しないよう1つずつ）

下図の通り、国・都を優先順位1位とする回答が最も多く、次いで企業が40.0%となっている。



また、優先順位1番目を4点、2番目を3点、3番目を2点、4番目を1点として、各主体の優先順位を数値化したところ、下図の通り企業が最も高く、次いで国・都、区、消費者（区民）の順となった。

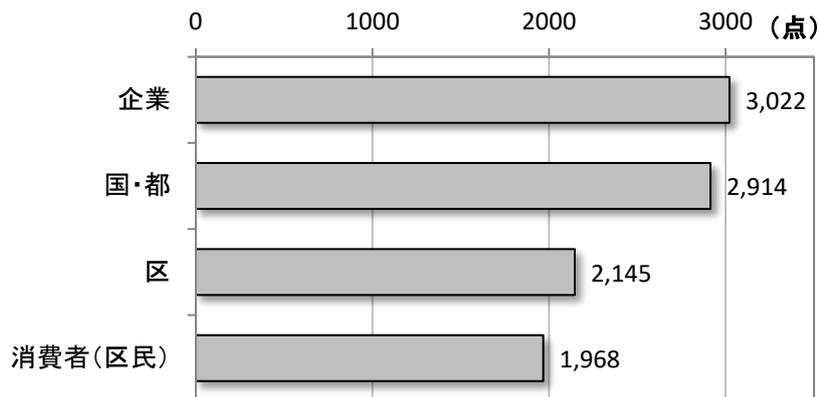


図 3-5 問1-2 回答結果

### (3)プラスチックごみの問題を解決する方向性

問 1-3 プラスチックごみの問題を解決する方向性として、あなたのお考えに近いものをお選びください。(〇は1つ)

プラスチックごみの問題を解決する方向性について、4つの選択肢の中から回答者の考えに近いものを選択していただいた。最も多いのは「消費者の利便性が低下してでも、プラスチック類の製造や利用を規制すべき」とする考え方で、50.7%であった。次いで多いのが「消費者の利便性が低下しない範囲で、企業がプラスチック類の製造や利用を減らし、消費者もプラスチック類の使用削減に協力すべき」とする考え方の19.2%であった。

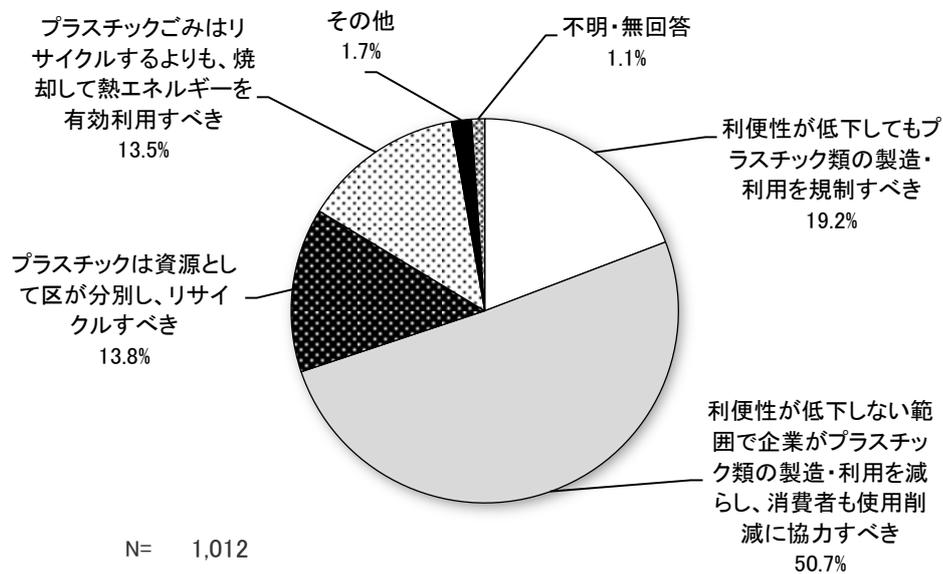


図 3-6 問 1-3 回答結果

#### ■ 「その他」の主な自由回答 (18件)

- きれいなものは資源化し、汚れているものは熱エネルギー回収する。
- 焼却してもCO<sub>2</sub>が出ないプラスチック用の物を開発
- 生分解可能な素材の開発・転換。
- 天然素材の製品を多く流通させる。

など

(4)プラスチック資源循環促進法について

問1-4 あなたは、「プラスチック資源循環促進法」が施行されたことをご存じでしたか。  
(○は1つ)

本年4月に施行されたプラスチック資源循環法については、「知らなかった」とする回答が40.2%と最も多く、「聞いたことがある」が38.8%、「知っている。興味を持っている」  
とする回答が20.5%であった。

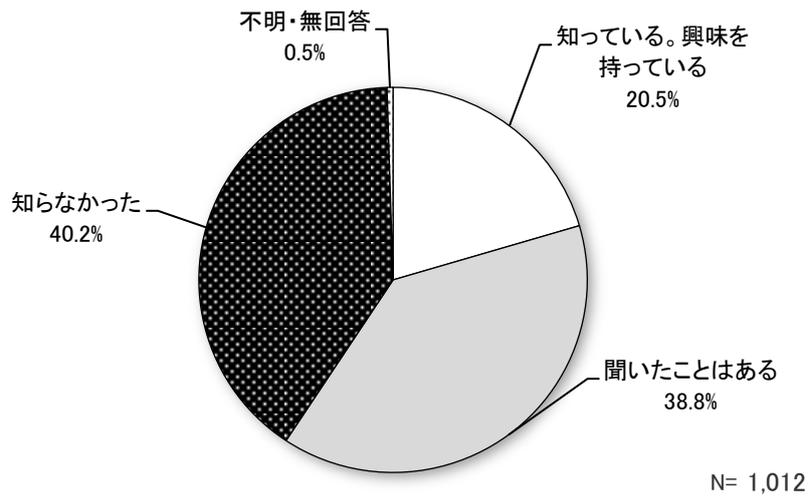


図 3-7 問1-4 回答結果

(5)プラスチックごみ削減に向けた取組について

問 1-5 コンビニや飲食店では使い捨てのストロー・スプーンを廃止したり、ホテルではクシや歯ブラシといったアメニティを希望者のみに渡すなど、企業でもプラスチックごみ削減に向けた取組が始まっています。これについてどのように思いますか。(〇は1つ)

企業のワンウェイプラスチックごみ削減の取組が始まっていることについて尋ねたところ、「知っており、協力したい」とする回答が 75.4%であった。また、「知らなかったが、機会があれば協力したい」が 6.0%で 8 割以上が企業の取組みに肯定的な回答となっている。「知っているが、協力には消極的である」とする回答は 14.6%であった。

■ 「その他」の主な自由回答 (24 件)

- 知っており協力したいが、ケースバイケースで対応したい。(同様 8 件)
- ホテルのアメニティは廃止しないで欲しい。(同様 2 件)
- ストローの紙化はやめてほしい。(同様 3 件)
- 末端で少し減らしてもあまり意味がない。(同様 2 件)
- ワンウェイプラスチックの提供がなくなれば消費者自ら考えるのでは。など

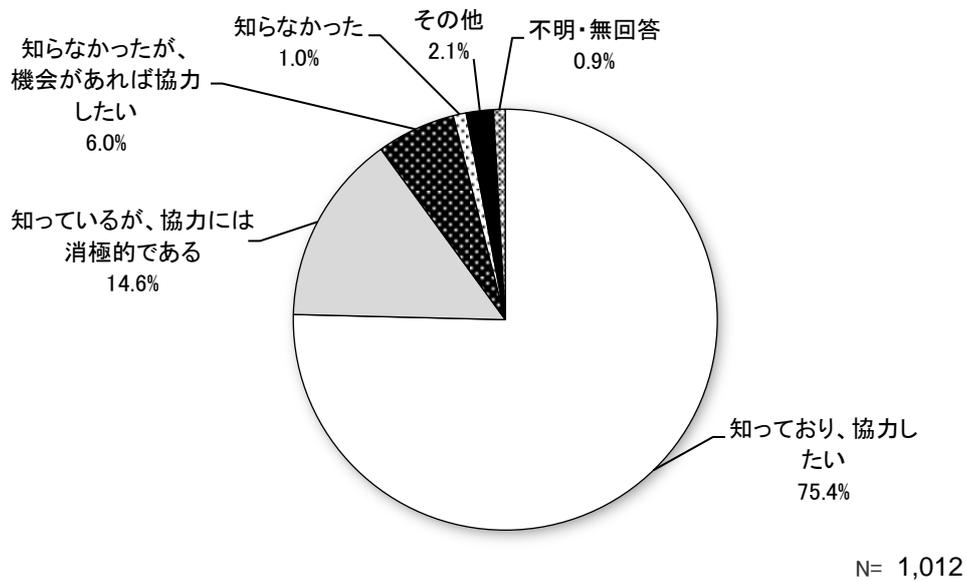


図 3-8 問 1-5 回答結果

(6)使い捨てプラスチックを減らすための取組

問 1-6 使い捨てプラスチックを減らすために、あなたが取り組んでいきたいことに○を付けてください。(○はいくつでも)

ワンウェイプラスチックを減らすために取り組んでいきたいこととして、「シャンプーや洗剤の詰替ボトルを利用する」「買い物袋を持参し、レジ袋は買わない」が80%を超えているほか、「使い捨てのスプーン、ストロー、皿等をもたらわない」「買い物の際、余分なポリ袋はもらわない」がそれぞれ50%を超えている。

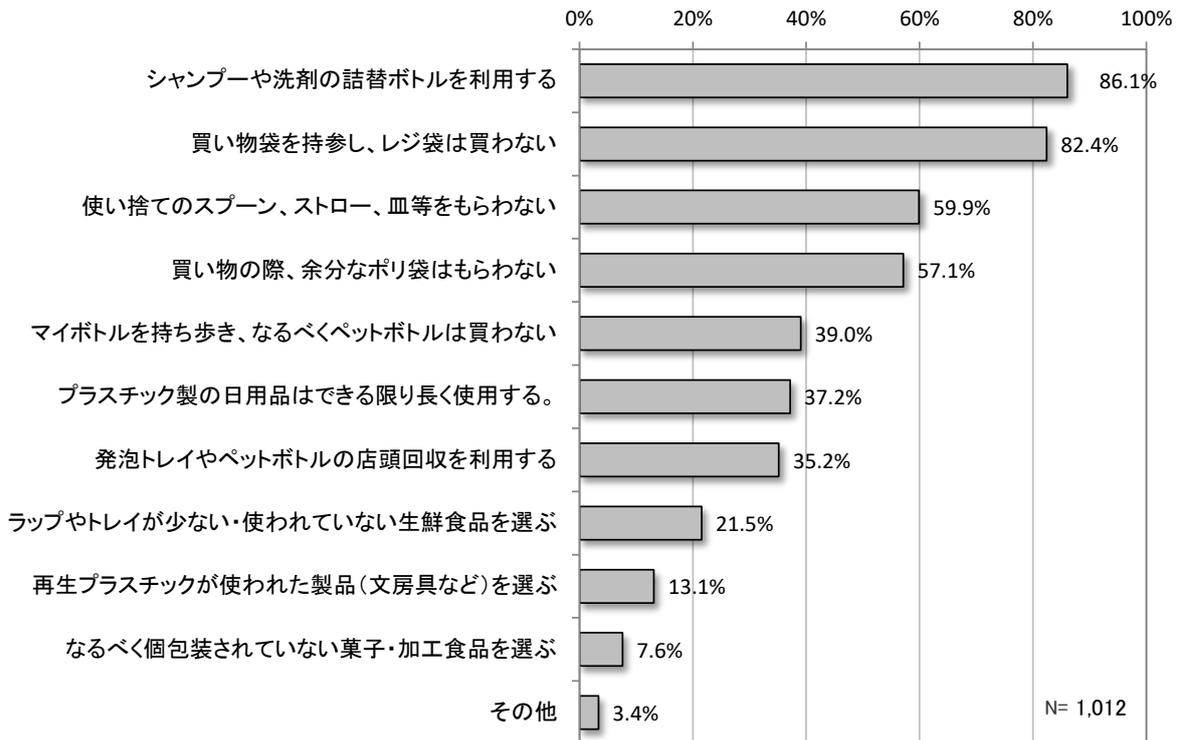


図 3-9 問 1-6 回答結果

■ 「その他」の主な自由回答 (33 件)

- トレイやペットボトルの分別回収に協力している。(同様 6 件)
- ペットボトルの代わりにびん飲料を買うなど、できる範囲でプラスチック製品を買わないようにする。(同様 4 件)
- 店頭回収など地域の回収拠点に持っていく。(同様 3 件)
- 特にしていないことはない。(同様 2 件)
- レジ袋等を使い回す。(同様 2 件)
- 家族への教育、啓発活動など

(7)減らすのは難しいと思う使い捨てプラスチックについて

問1-7 普段の生活の中で、減らすのは難しい（他のものでは代替出来ない、欠かせない）と思う使い捨てプラスチックは何ですか。以下からお選びください。（〇はいくつでも）

「減らすのは難しい」プラスチックとして挙げられたのは「野菜や果物の袋・ラップ」「ペットボトル」「肉などの食料品のトレイ」が多く、いずれも50%を超えている。

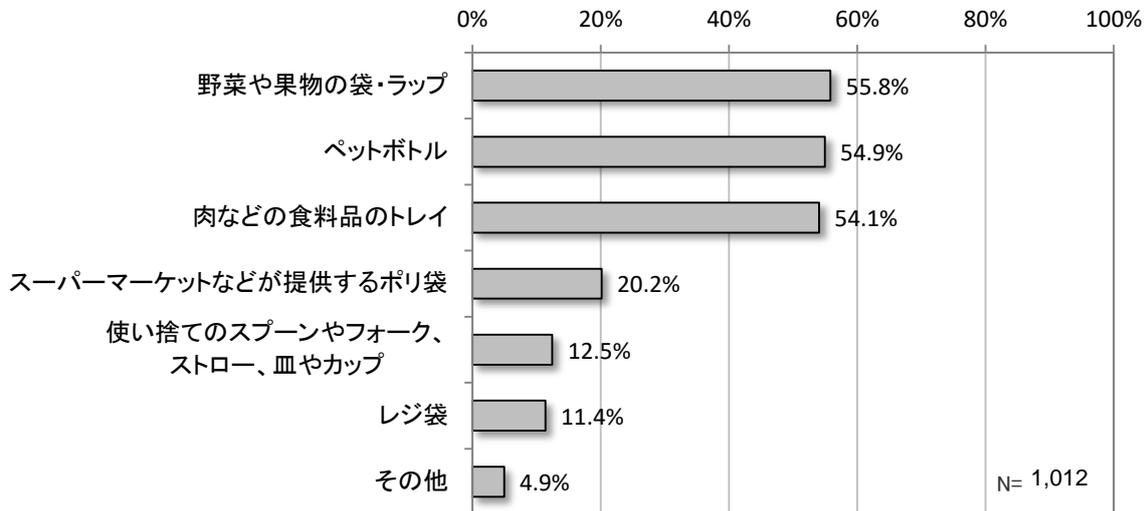


図 3-10 問1-7 回答結果

■ 「その他」の主な自由回答（49件）

- 弁当や惣菜、冷凍食品の容器（同様12件）
- ごみ袋（同様7件）
- 日用品や薬、感染防止用の衛生用品の容器（同様6件）
- 家庭用ラップ（同様3件）
- 菓子類の個包装（同様3件）
- 化繊の衣類
- 特に減らすことが難しいものはない。

など

### 3.4 プラスチックごみの分別収集・リサイクルについて

#### (1)プラスチックごみの収集頻度

問 2-1 プラスチックごみを資源として分別し、週 1 回収集することについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

プラスチック類を週 1 回資源として分別収集することについては、「進んで実施すべき」34.5%、「できる範囲で実施すべき」44.0%と、計 78.5%が賛成の意向であった。

「必要ない」とする回答は 13.1%、「わからない」は 7.7%であった。

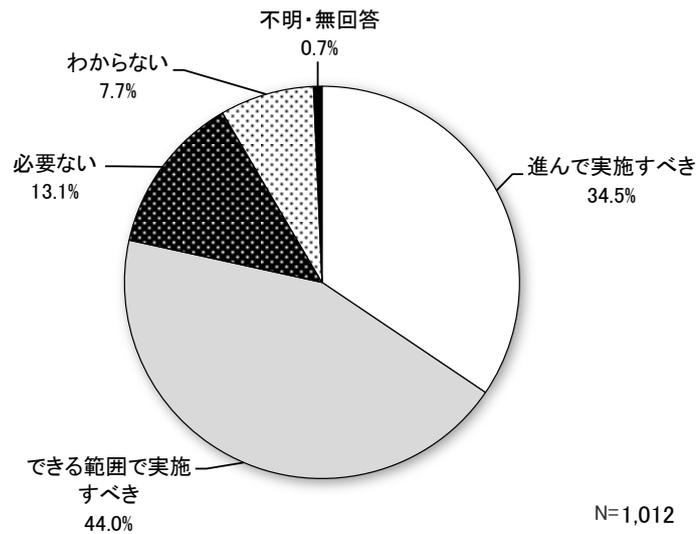


図 3-11 問 2-1 回答結果

## (2)プラスチックごみの収集を実施すべき理由

問 2-2 前問 2-1 で 1. または 2. を選んだ方にお聞きします。「実施すべき」と思う理由は何ですか。あなたの考えに近いものに○を付けてください。(○は1つ)

「プラスチック分別収集を実施すべき」と回答した回答者(794件)に対しその理由を尋ねたところ、「ごみの減量や温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量の削減につながるため」が52.8%と過半数を占め、次いで「具体的なことはよくわからないが、環境に優しい施策ならばやるべきと思うため」が26.4%となった。

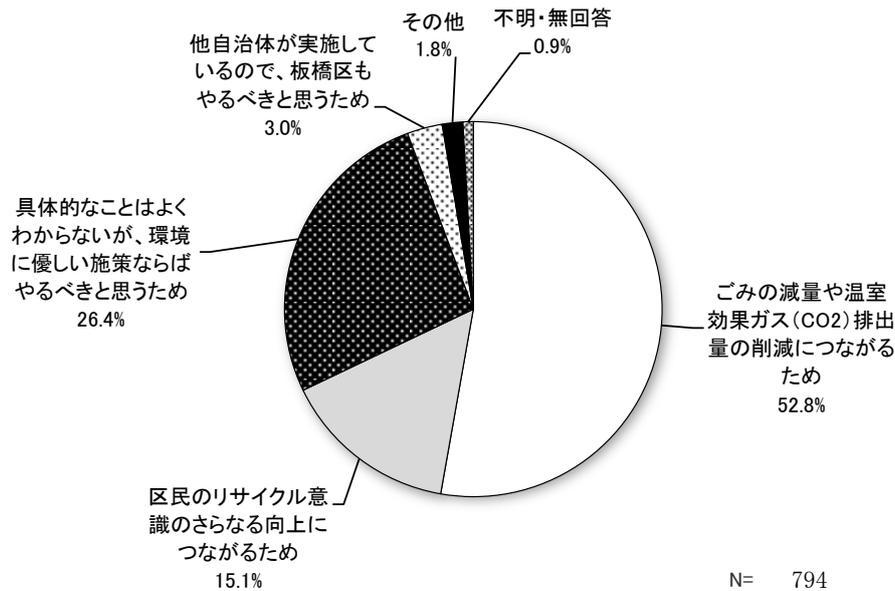


図 3-12 問 2-2 回答結果

### ■ 「その他」の主な自由回答(15件)

- マイクロプラスチックの削減になるから。(同様2件)
- 地球温暖化が深刻なのは理解している。ただ、その話をしたところでリサイクル意識を全員に向上させることは難しい為、区でルールとしていけば従っていい方向に向かうと思う。
- 食品トレイは回収場所が少なくなってしまうため。
- 分別して出張所へ出しているが車がないと持って行けないから。

など

### (3)プラスチックごみの収集について「必要ない」「わからない」と思う理由

問2-3 問2-1で3.または4.を選んだ方にお聞きします。「必要ない」「わからない」と思う理由は何ですか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。(○は1つ)

プラスチック分別収集について「必要ない」「わからない」と回答した回答者(211件)にその理由を尋ねたところ、「分別の手間が増える」が36.0%と最も多く、「現在の処理方法の方が効果的」31.8%、「効果がよく分からず判断できない」23.7%となった。

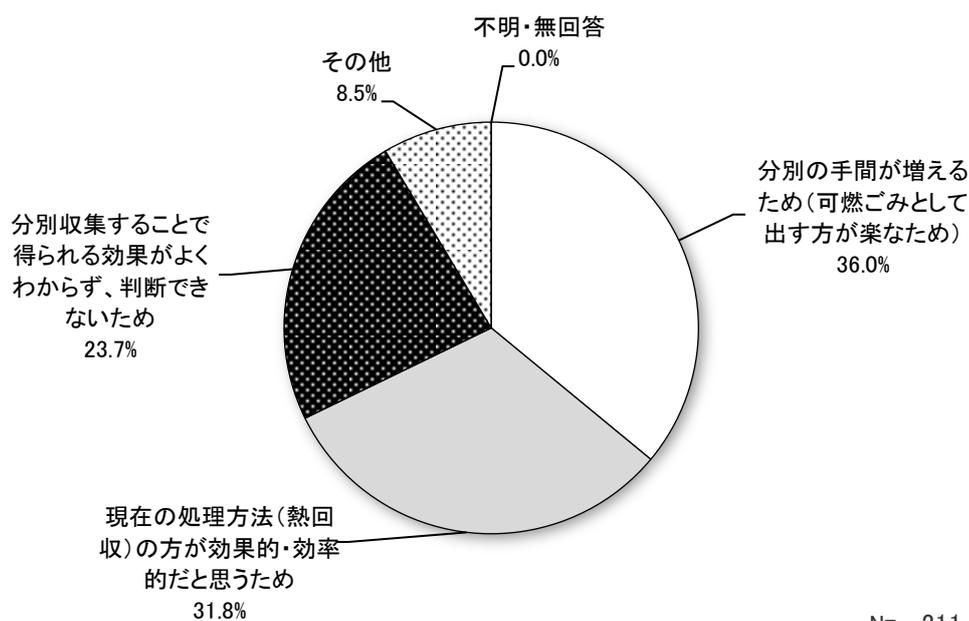


図 3-13 問2-3 回答結果

#### ■ 「その他」の主な自由回答(18件)

- 分別した場合のCO<sub>2</sub>削減効果などが疑問だから。(同様5件)
  - 分別が面倒で協力できない区民が多く出る恐れがある。(同様2件)
  - 汚れたプラスチックを洗うなどが面倒である。(同様2件)
  - 分別収集の費用を子育てなどに回して欲しい。
  - 近所のスーパーでトレイの店頭回収があるから。
- など

#### (4)プラスチックごみの分別収集の手間について

問 2-4 すべての方にお聞きします。プラスチックごみを資源として週1回分別収集する場合、紙や金属などの異物が入らないようにしていただくほか、食品などで汚れたプラスチックについては、水で洗うなど付着物を除いていただく必要があります。このような手間についてどのように思いますか。(○は1つ)

異物を混入しないようにする、汚れたプラスチックは洗浄する等の手間について尋ねたところ、「手間だとは思うが、できる限り協力したい」とする回答が59.6%と最も多くなった。次いで「特に手間とは思わない」20.8%、「手間だと思うので、あまり協力したくない」13.7%等となっている。

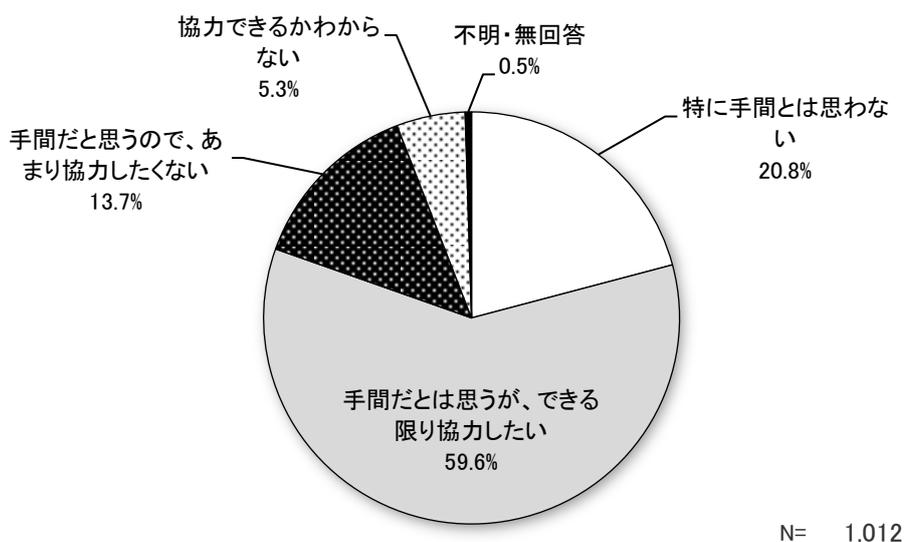


図 3-14 問 2-4 回答結果

(5) 拠点回収の利用

問 2-5 区では、食品用トレイ、ボトル容器、電池、紙パック、古着・古布、廃食用油、小型家電の拠点回収を、地域センターなどの公共施設を中心に行っています。あなたはこれらの拠点回収を利用していますか。(○は1つ)

食品用トレイ、ボトル容器、電池等の拠点回収については、53.5%が「利用している」との回答であった。

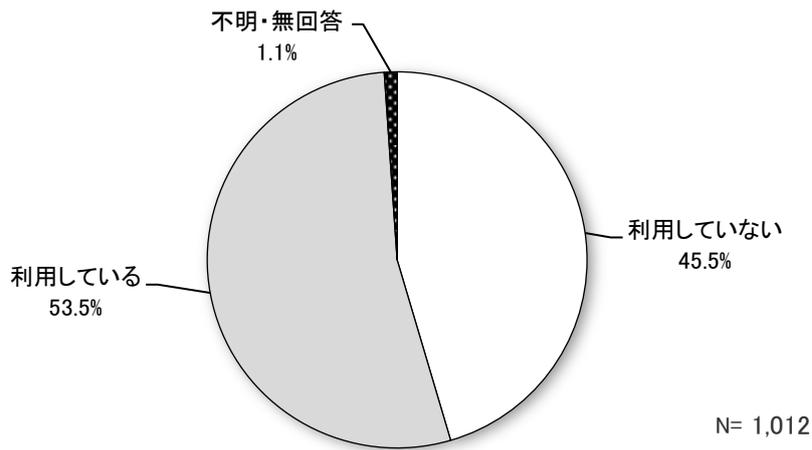


図 3-15 問 2-5 回答結果

また、「利用している」と回答した 541 件についてその具体的品目を尋ねたところ（複数回答）、電池が 79.7%で最も多く、ボトル容器・食品トレイや紙パックがこれに続いているが、いずれも 50%以下であった。

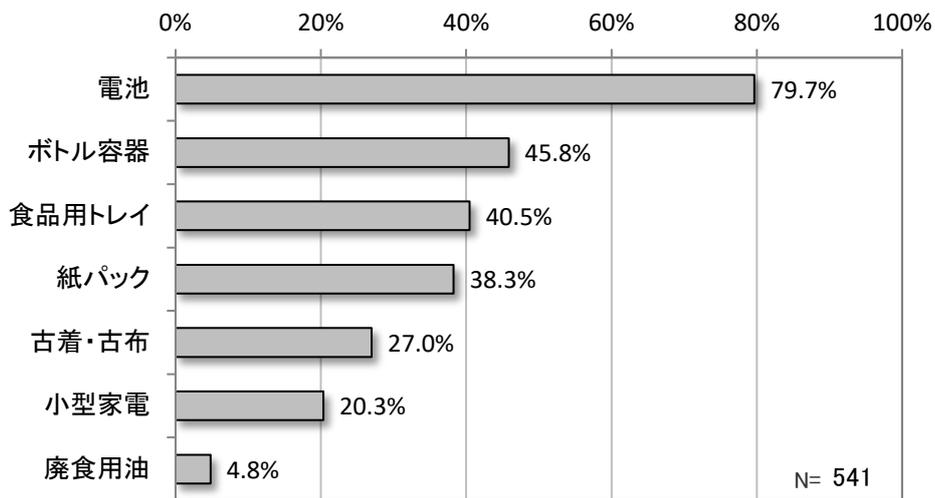


図 3-16 問 2-5 回答結果

(6)食品用トレイとボトル容器の拠点回収の廃止について

問 2-6 食品用トレイとボトル容器の拠点回収を廃止したら困ることはありますか。(○は1つ)

現在実施している食品用トレイ・ボトル容器の拠点回収を廃止することについては、「特に困らない」55.8%、「困ることはある」41.8%と回答が拮抗する結果となった。

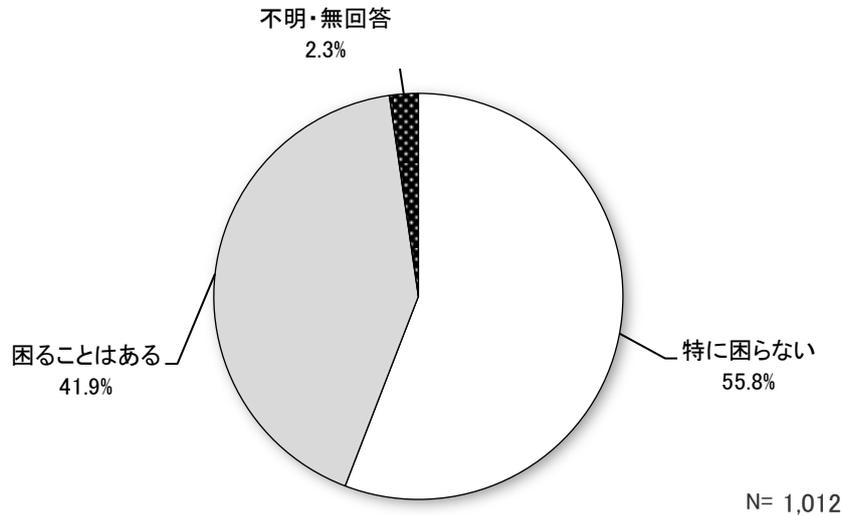


図 3-17 問 2-6 回答結果

困ることの理由(複数回答)としては、「曜日を気にせずいつでも出せなくなる」66.5%、及び「家の中の保管が大変になる」59.2%が多くなっている。

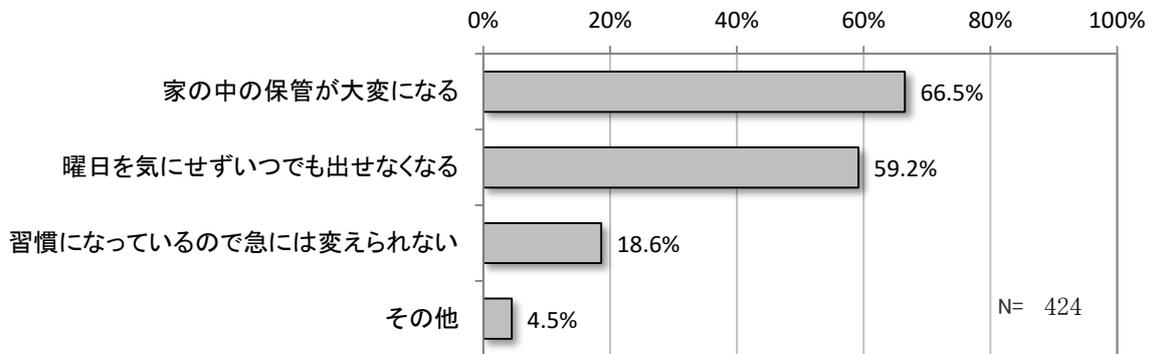


図 3-18 問 2-6 回答結果

■ 「その他」の主な自由回答(15件)

- 廃止する理由・必要性が分からない。(同様2件)
  - 回収拠点が家から近い。
  - プラスチックごみ分別に捨てる人が増え、プラスチックごみ削減に繋がらない。
  - 現在拠点回収を利用していないので分からない。
- など

## (7)プラスチックごみの分別収集で分別に迷いそうな品目

問 2-7 プラスチックごみを資源として週 1 回分別収集する場合、分別に迷いそうな品目がありましたら以下ご自由に記入してください。(例：プラスチックか紙か判別できない袋、アルミのような銀色の袋、汚れの程度、金属が混在しているものや電池が内蔵されているおもちゃ、など)

本問は自由記入であり、400 件の回答が寄せられた。以下に大まかに分類した品目例・記入例を示す（1 件の回答に複数の品目例が書かれている場合もあるため合計は 400 を超える）。

分類別では、金属や紙など他素材との複合品に関する記述が 131 件、汚れ（出して良い汚れの程度、汚れが落ちにくいものの扱い）に関する記述が 123 件と多くあった。他には電子・電気機器やアルミ蒸着物の扱いに関する記述や、ラベル・シールに関する記述等があった。

### ①他素材との複合品（131 件）

（具体的な品目の記入例）

- ボールペン、ティッシュの箱、窓付き封筒、洗濯ばさみ、ハンガー、傘、洗濯ホース、バッグ、ベルト、靴、鉛筆削り、ライター、安全ピンなど

（その他の記入例）

- 金属類などは分離した方が良いのか。
- ティッシュ箱のビニル部分は出せるのか。
- 金属や紙がどうしても取り外せなくても大部分がプラスチックなら出しても良いか。など

### ②汚れが付いたもの（123 件）

（具体的な品目の記入例）

- 食用油のボトル、納豆の容器、ケチャップ、マヨネーズの容器や歯磨き粉のチューブなど

（その他の記入例）

- 落とすべき汚れはどの程度か。
- 濡れていても良いのか。
- 汚れが落ちにくいものはどうしたらよいか。など

### ③電子・電気機器、電池入のおもちゃなど（59 件）

（具体的な品目の記入例）

- イヤホン、電卓、USB ケーブル、リチウムイオン電池、腕時計、ラジコン・ぬいぐるみなど電池入のおもちゃなど

### ④アルミ蒸着のプラスチック、またはアルミニウム容器（51 件）

（具体的な品目の記入例）

- 裏が銀色の食品パッケージ、ヨーグルトの蓋など
- （その他の記入例）
- アルミのグラタン皿はプラスチックか。

- レンジの汚れ防止のアルミはプラスチックか。  
など

#### ⑤プラスチックかどうか判断しにくいもの（36件）

（具体的な品目の記入例）

- セロハンテープ、マスク、ゴム系のサンダル、酒のビン、植木鉢、カーテンレール、化粧品のびんや蓋、調理器具（おたま・フライ返し）、ジブロック等の保冷容器、ビニール紐、CD・DVDディスクなど
- （プラスチック使用製品と考えられるが、迷うものとして記載があった品目）
- 家庭用のラップ、発泡スチロール、シャンプーの詰め替え容器、卵パック、納豆容器、緩衝材（プチプチ）など

（その他の記入例）

- プラスチックでも硬いものと柔らかいものがあり一緒に袋に入れても良いのかわからない。（同様3件）
- ナイロン、ビニール、ポリエチレン、ポリプロピレンなどはすべて「ポリ」に含めて良いのか。それ以前にこれらを素人が見分けるのは難しい。

など

#### ⑥ラベル・シールの付着したもの（17件）

- ラベルやシールが剥がせない場合どうしたらよいか。  
など

#### ⑦紙かプラスチックかが判別しにくい容器包装（16件）

- お菓子の袋など

#### ⑧ペットボトルに関連する記述（12件）

- 調味料やみりんの容器はペットボトルなのか。
- ペットボトルのキャップやラベルは別にするのか。
- 調味料用のペットボトルのラベルが剥がれにくい。
- 外国のペットボトルで色付きのものがある。

など

#### ⑨プラマークに関連する記述（10件）

- プラマークがないものは迷う。
- プラマークが付いているが、プラスチックと紙との複合品の場合は迷う。
- プラスチック製品にもマークを付けて欲しい。

など

#### ⑩サイズに関する記述（4件）

- 衣装ケースや物干し（プラスチック製）は出して良いのか。
- 菓の小袋などとても小さな袋は分別を強制されたくない。
- 出して良い大きさが分からない。

#### ⑪その他（46件）

- やってみたいと分からない。今のところ思いつかない。
- たくさんありそうなので、丁寧な説明が欲しい。

特に迷うものはない。 など

### 3.5 現在のごみ・資源物収集について

#### (1)ごみの分け方・出し方やごみの減量に関する情報の入手先

問 3-1 あなたは、ごみの分け方・出し方やごみの減量に関する情報を主にどこから入手していますか。(〇はいくつでも)

普段のごみ・資源の分別に関する情報源としては、「地域別 資源回収・ごみ収集曜日カレンダー」が41.0%と最も多く、次いで多いのが「集積所の看板」38.5%であった。

「資源とごみの分け方・出し方ハンドブック」は32.7%、「資源とごみの分け方・出し方チラシ」は32.3%とほぼ同数である。

スマートフォン向けアプリ「ITA-Port」を利用しているとの回答は3.0%であった。

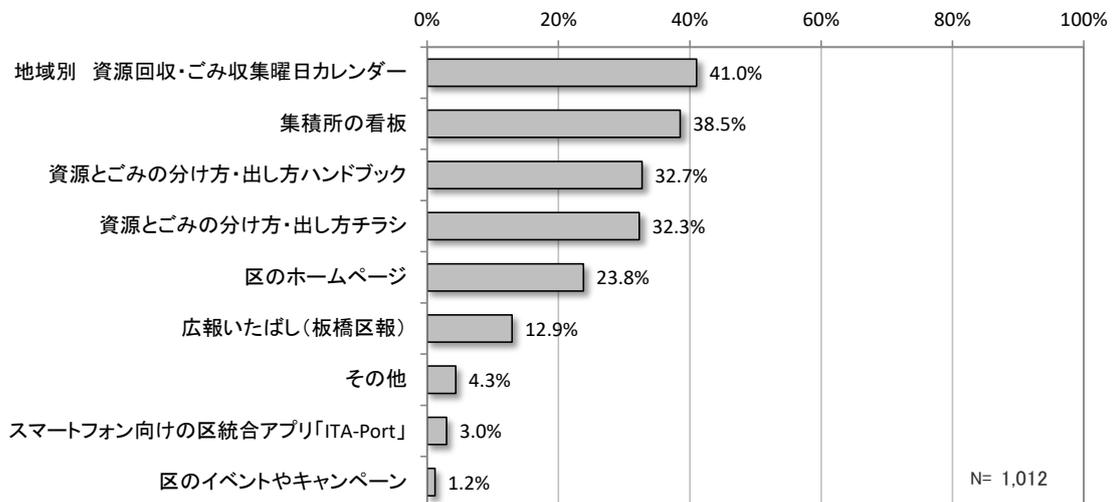


図 3-19 問 3-1 回答結果

#### ■ 「その他」の主な自由回答 (43 件)

- マンションのルール、案内に従っている。(同様 18 件)
- 清掃事務所に電話して聞く。(同様 3 件)
- インターネットの検索で調べる。(同様 3 件)
- 家族に聞く。(同様 2 件)
- 特になにも見ない。(同様 2 件)

など

(2)資源・ごみ分別ルールの変更に関する情報の入手先

問 3-2 プラスチックを資源として分別するなど、資源・ごみ分別ルールの変更に関する情報はどこから入手したいですか。(〇はいくつでも)

プラスチックの分別変更など、資源・ごみ分別ルールの変更に関し希望する情報源としては「集積所の看板」が最も多く、44.8%であった。次いで「資源とごみの分け方・出し方チラシ」が41.1%、「地域別 資源回収・ごみ収集曜日カレンダー」が39.5%、「資源とごみの分け方・出し方ハンドブック」36.0%などとなっている。

ハンドブックやホームページといった伝達手段も前問よりも高い比率となっていることから、分別を変更したことの周知、収集日といった基本的情報は集積所看板やチラシで必ず目に触れるようにしつつも、ハンドブックやホームページにてより詳細な情報を得たいとする意向も働いているものと考えられる。

「その他」には3件の自由記入があったが、いずれも共同住宅単位での周知であった。

図

3-19

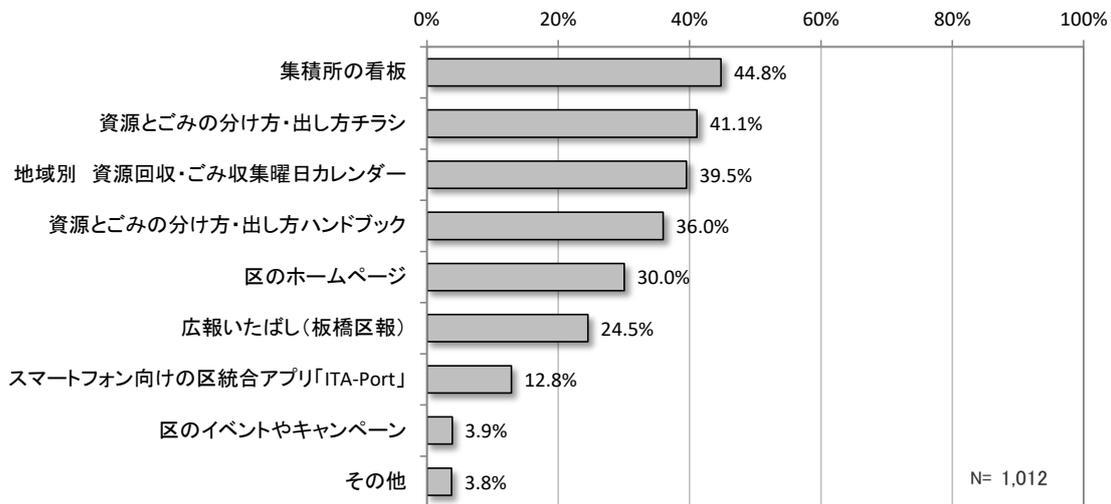


図 3-20 問 3-2 回答結果

### 3.6 ごみ問題やリサイクルに関する意見・要望等（自由記入）

問5 ごみ問題やリサイクルに関するご意見・ご要望等がございましたら、下の欄にご自由にお書きください。

問5の自由記入欄には321件の意見・要望等が寄せられた。概要を以下に整理する。

#### ①プラスチックごみの減量・リサイクルに関する提案等（55件）

- プラスチックをリサイクルで分別したらポイントをもらえるような制度があるといい。（同様5件）
- プラスチックごみの収集が始まって可燃ごみは週3回のままが良い。（同様4件）
- プラスチックごみを資源として回収する場合は、品目を段階的に増やすのはどうでしょうか。最初からたくさんのを分別するのは大変です。（同様3件）
- プラスチックごみは量が多いので収集は週2回が良い。（同様2件）
- エコバックを無料でもらえる機会があると、意識が高まるのではないのでしょうか。プラごみが海の生き物に影響を与えていることを知ってからエコバックを使うようになりました。
- プラスチックを分別収集する場合は集積所で風に飛ばされない工夫が必要。
- プラスチック資源のリサイクルや熱処理の方法を利用者が選べるようにできないか。
- 処分に困るものを捨てられるなんでもボックスのようなものがあったらありがたい。

など

#### ②プラスチックごみ分別への肯定的意見（51件）

- 元々プラとか可燃ごみを分けて出す自治体に住んでいたため都内では分別されず不思議に思っていました。良い取り組みと思うので賛同したいです。
- 23区全域で検討して欲しい。
- 日常生活の中で大量に出るプラごみを可燃ごみとして捨てるたびに罪悪感がある。できるだけ早くプラごみの有効再活用システムを作ってほしい。
- など
- 
- プラスチックごみ分別への否定的意見（55件）
- 現状の分別のままがいいので、変えないで頂きたい。
- プラスチックの分別が必要になった場合、不要な地域に引っ越します。
- 守られない分別には意味がないのでは。
- フルタイムで働いている内は、手間は困る。

など

### ③プラスチックごみの分別・リサイクルに関する疑問・懸念等（42件）

- 分別に反対ではないが、洗浄はかなりの手間になることや水の無駄遣いになることが心配である。（同様 8 件）
- 現在も分別を守らない人がおり、プラスチックの分別が守られるかどうか心配である。（同様 6 件）
- プラスチックの分別が本当に温室効果ガス削減に効率的なのか疑問である。費用対効果を含めたメリット・デメリットを知りたい。（同様 4 件）
- 週 1 回の回収では家庭内の保管が大変だと思う。（同様 2 件）
- スーパーでも店頭回収を積極的に進めてほしい。（同様 2 件）
- ごみを個人で分別することは問題ないと思うが、選別や洗浄などごみに関連して働いているエッセンシャルワーカーのコロナ等の感染症のリスクが懸念される。  
など

### ④プラスチックごみ分別の周知に関する要望等（40件）

- 誰にでも詳しい分け方が分かるように周知方法を工夫して欲しい。（同様 14 件）
- マンション単位で分別に迷うもののサンプルを置いたり、集積所に詳しい貼り紙を貼る、ワンルームマンションに集積所管理人を置くことを義務づけるなど、集合住宅向けの周知をしてほしい。（同様 5 件）
- 細かい分別について、あいうえお順の辞典で参照したりネットで素早く検索できるとよいと思う。（同様 2 件）
- プラスチックごみを分別収集したら何に再生されるかを知りたい。
- ごみ問題が環境に与えている影響を正しく理解したい。
- 小学校でなぜ分別が必要かを考える授業や施設見学などを行って欲しい。  
など

### ⑤現在のごみ収集・資源回収に関する課題・要望（83件）

- 普段使っている集積所のマナーが悪い。（同様 12 件）
- 不燃ごみの収集回数を増やして欲しい。（同様 2 件）
- 古着・古布の回収拠点が分からない。集積所回収をして欲しい。（同様 2 件）
- ごみの収集時間が早すぎる。（同様 2 件）
- 資源の紙類を「紙袋に入れて出す」となっているが、紙袋がないときはどう出したら良いか分からない。
- 食品ロス削減のためエコポリスセンターでも食品を預かれるようにして欲しい。
- 乾電池など周りに収集するところが少ない。もっと生活をしていてどこでも見るところくらいに増やしてほしい。
- プラスチックだけでなく紙のリサイクルも細かく分けて収集してもいいと思う。
- 不法投棄のある集積所に防犯カメラの設置はできないか。
- 空き缶の持ち去りをどうにかしてほしい。  
など

#### ⑥国の政策や企業の役割について（40件）

- 世界に比べたら日本はプラスチックごみが多い。お金を払えばスーパーの袋も買えてしまう。結局ごみは出る。すべてを燃やしても大丈夫なものに企業も積極的に変えるべき。また、その活動を国が責任をもっていくことが大切。
- 国・自治体が持続可能な制度ルール作りを行いプラの削減を実行すべき（カーボンプライシングなど）。
- 企業の脱プラスチックを促進することと、プラスチックと同等の水を通さない素材の開発こそが、プラスチックごみを減らす根本だと考える。
- CO<sub>2</sub>を発生させないような焼却炉の研究を進めてほしい。
- どんどんプラスチックの製品を禁止して欲しい。過剰な包装やストローは必要ない。即禁止して欲しい。
- 牛乳の注ぎ口だけプラスチックの商品がある企業の改善を求めたい。
- コンビニにトレイを回収できるボックスを設置して欲しい。
- プラスチック製品に代わるものを開発して使用してほしい。消費者の分別は最終位置なので、そこにあまり重きを置かなくても良い。

など

#### ⑦本アンケート調査に関する意見（9件）

- 紙を無駄にしないよう、アンケートもネットを活用して欲しい。
- 本アンケートで拠点回収のことを初めて知った。

など

#### ⑧その他（17件）

- ごみ減量のため、ごみの有料化を導入してはどうか。（同様4件）
- 清掃作業員に感謝している。（同様2件）
- 企業（職場）と家庭でのごみの分別が違うので戸惑う。

など

## 第4章 プラスチック資源分別収集量の推定

### 4.1 モニター調査結果の解析

#### (1) プラスチックの発生量（ごみ・資源への排出原単位）

モニター調査で得られた排出原単位については、世帯人員別人口比（令和2年国勢調査）により補正を加えることとする。

世帯人数別のごみ・資源全体の排出原単位は表4-1、その内、プラスチック類の排出原単位は表4-2のとおりである。

表4-1 ごみ・資源の世帯人数別排出原単位（表1-22再掲）

単位:g/人・日

大分類	中分類	細分類	1人	2人	3人	4人	5人	6人	全体	
可燃物	紙類		193.1	222.9	149.4	105.6	145.0	127.9	175.2	
	厨芥		172.4	157.9	108.3	81.4	84.8	148.4	132.7	
	繊維		6.5	9.3	3.3	4.1	6.8	8.3	6.6	
	草木		3.2	9.1	22.9	3.0	1.2	35.3	9.7	
	廃油			0.0	0.9	1.7	0.3	2.2	0.5	
	ゴム・皮革		0.9	1.2	0.4	0.1	2.4	7.1	1.0	
	その他可燃物		17.2	44.5	27.8	42.2	22.2	9.5	33.7	
不燃物	ガラス		44.4	29.3	26.7	13.7	6.6	17.3	26.9	
	金属類		15.2	14.2	14.9	8.5	5.0	8.8	12.7	
	その他不燃		4.0	7.1	2.9	2.4	0.9	2.2	4.4	
	処理困難物									
プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル不可	26.9	15.1	11.9	12.5	13.9	24.4	16.4	
	ペットボトル		9.5	12.4	12.4	9.6	7.2	13.0	11.0	
	その他のプラスチック使用製品		1.6	1.4	1.0	0.8	1.2	0.8	1.2	
	資源プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル可	56.8	38.7	30.5	27.7	26.8	31.0	37.5
		製品プラスチック		4.2	4.2	7.1	3.5	4.9	2.8	4.6
合計			555.9	567.2	420.3	316.7	329.2	439.0	474.3	

表4-2 プラスチック類の世帯人数別排出原単位（表1-24再掲）

単位:g/人・日

大分類	中分類	細分類	1人	2人	3人	4人	5人	6人	全体	
可燃物	紙類		0.3	0.7	0.3	0.7	0.3		0.5	
	厨芥		0.2		0.2	0.0			0.1	
	繊維									
	草木			0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	
	廃油									
	ゴム・皮革			0.0		0.0			0.0	
	その他可燃物		0.1	0.2	0.5	0.2	0.0	0.0	0.2	
不燃物	ガラス									
	金属類		0.1	0.0		0.0	0.1		0.0	
	その他不燃									
	処理困難物									
プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル不可	4.8	4.0	3.8	3.5	2.1	4.3	3.9	
	ペットボトル		0.3	0.1	0.1	0.1	0.2	0.7	0.2	
	その他のプラスチック使用製品		0.2	0.4	0.0	0.3			0.2	
	資源プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル可	47.6	35.4	27.5	25.8	25.4	19.7	33.4
		製品プラスチック		3.0	3.4	6.6	2.9	4.0	1.6	3.8
合計			56.6	44.2	39.1	33.5	32.2	26.3	42.3	

一方、令和2年国勢調査による本区の世帯人員別世帯数・世帯人員は表4-3のとおりである。表4-3の世帯人員割合を用いて表4-1、表4-2の排出原単位（表の「全体」欄）を補正すると表4-4のとおりとなる。

表 4-3 令和2年国勢調査による世帯人員別世帯数・世帯人員

区分	総数	1人世帯	2人世帯	3人世帯	4人世帯	5人世帯	6人世帯	7人以上の世帯
世帯数	314,133	170,849	69,910	39,302	26,764	5,975	1,042	291
世帯人員	573,898	170,849	139,820	117,906	107,056	29,875	6,252	2,140
世帯人員割合	100.0%	29.8%	24.4%	20.5%	18.7%	5.2%	1.1%	0.4%

資料：総務省統計局「令和2年国勢調査結果」

表 4-4 排出原単位補正結果

単位：g/人・日

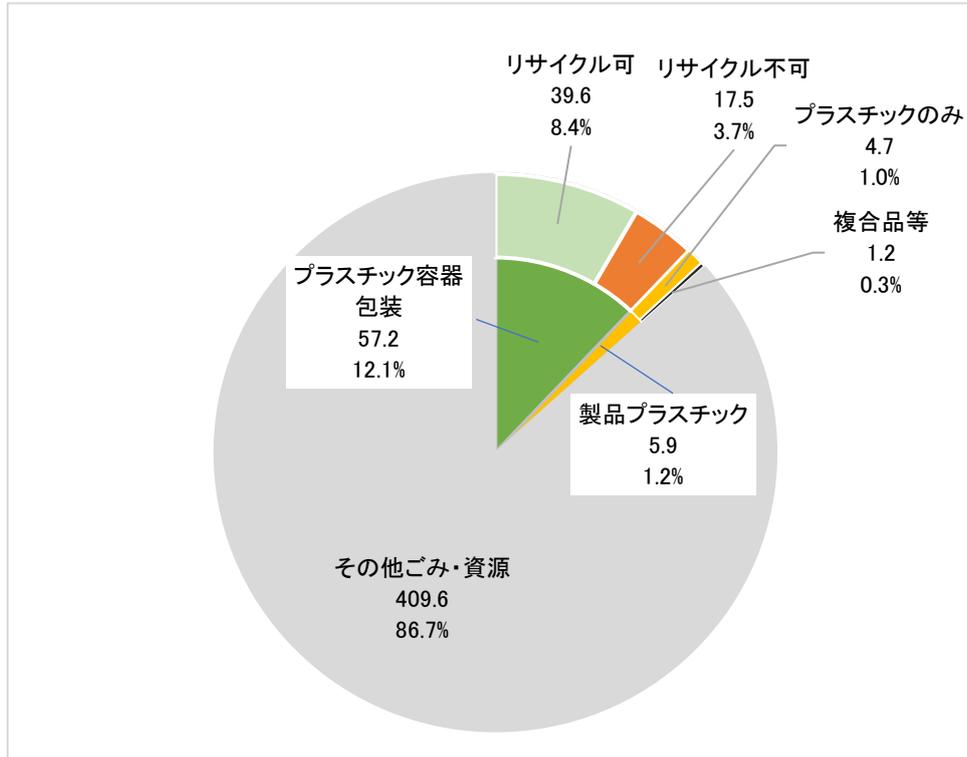
大分類	中分類	細分類	ごみ・資源への排出	内、プラスチックへの排出
可燃物	紙類		171.6	0.5
	厨芥		133.8	0.1
	繊維		6.1	
	草木		9.0	0.0
	廃油		0.5	
	ゴム・皮革		0.9	0.0
	その他可燃物		30.9	0.2
不燃物	ガラス		29.0	
	金属類		13.0	0.0
	その他不燃		4.0	
	処理困難物			
プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル不可	17.5	4.0
	ペットボトル		10.7	0.2
	その他のプラスチック使用製品(複合品)		1.2	0.2
資源プラスチック	プラスチック製容器包装	リサイクル可	39.6	34.9
	製品プラスチック		4.7	3.8
合計			472.7	44.0

表4-4より、ごみ・資源の排出量に対するプラスチック類（ペットボトルを除く）の排出割合をグラフ化したものが図4-1である。

ごみ・資源排出原単位472.7g/人日の内、プラスチック製容器包装は57.2g/人日(12.1%)、製品プラスチックは5.9g/人日(1.2%)となっている。

プラスチック製容器包装の内、リサイクル可能なものは 39.6g/人日、リサイクル不可のものが 17.5g/人日であった。また、製品プラスチックは、プラスチックのみでできているものが 4.7g/人日、その他のプラスチック使用製品（複合品）が 1.2%であった。

図 4-1 ごみ・資源排出原単位に占めるプラスチック



(2)プラスチックの分別排出状況

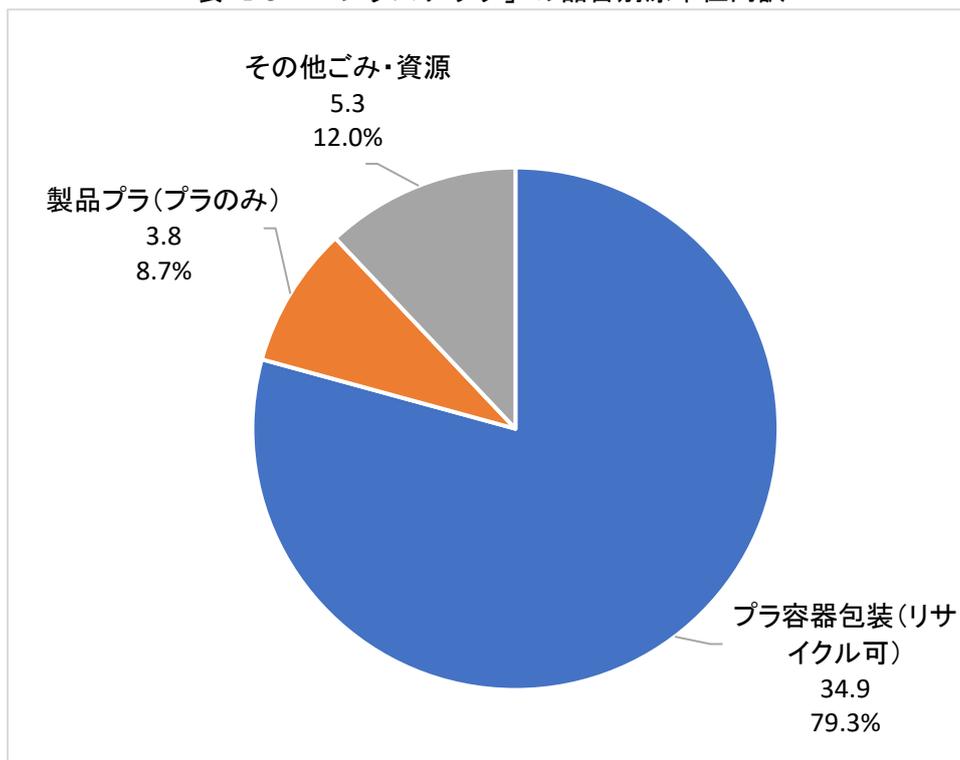
表 4-4 より、プラスチック類（ペットボトルを除く）の排出量を整理したものが表 4-5 である。家庭内での出るリサイクル可能なプラスチック資源 44.3g/人日の内、87.4%にあたる 38.7g/人日が「プラスチック」に排出された。これは大変高い水準と言える。結果として、「プラスチック」に排出された 44.0g/人日の内、分別対象外のものは 5.3g/人日（12.0%）にとどまり、88%は分別適合物であった。

表 4-5 プラスチック類の排出先別原単位

単位:g/人・日

品目	ごみ・資源への排出	内、プラスチックへの排出
リサイクル可能なプラスチック製容器包装	39.6 (100.0%)	34.9 (88.0%)
プラスチックのみの製品プラスチック	4.7 (100.0%)	3.8 (82.1%)
合計	44.3 (100.0%)	38.7 (87.4%)

表 4-6 「プラスチック」の品目別原単位内訳



## 4.2 分別収集量の推定

### (1)推定方法

プラスチック類の分別収集を行った場合の分別収集量は、以下の手順で推計した。

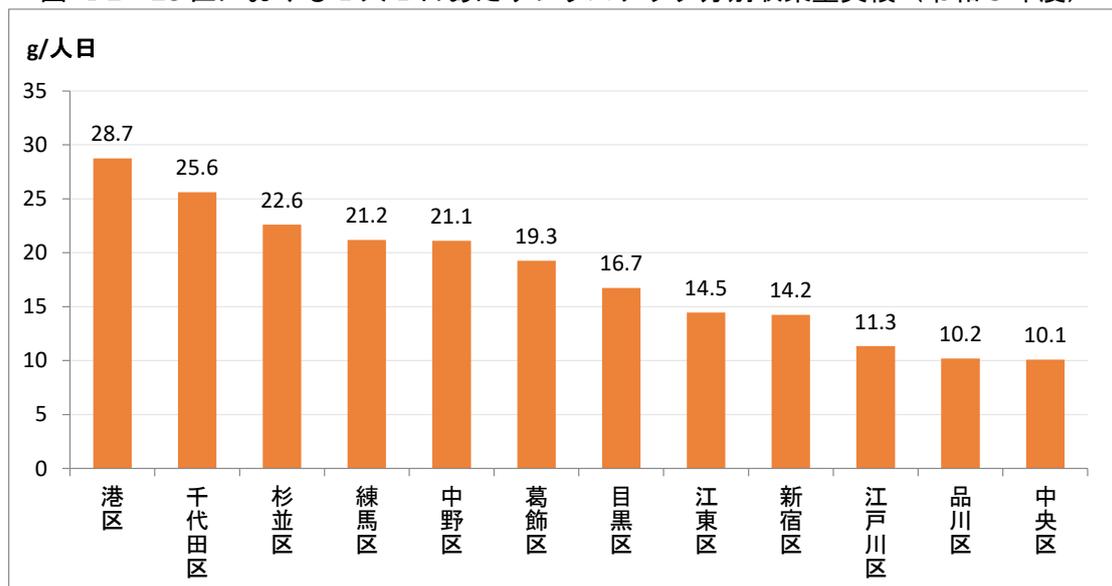
- ①家庭内で発生したプラスチックの内、資源分別される割合（分別率）の設定
- ②プラスチック資源に排出されるものの不純物割合の設定
- ③プラスチック分別収集量＝プラスチック発生量×分別率÷（1－不純物割合）

#### ①分別率の設定

前節に見るように、モニター調査における分別率は 87.4%と高水準であった。実際に全区域に分別収集を導入した場合は、対面説明の上御協力いただいたモニター調査程の分別率は得られないものと想定される。

参考として 23 区における 1 人 1 日あたりプラスチック分別収集量（原単位）の実績を見ると（図 4-2）、中央値は 18g/人日であった（目黒区と葛飾区の平均）。この中央値をプラスチック類の排出原単位 44.3g/人日（表 4-5）に当てはめると、分別率は 40.6%となる。これを参考にしつつ分別率は 40%と設定することとした。

図 4-2 23 区における 1 人 1 日あたりプラスチック分別収集量実績（令和 3 年度）



※千代田区・港区はプラスチック製容器包装・製品プラスチックを分別収集対象としている。

#### ②不純物割合の設定

表 4-7 は、23 区におけるプラスチック分別収集量・指定法人引渡量の令和 3 年度実績である。分別収集されたものの内、不純物等を選別後に指定法人に引き渡される割合は、「製品プラスチック」も分別収集対象としている千代田区・港区を除くと、80%台の後半から 90%台である。すなわち、選別除去される不純物の割合は 10%前後である。

そこで、プラスチック資源に排出されるものに含まれる不純物の割合をここでは 10%と設定することとした。

表 4-7 23 区におけるプラスチック分別収集量・指定法人引渡量（令和 3 年度）

区	分別状況	R3プラ分別収集量(選別前)		R3プラ指定法人引渡量 トン(分別収集量に対する割合%)
		年間収集量t	原単位 g/人日	
千代田区	全プラ	627	25.6	482 (76.9%)
中央区	容器包装プラ	632	10.1	607 (96.1%)
港区	全プラ	2,705	28.7	1,597 (59.0%)
新宿区	容器包装プラ	1,780	14.2	1,570 (88.2%)
江東区	容器包装プラ	2,778	14.5	2,342 (84.3%)
品川区	容器包装プラ	1,508	10.2	1,201 (79.6%)
目黒区	容器包装プラ	1,708	16.7	1,691 (99.0%)
渋谷区	全プラ	令和4年7月開始		
中野区	容器包装プラ	2,568	21.1	2,232 (86.9%)
杉並区	容器包装プラ	4,713	22.6	4,188 (88.9%)
練馬区	容器包装プラ	5,722	21.2	5,068 (88.6%)
葛飾区	容器包装プラ	3,249	19.3	2,911 (89.6%)
江戸川区	容器包装プラ	2,865	11.3	2,637 (92.0%)

## (2)分別収集量の推定

(1) の設定値に基づきプラスチック資源の分別収集量を推定する。なお、推定は以下の 2 ケースについて行った。

- ケース 1：プラスチック製容器包装のみを対象とするケース（容プラ）
- ケース 2：プラスチック製容器包装及び製品プラスチックを対象とするケース（全プラ）

家庭内で発生する資源化可能なプラスチック類の排出原単位は、表 4-5 より容器包装 39.6g/人日、製品プラ 4.7g/人日、合計で 44.3g/人日である。従って、プラスチック資源の分別収集量（原単位）は以下のとおり算定される。

（ケース 1：容プラ）

$$\text{プラスチック資源原単位} = 39.6 \times \text{分別率 } 40\% \div (1 - \text{不純物割合 } 10\%) = 17.6\text{g/人日}$$

（ケース 2：全プラ）

$$\text{プラスチック資源原単位} = 44.3 \times \text{分別率 } 40\% \div (1 - \text{不純物割合 } 10\%) = 19.7\text{g/人日}$$

なお、令和 3 年度の本区のごみ・資源収集実績は表 4-8 のとおりであり、可燃ごみの排出原単位は 482.4g/人日である。プラスチック資源を分別収集した場合、可燃ごみ量がその分減少すると想定し、可燃ごみの分別収集量（原単位）は以下のとおり算定される。

（ケース 1：容プラ）

$$\text{可燃ごみ原単位} = 482.4\text{g/人日} + 0.2\text{g/人日 (トレイ・ボトル)} - 17.6\text{g/人日} = 465.0\text{g/人日}$$

(ケース2：全プラ)

可燃ごみ原単位=482.4g/人日+0.2g/人日(トレイ・ボトル)−19.7g/人日=463.0g/人日

表 4-8 令和3年度ごみ・資源収集実績

品目	年間収集量 (t)	原単位 (g/人日)
可燃ごみ	100,102	482.4
不燃ごみ※	-	-
粗大ごみ	4,192	20.2
資源	14,348	69.2
内、食品用トレイ・ボトル容器	41	0.2
ピックアップ回収	3,478	16.8
集団回収	11,867	57.2
ごみ・資源総量	133,987	645.8

※不燃ごみは全てピックアップ回収

令和3年10月1日人口： 568,457 人

以上より、プラスチック資源及び可燃ごみの原単位・日収集量・年間収集量のケース別の推定結果を表 4-9 に示す。

表 4-9 プラスチック資源・可燃ごみの推定収集量

項目	ケース1 (容プラ)	ケース2 (全プラ)
プラスチック資源原単位(g/人日)	17.6	19.7
プラスチック資源	15.8	17.7
プラスチック製容器包装	15.8	15.8
製品プラスチック	-	1.9
不純物	1.8	2.0
プラスチック資源日収集量(t/日)	10.0	11.2
プラスチック資源	9.0	10.1
プラスチック製容器包装	9.0	9.0
製品プラスチック	-	1.1
不純物	1.0	1.1
プラスチック資源年間収集量(t/年)	3,654	4,085
プラスチック資源	3,288	3,676
プラスチック製容器包装	3,288	3,288
製品プラスチック	-	388
不純物	365	408
可燃ごみ収集量		
可燃ごみ原単位(g/人日)	465.0	463.0
可燃ごみ日収集量(t/日)	264.4	263.2
可燃ごみ年間収集量(t/年)	96,489	96,058

表 4-9 にて得られた結果を元に資源化率を算定した結果を表 4-10 に示す。ケース 1 においては資源化率は現状より 2.7 ポイントアップの 24.9%、ケース 2 は 3 ポイントアップの 25.2%となった。

表 4-10 ケース別資源化率の推定結果

	現状	ケース1 (容プラ)	ケース2 (全プラ)
可燃ごみ	100,102	96,489	96,058
不燃ごみ※	-	-	-
粗大ごみ	4,192	4,192	4,192
ごみ合計	104,293	100,681	100,249
(現状からの削減率)	-	(-3.5%)	(-3.9%)
資源	14,348	17,961	18,392
内、プラスチック資源	41	3,654	4,085
ピックアップ回収	3,478	3,478	3,478
集団回収	11,867	11,867	11,867
ごみ・資源総量	133,987	133,987	133,987
資源化率	22.2%	24.9%	25.2%

※不燃ごみは全てピックアップ回収に含む

資源化率 = (資源収集量 + ピックアップ回収量 + 集団回収量) ÷ ごみ・資源総量

## 第5章 二酸化炭素削減効果の推定

### 5.1 推定方法

プラスチック類の分別収集を行った場合、現状と比較して二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量がどのように増減するかを以下の3項目にて行った。

- ① 収集運搬車両の稼働量増加による CO<sub>2</sub> 排出量の増分
- ② プラスチック類を焼却せずに再商品化することによる CO<sub>2</sub> 排出量の削減分
- ③ 焼却施設での廃棄物発電による CO<sub>2</sub> 削減効果が減少することによる電力会社での CO<sub>2</sub> 排出量の増分

### 5.2 二酸化炭素削減効果の推定

#### (1) 収集運搬車両の稼働量増加による CO<sub>2</sub> 排出量増分

現在本区においては、可燃ごみは週3回収集、食品トレイ・ボトル容器は拠点回収を実施している。プラスチック資源の分別収集導入にあたり、プラスチック資源の収集頻度を週1回、可燃ごみを週3回とし、パッカー車による収集を想定して必要車両台数の計算を行った。

表5-1が算定結果である。「現状」の欄は、現在月水金・火木土の2区域割で可燃ごみ収集を行っており、トリップ数（収集地域と処理施設との1日の往復回数）5回、積載重量1.2トン/台とした場合、69台の車両台数が必要であることを示している。令和4年度現在、区ではパッカー車73台（小型プレス、新大型特殊車、新中型特殊車の合計。積載重量は車種により異なる）を運用しているため、ほぼ現状を再現している。

さらに、ケース1（容プラ）においては可燃ごみ収集車両が2台減少するものの容器包装プラ分別収集に13台を要するため、差し引き11台の車両増となる。また、ケース2（全プラ）では可燃ごみ収集車両は3台減少、プラスチック分別収集に15台を要するため、差し引き12台の車両増となる。なお、ここで算定した燃やすごみ収集車両台数は、あくまでパッカー車による収集を想定したシミュレーションである。

表 5-1 ケース別必要車両台数の算定結果

項目	単位	現状 (可燃ごみ)	ケース1(容プラ)		ケース2(全プラ)		備考
			可燃ごみ	容プラ	可燃ごみ	全プラ	
収集区域割り	区域	2	2	6	2	6	①
平均日排出量	t/日	274.3	264.4	10.0	263.2	11.2	②
最大日間隔	日	3	3	7	3	7	③
最大日収集量	t/日	411.4	396.5	11.7	394.8	13.1	④=②×③÷①
トリップ数	回	5	5	3	5	3	⑤設定値
積載重量	t/台	1.20	1.20	0.30	1.20	0.30	⑥設定値
必要車両台数	台	69	67	13	66	15	⑦=④÷⑤÷⑥
現状との増減台数	台	-	+11		+12		

① 週3回収集の場合、月水金・火木土の2区域、週1回収集の場合月～土の6区域

② 表4-9による

③ 週2回収集の場合最大4日間、週1回収集の場合7日間

⑤ 1日あたりの収集地域と処理施設間の往復回数

⑥ パッカー車の積載重量を可燃ごみ1.2トン、プラスチック類0.3トンと設定

次に、算定した車両台数を元に、グリッド・シティ・モデル（収集区域内の集積所がグリッド状に均等配置され、収集車両がグリッドに沿って走行するものと仮定し、走行距離や環境負荷等をモデル計算する手法）を用いて CO<sub>2</sub> 排出量を試算する。

算定結果は表 5-2 に示すとおりであり、現状との比較において、ケース 1 では約 159.2 トン、ケース 2（全プラ）では約 173.2 トン、収集運搬車両の稼働量が増加することによる CO<sub>2</sub> 排出量増となる結果となった。

表 5-2 プラスチック資源の分別収集による CO<sub>2</sub> 排出量増分の算定

項目	変数名	計算式	単位	現状	ケース1		ケース2		備考
				可燃ごみ	可燃ごみ	容プラ	可燃ごみ	全プラ	
地理状況	行政面積	Ap	km <sup>2</sup>	32.22	32.22	32.22	32.22	32.22	板橋区面積
	直径相当距離	Lr = $\sqrt{(4Ap/\pi)}$	km	6.40	6.40	6.40	6.40	6.40	
	正方形相当辺長	L = $\sqrt{Ap}$	km	5.68	5.68	5.68	5.68	5.68	
	収集有効面積率	r	%	90.1	90.1	90.1	90.1	90.1	専用工場・空き地を除く面積率(令和3年4月土地利用現況)
	収集面積	A = Ap × r	km <sup>2</sup>	29.03	29.03	29.03	29.03	29.03	
収集体制	収集回数	f	回/週	3	3	1	3	1	設定値
	地区割り	g	地区	2	2	6	2	6	〃
	収集方式			ステーション	ステーション	ステーション	ステーション	ステーション	
	収集箇所	N	箇所	15,864	15,864	15,864	15,864	15,864	20世帯に1ヵ所で設定
	収集車両台数	B	台	69	67	13	66	15	算定値
	トリップ数	C	回/日	5	5	3	5	3	設定値
<b>【集積所収集走行距離】</b>									
集積所あたり面積	AN	=A/N	km <sup>2</sup>	0.00183	0.00183	0.00183	0.00183	0.00183	集積所収集距離とは、収集車両1台が1日に集積所間を収集する距離を言う。ここでは、車両が空の状態から満杯になるまで(1トリップ)に回る集積所エリアを正方形のブロックと見なし、1ブロック内の走行距離×トリップ数(C)で、集積所収集距離を算出した。
集積所あたりの一辺	LN	= $\sqrt{AN}$	km	0.043	0.043	0.043	0.043	0.043	
1トリップあたり集積所数	m	=N/g/B/C	箇所	23.0	23.7	67.8	24.0	58.8	
1トリップあたり収集面積		=m×AN	km <sup>2</sup>	0.0421	0.0433	0.1241	0.0440	0.1075	
ブロック内走行距離		=m $\sqrt{AN}$	km	0.98	1.01	2.90	1.03	2.51	
1日あたり走行距離	dG1	=C×m $\sqrt{AN}$	km	4.92	5.06	8.70	5.14	7.54	
<b>【集積所～選別・保管施設走行距離】</b>									
中間処理施設立地				区内	区内	区外	区内	区外	焼却施設については板橋清掃工場立地を勘案し設定。プラスチック類については区外施設までの距離を設定し算出した。
ブロック～施設間距離	L	設定値	km	5	5	10	5	10	
1日あたり施設間走行距離	dG2	=L×C×2	km	50.0	50.0	60.0	50.0	60.0	
全車両年間走行距離	dG	=(dG1+dG2)×B×f×g×50	km/年	1,136,794	1,106,794	267,931	1,091,794	303,931	
<b>【走行距離からCO<sub>2</sub>排出量の算定】</b>									
燃費(CNG車)	Q1	設定値	m <sup>3</sup> /km	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	「LCA とコストからみる市町村廃棄物処理の現状」(2003年3月、東京市町村自治調査会)による。
燃料使用量	P1	=Q1×dG	m <sup>3</sup>	341,038	332,038	80,379	327,538	91,179	
CO <sub>2</sub> 排出係数	k1	設定値	kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	2.23	2.23	2.23	2.23	2.23	東京都「地球温暖化対策計画書制度」での設定値。
CO <sub>2</sub> 排出量	R1	=P1×k1	kg-CO <sub>2</sub> /年	760,515	740,445	179,246	730,410	203,330	
<b>【CO<sub>2</sub>排出量全合計】</b> (現状からの増分)	R	= $\Sigma R1$	kg-CO <sub>2</sub> /年	760,515	919,691 (159,176)		933,740 (173,225)		

## (2)プラスチックの再商品化による CO<sub>2</sub> 削減量

プラスチック類を再商品化した場合の CO<sub>2</sub> 削減係数は「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価」（海洋プラスチック問題対応協議会、2019）によることとした（表 5-3）。

表 5-3 プラスチック再商品化による CO<sub>2</sub> 削減係数

再商品化手法	CO <sub>2</sub> 削減係数 (t-CO <sub>2</sub> /t)
マテリアルリサイクル ※1	1.65
ケミカルリサイクル ※2	3.24

※1 「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価」 p.45 表 5-26 による。

※2 同、p.87 表 5-119 による。

マテリアルリサイクル（材料リサイクル）は、廃プラスチックをパレットや再生樹脂にリサイクルする手法である。一方、ケミカルリサイクルは、油化（炭化水素油として利用）、ガス化（アンモニア原料等として利用）、高炉還元剤化（高炉における還元剤として利用）、高炉原料化（高炉におけるコークス代替品として利用）といった手法がある。表 5-3 は、マテリアル・ケミカルのそれぞれの手法をまとめて平均化した削減係数となっている。

また、表 5-3 に見るとおり、プラスチック類の再商品化による CO<sub>2</sub> 削減効果は再商品化の手法により大きく異なるが、現行の容器包装リサイクル制度の下では再商品化事業者は指定法人（公益財団法人日本容器包装リサイクル協会）による入札で決定され、市区町村が選択することはできない。

指定法人資料によるとプラスチック製容器包装の再商品化手法の全国比率は、令和 3 年度実績でケミカルリサイクル 46.5%、マテリアルリサイクル 53.5%であった。また、東京都下市区町村の令和 4 年度落札数量で見ると、ケミカルリサイクル 60.5%、マテリアルリサイクル 39.5%であった。

そこで、ケース 1（容プラ）とケース 2（全プラ）の双方において、以下の 3 パターンで削減効果を算定することとした。

- 全てマテリアルリサイクルする場合
- マテリアルリサイクルとケミカルリサイクルが 50%ずつ混在する場合
- 全てケミカルリサイクルする場合

再商品化対象となるプラスチック類の年間量は表 4-9 のプラスチック資源量（不純物を除く）とし、表 5-3 の削減係数を適用すると、各ケースの CO<sub>2</sub> 削減効果は表 5-4 に示すとおりとなった。

表 5-4 再商品化による CO<sub>2</sub> 削減量

項目		単位	ケース1(容プラ)			ケース2(全プラ)		
			マテリアルリサイクルのみ	マテリアル・ケミカル併用	ケミカルリサイクルのみ	マテリアルリサイクルのみ	マテリアル・ケミカル併用	ケミカルリサイクルのみ
プラ再商品化量	再商品化量合計	t	3,288	3,288	3,288	3,676	3,676	3,676
	マテリアルリサイクル	t	3,288	1,644	0	3,676	1,838	0
	ケミカルリサイクル	t	0	1,644	3,288	0	1,838	3,676
CO <sub>2</sub> 削減係数	マテリアルリサイクル	t-CO <sub>2</sub> /t	1.65	1.65	1.65	1.65	1.65	1.65
	ケミカルリサイクル	t-CO <sub>2</sub> /t	3.24	3.24	3.24	3.24	3.24	3.24
CO <sub>2</sub> 削減量 (再商品化量×削減係数)	マテリアルリサイクル	t-CO <sub>2</sub>	5,426	2,713	0	6,066	3,033	0
	ケミカルリサイクル	t-CO <sub>2</sub>	0	5,327	10,654	0	5,956	11,911
	合計	t-CO <sub>2</sub>	5,426	8,040	10,654	6,066	8,989	11,911

### (3)ごみ発電減による電力会社での CO<sub>2</sub> 排出量増分

プラスチック類の分別収集によって焼却施設での廃棄物発電による CO<sub>2</sub> 削減効果がなくなり、電力会社で再生エネルギー使用量が減る ico とになるため、CO<sub>2</sub> 排出量が増加する。プラスチック 1 トンあたりの CO<sub>2</sub> 排出量増加量は、先の「プラスチック製容器包装再商品化手法およびエネルギーリカバリーの環境負荷評価」では 0.734t-CO<sub>2</sub>/t となっている（参考文献 p.102 表 5-153 による）。

ただし、この値は全国の焼却施設における発電効率を 12.81%と設定している。板橋清掃工場における発電効率は 16.26%（公称値）であるため、以下のとおり排出係数を補正した。

$$0.734 \times (16.26 \div 12.81) = 0.934 \text{ t-CO}_2/\text{t}$$

この排出係数と、表 4-9 に示したプラスチック類の再商品化量より、CO<sub>2</sub> 排出量の増分は、

(ケース 1 : 容プラ)

$$3,288\text{t} \times 0.934 = 3,071 \text{ t-CO}_2$$

(ケース 2 : 全プラ)

$$3,676\text{t} \times 0.934 = 3,434 \text{ t-CO}_2$$

となる。

### (4)推定結果

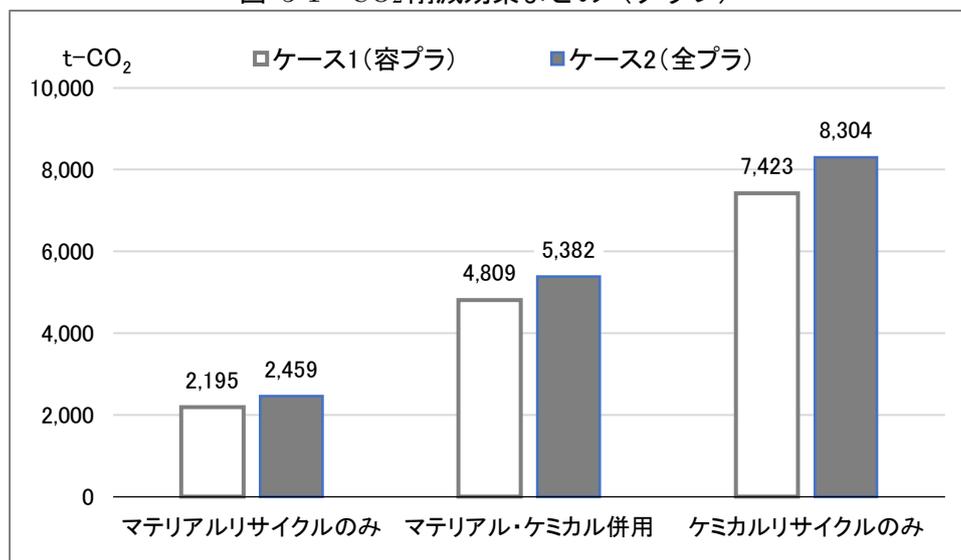
上記 (1) ~ (3) の CO<sub>2</sub> 増分及び削減効果を表 5-5、図 5-1 にまとめた。

分別収集の対象（ケース 1・ケース 2）や再商品化手法によりばらつきはあるものの、いずれにおいても一定の CO<sub>2</sub> 削減効果が期待される。マテリアルリサイクル・ケミカルリサイクルを半分ずつ併用して再商品化した場合、プラスチック製容器包装を分別収集するケース 1 においては 4,856 トン、全プラスチックを対象とするケース 2 では 5,410 トンの CO<sub>2</sub> 削減効果を得られる。

表 5-5 CO<sub>2</sub>削減効果まとめ

項目	ケース1(容プラ)			ケース2(全プラ)		
	マテリアルリサイクルのみ	マテリアル・ケミカル併用	ケミカルリサイクルのみ	マテリアルリサイクルのみ	マテリアル・ケミカル併用	ケミカルリサイクルのみ
集運搬に伴うCO <sub>2</sub> 排出増	159	159	159	173	173	173
②再商品化によるCO <sub>2</sub> 削減効果	▲5,426	▲8,040	▲10,654	▲6,066	▲8,989	▲11,911
③焼却施設におけるエネルギー回収量の減少によるCO <sub>2</sub> 排出増	3,071	3,071	3,071	3,434	3,434	3,434
削減量計	▲2,195	▲4,809	▲7,423	▲2,459	▲5,382	▲8,304

図 5-1 CO<sub>2</sub>削減効果まとめ (グラフ)



## 第6章 分別収集にかかる費用の分析

### 6.1 費用分析の方法

プラスチック類の分別収集にかかる費用の分析は以下の項目について行った。

#### (1) 収集車両台数増による収集運搬費（増加分）

プラスチック資源を分別収集した場合の車両台数は、表 5-1 に示したとおりケース 1（容プラ）では 11 台、ケース 2（全プラ）では 12 台増加するものと試算される。

ここでは収集運搬車両 1 台あたりの年間委託費を 2,400 万円／台と設定し、車両増加による委託費増分を算定することとする。

#### (2) 収集したプラスチック資源の選別・保管委託費

23 区でプラスチック類の分別収集を行っている区では、港区を除き全て民間委託による収集したプラスチック類の選別・保管を行っている（表 6-1）。また、ヒアリングによると選別・保管委託単価は 60～70 円/kg の例が多くなっている（図 6-1）。

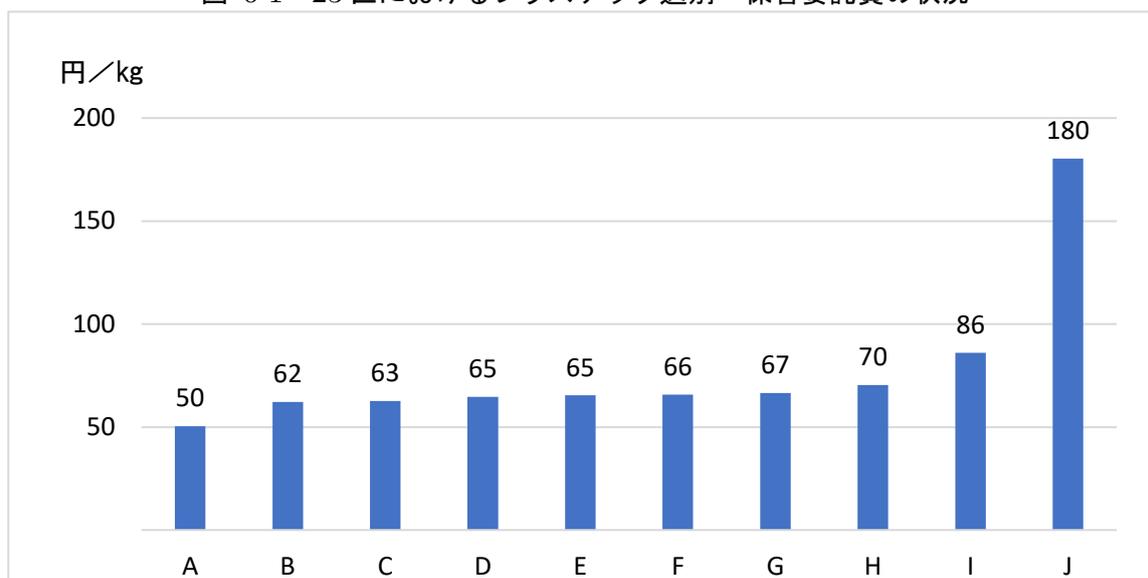
ここでは、プラスチック資源収集物 1 トンあたりの選別・保管委託単価を 7 万円とし、委託費用を算定することとする。

表 6-1 23 区におけるプラスチック選別・保管委託状況

市区町村	民間委託事業者名	施設名称	委託内容		
			運搬	選別保管	製品プラの資源化
千代田区	株式会社トベ商事	第7作業所		○	
中央区	株式会社要興業	城南島リサイクルセンター	○	○	○
新宿区	株式会社トベ商事	第7作業所		○	
江東区	有明興業株式会社	有明興業株式会社リサイクルポート		○	
品川区	株式会社JR東日本環境アクセス	JR東日本東京資源循環センター		○	
目黒区	品川運輸株式会社	京浜島リサイクルセンターリバーズ2002		○	
渋谷区	有明興業株式会社	京浜島工場		○	○
中野区	株式会社トベ商事	第7作業所		○	
杉並区	大谷清運株式会社	リサイクルプラントリボーン		○	
練馬区	柳金属株式会社	新倉リサイクルセンター		○	
葛飾区	大谷清運株式会社	リサイクルプラントリボーン		○	
江戸川区	江戸川環境保全事業協同組合	江環境エコセンター	○	○	

※港区は公設施設

図 6-1 23 区におけるプラスチック選別・保管委託費の状況



※J 区は収集運搬委託費も含む

### (3)指定法人にプラスチック製容器包装を引き渡す際の市町村負担分

現行の容器包装リサイクル制度では、再商品化義務履行の対象外となる小規模事業者分の再商品化費用を市区町村が負担することとなっており、プラスチック製容器包装における市町村負担分は再商品化費用の1%となっている。

ここでは、プラスチック製容器包装の再商品化費用単価を 55,492 円/トン（令和 4 年度指定法人落札単価の平均）とし、引き渡したプラスチック製容器包装の1%分を区が負担するものとした。

### (4)指定法人に対する製品プラスチックの再商品化委託費

プラスチック資源循環促進法の施行により、プラスチック製容器包装と製品プラスチックを市区町村が一括回収し、指定法人に引き渡すことのできるしくみ（32 条スキーム）が導入された。

本スキームでは製品プラスチックの再商品化費用は市区町村の負担となっており、国による特別交付税等による支援が予定されているものの、現時点ではその詳細が明らかになっていないため、ここでは令和 4 年度指定法人落札単価の全国平均 55,492 円/トンで製品プラスチックの再商品化を行うものとした。

## 6.2 費用分析結果

前節(1)～(4)に基づき、費用分析を行った結果を表6-2に示す。

ケース1(容プラ)においては約5億2千万円、ケース2(全プラ)においては約6億円の追加的費用が必要になる結果となった。

なお、収集運搬費用の算定に用いた収集車両台数の増分は、パッカー車による収集を想定したシミュレーションにより算出している(積載重量は可燃ごみ1.2トン、プラスチック資源0.3トンで算出。表5-1参照)。収集区域によっては狭小路地が多い、大規模集合住宅があるなど、シミュレーション以上に車両台数(収集費用)を要する可能性があることに留意が必要である。

表 6-2 費用分析結果

ケース	部門	数量	単価	コスト増分 (千円)
ケース1 (容プラ)	収集運搬	11台増	2,400 万円/台	264,000
	選別・保管	3,654t	7 万円/t	255,750
	再商品化(小規模事業者分)	3,288t	555 円/t	1,825
	合計			521,575
ケース2 (全プラ)	収集運搬	12台増	2,400 万円/台	288,000
	選別・保管	4,085t	7 万円/t	285,940
	再商品化(小規模事業者分)	3,288t	555 円/t	1,825
	再商品化(製品プラ)	388t	55,492 円/t	21,538
	合計			597,303

## 第7章 プラスチック分別収集導入に向けた提案

### 7.1 プラスチック資源の分別収集導入に向けた論点整理

前章までの実態調査及びCO<sub>2</sub>削減効果や分別収集費用等の分析を踏まえ、以下にプラスチック資源のリサイクルに関する課題を整理する。ごみ減量効果、CO<sub>2</sub>削減効果といった定量的な分析結果は表 7-1 のとおりである。

表 7-1 プラスチック資源リサイクルに関する定量的論点

論点	調査・分析結果	課題等
(1)ごみ減量効果・資源化率の向上効果	<p>【ごみ削減効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ケース 1 (容プラ) : -3.5%</li> <li>○ケース 2 (全プラ) : -3.9%</li> </ul> <p>【資源化率】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ケース 1 (容プラ) : 24.9% (+2.7 ポイント)</li> <li>○ケース 2 (全プラ) : 25.2% (+3.0 ポイント)</li> </ul> <p>※表 4-10 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○使い捨てプラスチックの使用削減や食品トレイ等の店頭回収を区民に呼びかけるといったプラスチック類の排出抑制策の推進は別途必要である。</li> </ul>
(2)CO <sub>2</sub> 削減効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ケース 1 (容プラ) : 2,195~7,423 t-CO<sub>2</sub> の削減</li> <li>○ケース 2 (全プラ) : 2,459~8,304 t-CO<sub>2</sub> の削減</li> </ul> <p>※表 5-5 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○削減効果は、指定法人入札による再商品化手法により大きく左右される。</li> <li>○ケース 2 でプラスチック資源循環促進法の 33 条スキーム(再商品化事業者と連携し再商品化計画に基づく再商品化を実施)を採用した場合は、再商品化の手法を選択可能。</li> </ul>
(3)分別収集・再資源化にかかる費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ケース 1 (容プラ) : 5.2 億円/年</li> <li>○ケース 2 (全プラ) : 6.0 億円/年</li> </ul> <p>※表 6-2 参照</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ケース 2 における国の特別交付税等による支援措置は考慮していない。</li> </ul>

また、定性的な論点としては区民の分別協力、収集運搬体制の整備等、さまざまな視点が考えられる。主な定性的論点を表 7-2 に示す。

表 7-2 プラスチック資源リサイクルに関する定性的論点

論点	調査・分析結果	課題等
(4)区民の分別協力	<p>○区民アンケート調査では、プラスチック資源の分別収集について 78.5%が賛成の意向であった。 (図 3-11)</p> <p>○実際にプラスチック資源の分別を行ったモニターへのアンケート調査でも 78.2%が分別収集に賛成の意向であった。 (図 2-4)</p>	<p>○区民アンケート調査・モニターアンケート調査の双方で、プラスチック資源の分別収集は必要無いとする意見が 1 割程度見られる。プラスチック資源リサイクルの必要性に関する周知が引き続き必要である。</p>
(5)分別品質の確保	<p>○モニター調査においては、家庭内で発生するプラスチック資源の 87.4%が「プラスチック」に分別排出され、「プラスチック」に排出された 44.0g/人日の内、分別対象外のものは 12.0%にとどまった。 (表 4-5)</p> <p>○他方、モニターアンケート調査では分別収集を行って見て「多少面倒」「とても面倒」だったとする回答が 81.2%となっていた。 (図 2-1)</p> <p>○6 割以上のモニターが、「分別が面倒」だった点として「汚れたプラスチックの洗浄」「収集日までの保管」「分別に迷う品目」を挙げている。 (図 2-2)</p>	<p>○プラスチックの分別収集を全区域に拡大した場合、モニター世帯で得られたような高い水準での分別協力を得る事は困難であるため、汚れたプラスチックや異物の混入を防ぎ、分別品質を確保するための工夫が必要である。</p>
(6)収集運搬体制の整備・中間処理施設の確保	<p>○可燃ごみの週 3 回収集を維持し、プラスチック資源を週 1 回の「資源」の日に回収する場合、プラスチック資源収集用に 11~12 台のパッカー車が必要である。 (表 5-1)</p> <p>○プラスチック資源の選別・保管施設(中間処理施設)は区外民間施設が想定される。</p>	<p>○「資源」の日には古紙類やびん・缶、ペットボトルといった資源も排出されるため、集積所によっては排出容量が相当多くなり排出場所に支障を来す可能性がある</p>
(7)プラスチック資源の総合的な循環的利用の推進	<p>○区民アンケート調査では 85%以上の区民がプラスチック問題に関心があり、企業や国が必要な取組を進めるべきとの意見が多数となっている。 (図 3-4、図 3-5)</p> <p>○また、使い捨てプラスチックを減らすため、8 割以上の区民が「詰替ボトルの使用」や「レジ袋を買わない」といった行動を採っている。 (図 3-9~</p>	<p>○国際的な持続可能な社会への目標 (SDGs) や、国における「2050 年カーボンニュートラル」といった目標達成に寄与する観点から、企業や家庭におけるプラスチック類の使用削減・排出抑制策を進める必要がある。</p>

## 7.2 プラスチック資源分別収集導入方式の提案

### (1)導入方式

#### 全プラスチックを対象とした分別収集導入

前節の論点整理に見るように、プラスチック資源の分別収集導入によるごみの減量効果やCO<sub>2</sub>削減効果といった定量的効果は、いずれも全プラスチックを対象とするケース2が優れている。また、区民アンケート調査によると、ほぼ8割の区民が分別収集の導入に賛意を示しているものの、区民の分別への理解の得やすさの点においては全プラスチックを対象としたケース2が優れていると言える。

また、気候変動問題をはじめとする地球環境問題が深刻化する中、平成27年の「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議」(COP21)で採択された「パリ協定」において、2050年以降のカーボン・ニュートラル実現により、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃以下を保ち、1.5℃に抑える努力をすることが合意された。カーボン・ニュートラルの実現には化石燃料・資源依存からの脱却(脱炭素)が必要である。石油由来の資源であるプラスチック類も「ごみ問題」の面からだけでなく「脱炭素」の面からも使用量をなるべく減らし、循環的に利用することが求められている。

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、長期的にはいかなる形であれ石油由来のもの焼却は回避される方向に行くことは確実である。従って中長期的な視点からも、製品プラスチックを含めた分別収集体制の構築が求められるものと考ええる。

一方、全プラスチックを対象とした分別収集は、年間6億円程度の追加的費用が必要である。プラスチック一括回収に係る国の特別交付税の動向等に留意しつつ、収集運搬体制のさらなる効率化等について引き続き検討する必要がある。

### (2)導入スキームについて

#### プラスチック資源循環促進法第32条に基づく指定法人委託

製品プラスチック・プラスチック製容器包装を一括回収して再商品化を行う場合、プラスチック資源循環促進法では以下の2つのスキームがある(図7-1)。

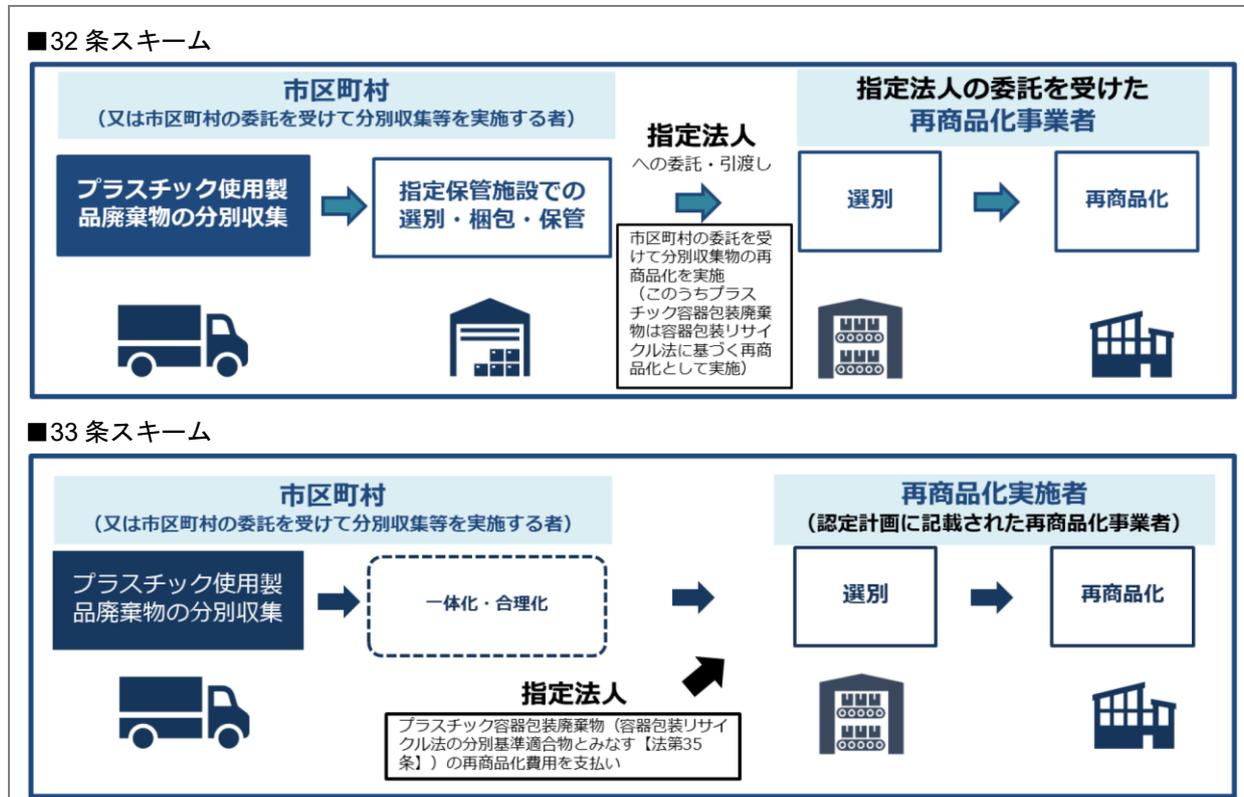
- 32条スキーム：指定法人(日本容器包装リサイクル協会)への委託
- 33条スキーム：再商品化事業者と連携して策定した再商品化計画に基づき、選別から再商品化までの工程を再商品化事業者へ委託

2つのスキームの内、33条スキームについては仙台市がJ&T環境株式会社と連携し、全国第1号の再商品化計画の認定を国から受け、令和5年4月から一括回収を開始する予定である。関東地域においてはまだ具体的導入事例がないため、本区においては32条スキームに基づく再商品化を実施することが現実的である。

ただし、33条スキームについては、選別・再商品化工程が一体化することによるコスト削減効果や、再商品化手法を市区町村が選択でき安定的なCO<sub>2</sub>削減効果が得られるメリットが期待される。プラスチック関連事業者団体や再商品化事業者が東京都の支援を受け、葛飾区や足立区、川口市を対象とした33条スキーム導入可能性について調査・検討を行った

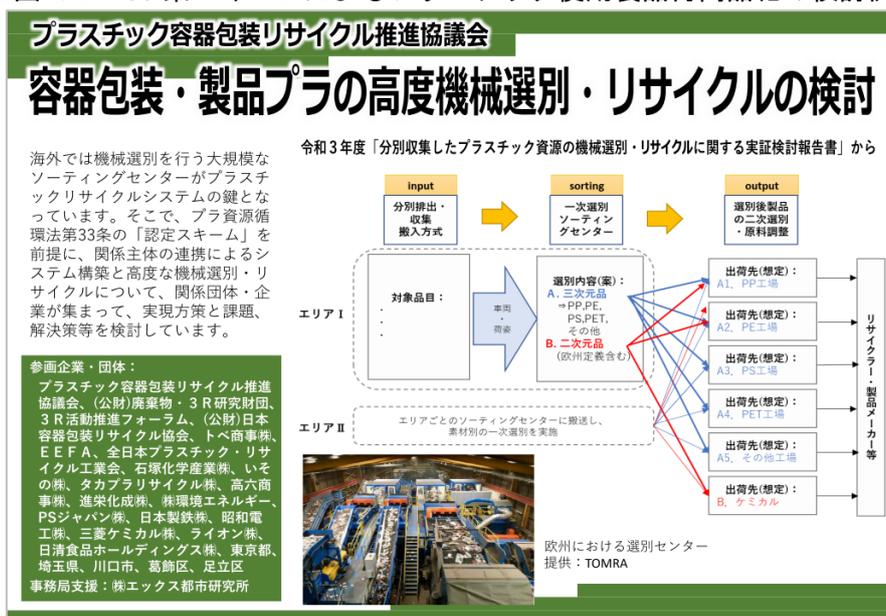
例もあり（図 7-2）、今後の動向について引き続き留意が必要である。

図 7-1 プラスチック資源の再商品化スキーム



資料：パンフレット「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律について」（経済産業省 環境省）

図 7-2 33 条スキームによるプラスチック使用製品再商品化の検討例



資料：プラスチック容器包装リサイクル推進協議会

### 7.3 その他分別収集導入に向けた提案

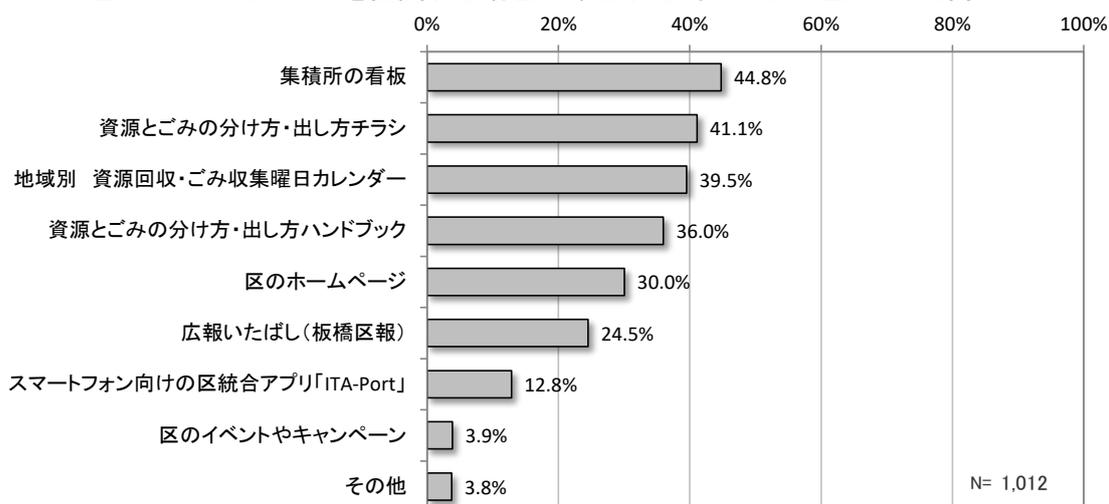
#### (1)分別変更に係る周知

区民アンケート調査によると、ごみの分け方・出し方に関する日常の情報源は、「地域別資源回収・ごみ収集曜日カレンダー」が41.0%と最も多く、次いで多いのが「集積所の看板」38.5%であった（図 3-19）。一方、プラスチックの分別変更など、資源・ごみ分別ルールの変更に関し希望する情報源としては「集積所の看板」が最も多く、44.8%であり、次いで「資源とごみの分け方・出し方チラシ」41.1%、「地域別 資源回収・ごみ収集曜日カレンダー」39.5%、「資源とごみの分け方・出し方ハンドブック」36.0%などとなっている。

集積所の看板はごみや資源を排出する時に必ず目に触れる情報であるため、普段行政が配布する紙情報に目を通さない無関心層も含め、分別ルールの変更やその内容に係る情報を届けるには、集積所看板の活用は大きなポイントとなる。

例えば、集積所看板にQRコードを付して、プラスチック分別ルールの追加情報をスマートフォン等で簡単に得られるようにするなどの方策を検討する必要がある。

図 7-3 分別ルールを変更する場合に希望する周知方法（図 3-20 再掲）



#### (2)洗浄等の基準などの周知

今回実施したモニター調査では非常に高い分別協力率が得られた反面、モニターアンケートでは汚れたプラスチックの洗浄の手間について指摘する意見が多く見られた（表 2-5）。

プラスチック資源のリサイクルにおいて、汚れが少ない、異物が少ないなどの分別品質の高さは大切なポイントであるが、全区的に分別収集を導入する際に「汚れを落とす」ことを強調しすぎると「排出の面倒さ」に繋がり、分別に協力する人の割合が減る恐れがある。

「汚れを落とすこと」よりも「汚れたものを入れないこと」に重点を置き、汚れたものを洗浄して出していただくに越したことはないが、「さっと洗えて落ちるもの」以外は可燃ごみに出すことを効果的に伝える必要がある。

同様に、アルミ蒸着のヨーグルトの蓋やポテトチップ袋、紙ラベルが貼られたプラスチッ

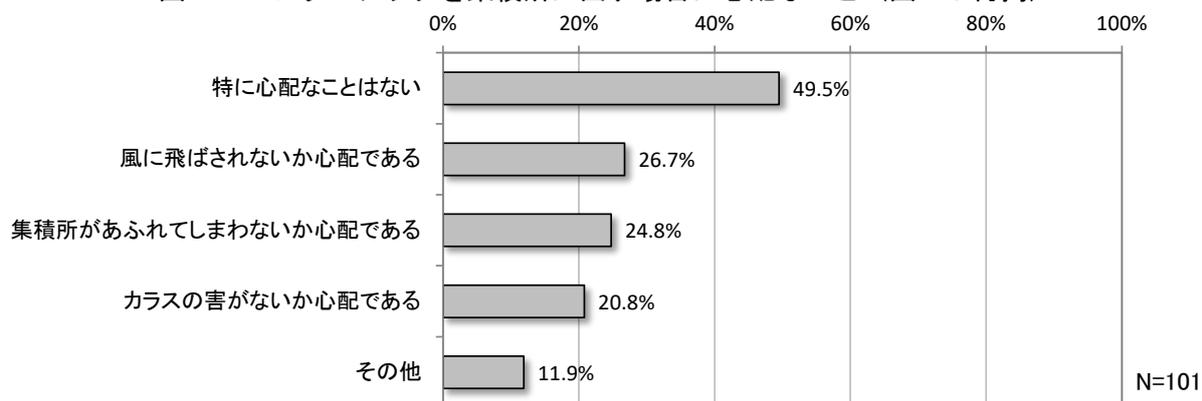
ク包装など、分別に迷うものについては可燃ごみへの排出を徹底することが必要である。

### (3)家庭内での保管・集積所への適正排出等に係る周知

モニター世帯へのアンケートでは、プラスチックの分別を実施した結果、「プラスチックごみの量に驚いた・気づいた」という意見が多く見られた。中には、週1回で少なく感ずるため週2回の収集にして欲しいとの意見もあった。プラスチック類は容積的にはその他の可燃物と同等かそれ以上の量が排出される場合があるため、家庭内での分別変更をスムーズに行っていただくため、「専用ごみ箱を用意」することを事前にアピールする必要がある。

集積所に排出することになった場合、モニターアンケートでは約半数が「特に心配なことはない」としているが、「風に飛ばされること」が心配とする意見が26.7%、「集積所があふれてしまわないか」は24.8%あった。集積所も利用世帯数によってはプラスチックごみが過大に排出される場所が生じることは否定できない。現時点で既にペットボトルが過大に排出されているなどの問題が生じている集積所を中心に注意が必要である。また、集合住宅は専用の集積所を設けているところが多く、事前に集中的な周知が必要である。不動産会社・管理会社に事前に連絡を取り、対応できるところについては、保管に十分なスペースを確保するよう周知することが望ましい。

図 7-4 プラスチックを集積所に出す場合に心配なこと（図 2-3 再掲）



### (4)その他

前項に述べたように、プラスチック資源の分別収集の導入は単にごみ減量・リサイクル推進の観点だけではなく、SDGs や 2050 年カーボン・ニュートラルといった地球規模の取組目標の達成のために導入するものである。また、海洋ごみ問題の主な原因が廃プラスチックにあることも報道等で広く知られているところである。

区民アンケート調査では、プラスチックごみ問題について「とても関心がある」「やや関心がある」という回答が合計で 85%以上上っており、その背後には上記の地球規模の環境問題への関心があると思われる。

従ってプラスチック資源の分別収集導入にあたっては、温室効果ガスの削減効果など地球環境問題との関連付けについても冊子や WEB ページ、説明会等において積極的に伝えていくことが望ましい。

1 モニター世帯アンケート調査票

11月11日(金)までに  
ご投函ください。

板橋区 廃プラスチックの分別収集導入検討調査  
モニター世帯アンケート調査

このたびは廃プラスチックの分別収集導入検討調査へのご協力をいただき誠にありがとうございました。

モニター調査の終了にあたり、御協力いただきました皆様のご意見、ご感想をお聞かせください。お手数ですがご協力のほどよろしく願いいたします。

問1. プラスチック分別（案）について

問1(1) プラスチックの分別排出を実際に行っていたかがでしたか。(1つに○)

- |                    |            |
|--------------------|------------|
| 1. 簡単だった。面倒に思わなかった | } → 問1(2)へ |
| 2. 多少面倒だった         |            |
| 3. とても面倒だった        |            |

問1(2) 「多少面倒だった」「とても面倒だった」理由は何ですか。(○はいくつでも)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1. 分別が分からない、迷う品目があったこと            |
| 2. 汚れたプラスチックを洗うこと                 |
| 3. 収集日まで保管すること                    |
| 4. プラスチックを分けるための容器（ごみ箱）を自前で用意すること |
| 5. 家族が協力してくれなかったこと                |
| 6. その他（具体的に )                     |

問1(3) モニター調査ではプラスチックを玄関先等の指定場所に出していただきましたが、集積所に出すことになった場合、心配なことはありますか。  
(○はいくつでも)

- |                        |
|------------------------|
| 1. 風に飛ばされないか心配である      |
| 2. 集積所があふれてしまわないか心配である |
| 3. カラスの害がないか心配である      |
| 4. その他（具体的に )          |
| 5. 特に心配なことはない          |

問1(4) 分別に迷った品目があれば、下表にご記入ください。(記入例を参照)

品目	分別に迷った理由
(例) 納豆の容器	汚れをどの程度落とせばよいのか。

問2. プラスチックを資源として分別収集することについてお聞きします。

問2(1) プラスチックを資源として分別し、週1回収集することについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1. 進んで実施すべき	}	→問2(2)へ
2. できる範囲で実施すべき		
3. 必要ない	}	→問2(3)へ
4. わからない		

問2(2) 前問2(1)で1.または2.を選んだ方にお聞きします。

「実施すべき」と思う理由は何ですか。あなたの考えに近いものに○を付けてください。(○は1つ)

1. ごみの減量や温室効果ガス(CO <sub>2</sub> )排出量の削減につながるため
2. 区民のリサイクル意識のさらなる向上につながるため
3. 具体的なことはよくわからないが、環境に優しい施策ならばやるべきと思うため
4. 他自治体を実施しているので、板橋区もやるべきと思うため
5. その他(具体的に )

問2(3) 問2(1)で3.または4.を選んだ方にお聞きします。

「必要ない」「わからない」と思う理由は何ですか。あなたの考えに近いものに○をつけてください。(○は1つ)

1. 分別の手間が増えるため(可燃ごみとして出す方が楽)
2. 現在の処理方法(熱回収)の方が効果的・効率的だと思うため
3. 分別収集することで得られる効果がよくわからず、判断できないため
4. その他(具体的に )

問2(4) プラスチックを資源として分別収集する場合、区民の方への効果的な周知方法は何かと思いますか。(○はいくつでも)

1. 資源とごみの分け方・出し方ハンドブック(※1)
2. スマートフォン向けの区統合アプリ「ITA-Port」(※2)
3. 地域別 資源回収・ごみ収集曜日カレンダー
4. 資源とごみの分け方・出し方外国語版チラシ
5. 集積所の看板
6. 区のイベントやキャンペーン
7. 広報いたばし(板橋区報)
8. 区のホームページ
9. その他(具体的に )

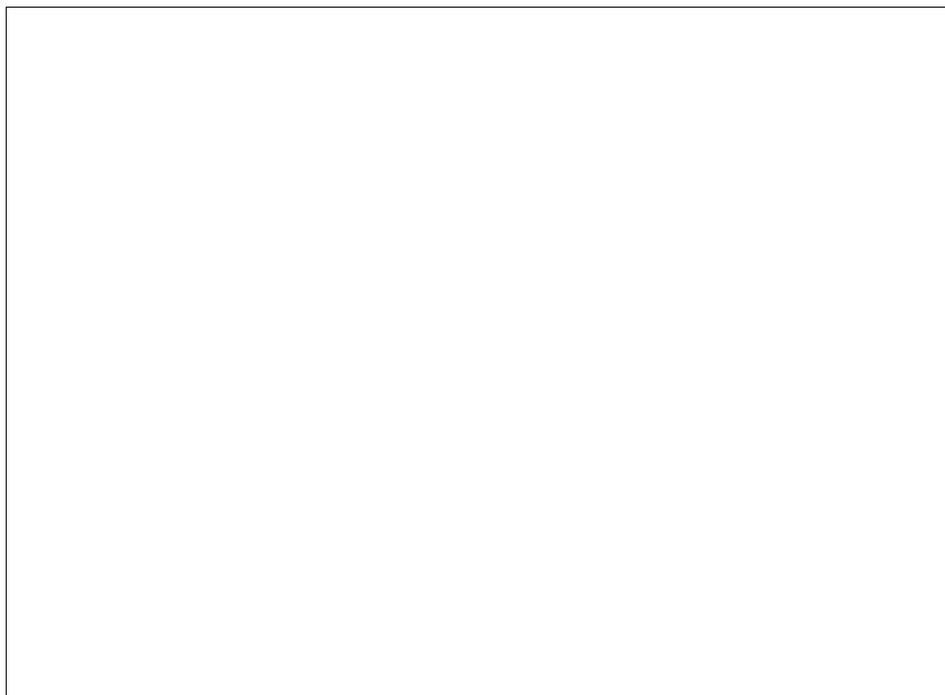
※1 資源とごみの分け方・出し方ハンドブック



※2 板橋区統合アプリ「ITA-Port」は、ごみ・資源に関するお知らせ機能のほか、公共施設の検索やイベントのお知らせ機能など、区のさまざまな情報を紹介する機能を搭載しています。アプリは下の QR コードからダウンロードできます。



問3. その他、今回のモニター調査やプラスチックの分別収集について、  
ご感想・ご意見等ございましたらご記入ください。(自由記入)



これで質問は以上です。ご回答いただき誠にありがとうございました。

## 2 区民アンケート調査票

### 廃プラスチック分別収集に関する区民アンケート調査

#### 記入上のご注意

- 1) 世帯の中で「日頃ごみを取り扱われる方」がお答えください。
- 2) 質問に対しあてはまる番号に○をつけてください。  
○の数が指定してある場合は、その数だけ○をつけてください。  
「その他」を選ばれた場合は、具体的にご記入ください。  
あてはまるものがない場合は記入不要です。
- 3) ご記入後、切手を貼らずに、同封の返信用封筒に三つ折りにして入れてご投函ください。
- 4) ご返送は、**令和4年8月8日（月）**までをお願いいたします。

#### 問1 プラスチックごみ問題についてお聞きします。

※プラスチック類は、「容器包装プラスチック」や「プラスチック製品」など日常のあらゆる場面に使われ、生活に不可欠なものとなっています。  
一方で、プラスチック類はリサイクルするのに費用がかかるほか、ごみとして焼却した場合、温室効果ガス（CO<sub>2</sub>）が発生します。また、海洋プラスチックごみ問題に見られるように、プラスチックごみの削減は世界的な取り組み課題となっています。



#### 問1-1 あなたはプラスチックごみ問題について関心がありますか。（○は1つ）

1. とても関心がある
2. やや関心がある
3. あまり関心は無い
4. 全く関心は無い

問1-2 プラスチックごみを減らすには、企業、消費者（区民）、国・都・区といった行政の取組が重要となりますが、その優先順位をどのように考えますか。  
下欄で順位付けして下さい。（○は重複しないよう1つずつ）

取り組みを行う主体	重要度の順位
(1) 企業（製造・販売事業者など）	1. 一番目    2. 二番目 3. 三番目    4. 四番目
(2) 消費者（区民）	1. 一番目    2. 二番目 3. 三番目    4. 四番目
(3) 国・都（法律や条令を作るなど）	1. 一番目    2. 二番目 3. 三番目    4. 四番目
(4) 区（プラスチックごみのリサイクルを行うなど）	1. 一番目    2. 二番目 3. 三番目    4. 四番目

問1-3 プラスチックごみの問題を解決する方向性として、あなたのお考えに近いものをお選びください。（○は1つ）

1. 消費者の利便性が低下してでも、プラスチック類の製造や利用を規制すべきと思う
2. 消費者の利便性が低下しない範囲で、企業がプラスチック類の製造や利用を減らし、消費者もプラスチック類の使用削減に協力すべきと思う
3. プラスチックは資源として区が分別し、リサイクルすべきと思う
4. プラスチックごみはリサイクルするよりも、焼却して熱エネルギーを有効利用すべきと思う
5. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

※令和4年4月1日、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラスチック資源循環促進法またはプラ新法）」が施行されました。  
この法律は、海洋プラスチックごみ問題や気候変動問題などの解決に向け、無駄なプラスチック製品の使用を少なくし、プラスチックごみのリサイクルを進めることを目指すものです。

問1-4 あなたは、「プラスチック資源循環促進法」が施行されたことをご存じでしたか。（○は1つ）

1. 知っている。興味を持っている
2. 聞いたことはある
3. 知らなかった

問1-5 コンビニや飲食店では使い捨てのストロー・スプーンを廃止したり、ホテルではクシや歯ブラシといったアメニティを希望者のみに渡すなど、企業でもプラスチックごみ削減に向けた取組が始まっています。これについてどのように思いますか。(〇は1つ)

1. 知っており、協力したい。(マイカップやストロー不要の申し出など)
2. 知っているが、協力には消極的である
3. 知らなかったが、機会があれば協力したい
4. 知らなかった
5. その他(具体的に )

問1-6 使い捨てプラスチックを減らすために、あなたが取り組んでいきたいことに〇を付けてください。(〇はいくつでも)

1. 肉や野菜といった生鮮食品は、なるべくラップやトレイが少ないもの、使われていないものを選ぶ
2. お菓子や加工食品は、なるべく個包装されていないものを選ぶ
3. シャンプーや洗剤などは詰替ボトルを利用する
4. 買い物袋を持参し、レジ袋は買わない
5. スーパーマーケットなど買い物の際、余分なポリ袋はもらわない
6. 使い捨てのスプーンやフォーク、ストロー、皿やカップはもらわないようにする
7. プラスチック製の日用品はできる限り長く使用する
8. 再生プラスチックが使われた製品(文房具など)を選ぶ
9. マイボトルを持ち歩き、なるべくペットボトルは買わない
10. 発泡トレイやペットボトルなどはスーパーマーケットなどの店頭回収を利用する
11. その他(具体的に )

問1-7 普段の生活の中で、減らすのは難しい(他のものでは代替出来ない、欠かせない)と思う使い捨てプラスチックは何ですか。以下からお選びください。(〇はいくつでも)

1. 野菜や果物の袋・ラップ
2. 肉などの食料品のトレイ
3. レジ袋
4. スーパーマーケットなどが提供するポリ袋
5. 使い捨てのスプーンやフォーク、ストロー、皿やカップ
6. ペットボトル
7. その他(具体的に )

問2 プラスチックごみの分別収集・リサイクルについてお聞きします。

**※以下をよくお読みの上、設問にお答えください。**

板橋区ではペットボトルを除くプラスチックごみは、可燃ごみとして出していただき、焼却処理・熱回収しています。ただし食品用トレイ・ボトル容器は、地域センターなどの公共施設を中心に回収ボックスを設定して拠点回収しています。

しかし、気候変動問題が深刻さを増す中、CO<sub>2</sub>発生を少なくするため、プラスチックごみを焼却するのではなく資源物としてリサイクルすることが世界的な潮流となっており、板橋区でもプラスチックごみを可燃ごみから「資源物」に変更し、週1回分別収集することを検討しています。

なお、東京23区では、2022年7月現在13区で週1回のプラスチックごみの分別収集を行っています。

問2-1 プラスチックごみを資源として分別し、週1回収することについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

- |                |   |        |
|----------------|---|--------|
| 1. 進んで実施すべき    | } | →問2-2へ |
| 2. できる範囲で実施すべき |   |        |
| 3. 必要ない        | } | →問2-3へ |
| 4. わからない       |   |        |

問2-2 前問2-1で1.または2.を選んだ方にお聞きします。

「実施すべき」と思う理由は何ですか。あなたの考えに近いものに〇を付けてください。(〇は1つ)

- |  |
|--|
| 1. ごみの減量や温室効果ガス(CO <sub>2</sub> )排出量の削減につながるため |
| 2. 区民のリサイクル意識のさらなる向上につながるため                    |
| 3. 具体的なことはよくわからないが、環境に優しい施策ならばやるべきと思うため        |
| 4. 他自治体を実施しているので、板橋区もやるべきと思うため                 |
| 5. その他(具体的に )                                  |

問2-3 問2-1で3.または4.を選んだ方にお聞きします。

「必要ない」「わからない」と思う理由は何ですか。あなたの考えに近いものに〇をつけてください。(〇は1つ)

- |                                    |
|------------------------------------|
| 1. 分別の手間が増えるため(可燃ごみとして出す方が楽なため)    |
| 2. 現在の処理方法(熱回収)の方が効果的・効率的だと思うため    |
| 3. 分別収集することで得られる効果がよくわからず、判断できないため |
| 4. その他(具体的に )                      |

問2-4 すべての方にお聞きします。

プラスチックごみを資源として週1回分別収集する場合、紙や金属などの異物が入らないようにしていただくほか、食品などで汚れたプラスチックについては、水で洗うなど付着物を除いていただく必要があります。

このような手間についてどのように思いますか。(○は1つ)

1. 特に手間とは思わない
2. 手間だとは思うが、できる限り協力したい
3. 手間だと思うので、あまり協力したくない
4. 協力できるかわからない

問2-5 区では、食品用トレイ、ボトル容器、電池、紙パック、古着・古布、廃食用油、小型家電の拠点回収を、地域センターなどの公共施設を中心に行っています。

あなたはこれらの拠点回収を利用していますか。(○は1つ)

利用している場合、その品目もあわせてお選びください。(○はいくつでも)

1. 利用していない
  2. 利用している
- ↳ 拠点回収をご利用の品目をお選びください(○はいくつでも)
- |           |          |         |
|-----------|----------|---------|
| 1. 食品用トレイ | 2. ボトル容器 | 3. 電池   |
| 4. 紙パック   | 5. 古着・古布 | 6. 廃食用油 |
| 7. 小型家電   |          |         |

問2-6 食品用トレイとボトル容器の拠点回収を廃止したら困ることはありますか。(○は1つ)

困る場合の理由もあわせてお選びください。(○はいくつでも)

1. 特に困らない
  2. 困ることはある
- ↳ 困る理由をお選びください(○はいくつでも)
- |                        |
|------------------------|
| 1. 曜日を気にせずいつでも出せなくなる   |
| 2. 家の中の保管が大変になる        |
| 3. 習慣になっているので急には変えられない |
| 4. その他(具体的に )          |

問2-7 プラスチックごみを資源として週1回分別収集する場合、分別に迷いそうな品目がありましたら以下ご自由に記入してください。(例: プラスチックか紙か判別できない袋、アルミのような銀色の袋、汚れの程度、金属が混在しているものや電池が内蔵されているおもちゃ、など)

問3 普段のごみ出しや資源分別についてお聞きします。

問3-1 あなたは、ごみの分け方・出し方やごみの減量に関する情報を主にどこから入手していますか。(〇はいくつでも)

1. 資源とごみの分け方・出し方ハンドブック
2. スマートフォン向けの区統合アプリ「ITA-Port」(※)
3. 地域別 資源回収・ごみ収集曜日カレンダー
4. 資源とごみの分け方・出し方チラシ
5. 集積所の看板
6. 区のイベントやキャンペーン
7. 広報いたばし(板橋区報)
8. 区のホームページ
9. その他(具体的に )

問3-2 プラスチックを資源として分別するなど、資源・ごみ分別ルールの変更に関する情報はどこから入手したいですか。(〇はいくつでも)

1. 資源とごみの分け方・出し方ハンドブック
2. スマートフォン向けの区統合アプリ「ITA-Port」(※)
3. 地域別 資源回収・ごみ収集曜日カレンダー
4. 資源とごみの分け方・出し方チラシ
5. 集積所の看板
6. 区のイベントやキャンペーン
7. 広報いたばし(板橋区報)
8. 区のホームページ
9. その他(具体的に )

※板橋区統合アプリ「ITA-Port」は、ごみ・資源に関するお知らせ機能のほか、公共施設の検索やイベントのお知らせ機能など、区のさまざまな情報を紹介する機能を搭載しています。アプリは右のQRコードからダウンロードできます。



6

問4 あなたご自身とご家庭についてお聞きします。

あなたの年代 (○は1つ)	1. 10歳代    2. 20歳代    3. 30歳代    4. 40歳代 5. 50歳代    6. 60歳代    7. 70歳以上
お住まいの住居 (○は1つ)	1. 戸建て住宅 2. ごみの保管場所のある集合住宅等 3. ごみの保管場所のない集合住宅等 4. 店舗・事業所付き住宅 5. その他(具体的に )
あなたも含む同居者 人数(○は1つ)	1. 1人    2. 2人    3. 3人 4. 4人    5. 5人以上
お住まいの町名 (丁目を除く)	1. 相生町    2. 赤塚    3. 赤塚新町    4. 小豆沢 5. 泉町    6. 板橋    7. 稲荷台    8. 大原町 9. 大谷口    10. 大谷口上町    11. 大谷口北町    12. 大山金井町 13. 大山東町    14. 大山西町    15. 大山町    16. 加賀 17. 上板橋    18. 熊野町    19. 小茂根    20. 幸町 21. 栄町    22. 坂下    23. 桜川    24. 清水町 25. 志村    26. 新河岸    27. 大門    28. 高島平 29. 東新町    30. 常盤台    31. 徳丸    32. 中板橋 33. 仲宿    34. 中台    35. 仲町    36. 中丸町 37. 成増    38. 西台    39. 蓮沼町    40. 蓮根 41. 氷川町    42. 東坂下    43. 東山町    44. 富士見町 45. 双葉町    46. 舟渡    47. 本町    48. 前野町 49. 三園    50. 南町    51. 南常盤台    52. 宮本町 53. 向原    54. 大和町    55. 弥生町    56. 四葉 57. 若木

問5 ごみ問題やリサイクルに関するご意見・ご要望等がございましたら、下の欄にご自由にお書きください。

これで質問は終わりです。たくさんの質問にお答えいただき、ありがとうございました。